# 那可了了

- 那珂遺跡群149次調查報告 -

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1287集

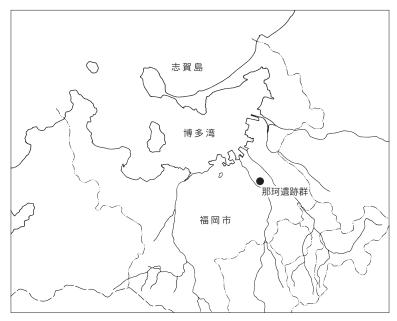
2016

福岡市教育委員会

# 那可了方

# - 那珂遺跡群149次調查報告 -

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1287集



調査番号 1 4 0 1 遺跡記号 NAK-149

2016

福岡市教育委員会



調査区全景 (北から)



1)65号井戸断面(北から)



2)12号井戸断面(南から)

はるか二千年余の昔から大陸文化の窓口として栄えた福岡市は、二十一世 紀の今日もアジアに開かれた都市として、更なる発展を目指してさかんに都 市開発が推し進められています。それに伴ってやむなく失われる埋蔵文化財 については、将来にわたって記録を保存するための発掘調査をおこなってい ます。

本書は、福岡市博多区竹下五丁目で集合住宅が建設されるのに伴って実施 した那珂遺跡群第149次調査の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、弥生時代から古墳時代の井戸や竪穴住居、大溝と中世の井戸や土坑・溝などの集落に伴う遺構が発見されました。なかでも弥生時代の大溝は、西へ矩形に延びて320m余も続き、その覆土中からは銅戈などの青銅器の鋳型が出土しています。また、弥生時代と中世の井戸は、同じ素掘りの井戸ながらその規模や構造に大きな違いが観られ、井戸を研究する上で貴重な資料となるものです。

本書は、これらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が市民のみなさんに広く活用され、埋蔵文化財保護に対するご理解の一助になるとともに、 学術研究に活用していただければ幸いです。調査に際しご理解をいただきました株式会社タイへイ様には心よりお礼申し上げます。

また、発掘調査から整理報告までの間には、多くの方々のご指導とご協力をいただきました。記して心から感謝の意を表する次第であります。

平成28年3月25日

福岡市教育委員会 教育長 酒 井 龍 彦

- 1. 本書は、福岡市教育委員会が集合住宅の建築に先立って、平成 26 (2014) 年4月7日~8月8日までに福岡市博多区竹下五丁目 290番で緊急発掘 調査した那珂遺跡群第 149 次調査の発掘調査報告書である。
- 2. 本書に使用した方位はすべて磁北方位である。
- 3. 遺構は、竪穴住居を SC、井戸を SE、土坑を SK、溝状遺構を SD、ピットは SP と記号化して呼称し、その後にすべての遺構を通番して 01 からナンバーを付した。
- 4. 本書に掲載した遺構の実測と製図は小林義彦が、遺物の実測と製図は小林と谷直子が作成した。
- 5. 本書に掲載した遺構と遺物の写真は小林が撮影した。ただし、全景写真は I 区と I 区を分割して撮影したものを CG 合成した。
- 6. 本書の執筆は、主に小林が行ったが、12・63 号井戸出土の木製品は谷が 執筆した。また、銅戈の鋳型については田尻義了(九州大学アジア埋蔵 文化財研究センター准教授)氏の玉稿をいただいた。編集は小林と谷が 協議して行った。
- 7. 本書に係わる遺物と記録類は一括して埋蔵文化財センターに保管している。

調査番号:1401 遺跡略号:NAK-149 分布地図番号:024-0085

調査地籍:福岡市博多区竹下五丁目290番

工事面積:1,335㎡ 調査対象面積:659㎡ 調査実施面積:599㎡

調査期間:2014年4月7日~8月8日

# 本文目次

	1.
1	₹.
1	77

Ι.	はじ	こめに	1
	1.	発掘調査にいたるまで	1
	2.	発掘調査の組織	1
	3.	立地と歴史的環境	3
${\rm I\hspace{1em}I}.$	調査	至の記録	7
	1.	調査の概要	7
	2.	弥生時代の調査	11
		1) 井戸	11
		2) 溝	14
	3.	古墳時代から古代の調査	27
		1) 竪穴住居	27
		2) 土坑	26
	4.	中世の調査	28
		1) 井戸	29
		2) 土坑	30
		3) 溝	41
	5.	そのほかの遺構と包含層の遺物	42
${\rm I\hspace{1em}I}.$	おれ	つりに	42
付詣	î 荆	『珂遺跡群第149次調査出土の中細形銅戈鋳型について(田尻義了)	53
挿	図	目次	
Fig.	1	周辺遺跡分布図(1/25,000)	2
Fig.	2	那珂遺跡群位置図(1/10,000)	4
Fig.	3	那珂遺跡群第149次調査区位置図(1/800) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5
Fig.	4	那珂遺跡群第149次調査区周辺現況図(1/400)	6
Fig.	5	遺構配置図(1/200)	10
Fig.	6	弥生時代の遺構配置図(1/400)	11
Fig.	7	65・122号井戸実測図(1/40)	11
Fig.	8	122号井戸出土遺物実測図(1/4)	12

Fig. 9	82号溝実測図(1/100)	13
Fig.10	82号溝土層断面実測図(1/60)	14
Fig.11	82号溝上層出土遺物実測図 (1/2·1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	15
Fig.12	82号溝中層出土遺物実測図 1 (1/4)	16
Fig.13	82号溝中層出土遺物実測図 2 (1/4)	17
Fig.14	82号溝中層出土遺物実測図 3 (1/4)	18
Fig.15	82号溝中層出土遺物実測図 4 (1/4)	19
Fig.16	82号溝中層出土遺物実測図 5 (1/4·1/8) ····································	20
Fig.17	82号溝中層出土遺物実測図 6 (1/4)	21
Fig.18	82号溝中層出土遺物実測図 7 (1/4)	22
Fig.19	82号溝中層出土遺物実測図 8 (1/4)	23
Fig.20	82号溝中層出土遺物実測図 9 (1/4)	24
Fig.21	82号溝下層出土遺物実測図(1/4)	25
Fig.22	82号溝出土遺物実測図 1 (1/1・1/3・1/4)	26
Fig.23	82号溝出土遺物実測図 2 (1/3)	27
Fig.24	古墳時代から古代の遺構配置図(1/400) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
Fig.25	8 · 14 · 17号住居実測図(1/60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28
Fig.26	17号住居出土遺物実測図(1/3)	29
Fig.27	19・64・106号土坑実測図(1/40)	29
Fig.28	中世の遺構配置図(1/400)	30
Fig.29	2 号井戸実測図(1/40)	31
Fig.30	2号井戸出土遺物実測図(1/4)	31
Fig.31	12号井戸実測図(1/40)	32
Fig.32	12号井戸遺物出土状況実測図(1/20)	32
Fig.33	12号井戸出土遺物実測図(1/2·1/4·1/8) ····································	33
Fig.34	13号井戸実測図(1/40)	34
Fig.35	63号井戸実測図(1/40)	35
Fig.36	63号井戸出土遺物実測図(1/4・1/8)	36
Fig.37	4 号土坑実測図(1/30)	37
Fig.38	4 号土坑出土遺物実測図(1/3)	37
Fig.39	11号土坑実測図(1/40)	37
Fig.40	15·16·25·60·61·62·123号土坑実測図(1/40)	38
Fig.41	81号土坑実測図(1/40)	39
Fig.42	81号土坑出土遺物実測図(1/2·1/4)	39

Fig.43	1 · 3 · 10 · 20 · 21 · 22号溝実測図(1/100 · 1/200) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	40
Fig.44	3 号溝土層断面実測図(1/40)	41
Fig.45	3 号溝出土遺物実測図 (1/2)	41
Fig.46	20号溝出土遺物実測図 (1/4)	41
Fig.47	その他の遺構と包含層出土遺物実測図 (1/1·1/3)	42
Fig.48	那珂149次調査区周辺の弥生時代遺構分布図(1/2000)	43
Fig.49	那珂遺跡群第149次調査区周辺出土鋳造関連遺物(1/3)	54
Fig.50	那珂遺跡群第149次調査区周辺出土鋳造関連遺物分布図	55
Fig.51	製品との重ね合せ図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
表目	<i>'\</i> \r'	
110		
Tab. 1	那珂遺跡群発掘調査一覧表 1	7
Tab. 2	那珂遺跡群発掘調査一覧表 2	8
Tab. 3	那珂遺跡群発掘調査一覧表 3	9
Tab. 4	出土土器観察表 1	44
Tab. 5	出土土器観察表 2	45
Tab. 6	出土土器観察表 3	46
Tab. 7	出土土器観察表 4	47
Tab. 8	出土土器観察表 5	48
Tab. 9	出土土器観察表 6	49
Tab.10	出土土器観察表 7	50
Tab.11	出土土器観察表 8	51
Tab.12	出土土器観察表 9	52

# 図版目次

巻頭図版 1	調査区全景	(北から)	)
--------	-------	-------	---

巻頭図版 2 1)65号井戸断面(北から) 2)12号井戸断面(南から)

PL. 1 1) I区全景(西から)

PL. 2 1)65・122号井戸断面(北から)

3) 122号井戸遺物出土状況(北から)

- 2) Ⅱ区全景(北から)
- 2)65号井戸遺物出土状況(北から)

PL. 3	1)82号溝全景 (西から)	2)	82号溝土層断面(南から)
	3) 82号溝北端部上層遺物出土状況(西から)		
PL. 4	1) 82号溝北端部上層遺物出土状況(北から)		
	2) 82号溝北端部上層紡錘車出土状況(南から)		
	3) 82号溝中層遺物出土状況 (南から)		
PL. 5	1)82号溝中層遺物出土状況(北から)	2)	82号溝中層遺物出土状況(南から)
	3)82号溝中層遺物出土状況(東から)		
PL. 6	1)82号溝中層遺物出土状況(東から)	2)	82号溝中層遺物出土状況(東から)
	3) 82号溝中層石錘未製品出土状況(南から)		
PL. 7	1) 8・17号住居(南から)	2)	9・14号住居、11号土坑(東から)
	3) 19号土坑 (東から)		
PL. 8	1)64号土坑(北から)	2)	64号土坑(東から)
	3) 106号土坑(南から)		
PL. 9	1) 2号井戸(東から)	2)	2号井戸(北から)
	3) 2号井戸断面(西から)		
PL.10	1) 12・13・63号井戸、15号土坑(北から)	2)	12号井戸断面(南から)
	3) 12号井戸底遺物出土状況(南から)		
PL.11	1) 12号井戸底遺物出土状況(南から)	2)	12号井戸ザル出土状況(南から)
	3) 12号井戸鋤・曲げ物出土状況(東から)		
PL.12	1) 13・63号井戸 (北から)	2)	13号井戸(北から)
	3)13号井戸断面(南から)		
PL.13	1)63号井戸断面(南から)	2)	63号井戸底遺物出土状況(南から)
	3) 15号土坑から63号井戸への流水路(南から)		
PL.14	1) 4号土坑(東から)	2)	11号土坑(西から)
	3) 15号土坑(北から)		
PL.15	1) 16号土坑(北から)	2)	25号土坑 (東から)
	3)81号土坑 (西から)		
PL.16	1)1号溝(北東から)	2)	3号溝(東から)
	3) 10・20・21号溝 (東から)		
PL.17	出土遺物 (縮尺不同)		
PL.18	出土遺物 (縮尺不同)		

# I. はじめに

# 1. 発掘調査にいたるまで

那珂遺跡群は、福岡平野の東西を北流する那珂川と御笠川の両河に挟まれて長くのびる春日丘陵の 北部に位置し、昭和40年代にはのどかな田園風景が広がっていた。しかし、急速に進む郊外の市街化 で丘陵上は宅地化し、更には筑紫通りなどの整備によって建物の高層化が進んでいる。竹下5丁目周 辺は、JR九州鹿児島線の竹下駅に近く竹下通りに面した利便性の高い地域で商業施設や高層化した マンションが建ち並び、昔日ののどかな田園風景は次第に失われつつある。

那珂遺跡群の立地する那珂丘陵は、春日丘陵から比恵へと延びる低丘陵の中の一支丘で、周辺の発掘調査例からその丘陵上には弥生時代や古墳時代、古代の遺構が濃密に広がっている。那珂1丁目から竹下5丁目は、この那珂丘陵の真っ只中にあり、近隣の調査例から遺構の存在が十分に予測された。平成17(2005)年に、この竹下五丁目290番の地での開発が計画され、埋蔵文化財の有無についての照会が申請された。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財の包蔵地内であることから平成17(2005)年9月13日に確認調査を実施した。その結果、申請地内には弥生時代や古墳時代および中世の遺構が広がっていることが確認され、遺構の保全について申請者と協議したが、協議半ばで開発計画が中止になり、沙汰止みとなった。そのような状況下の平成25(2013)年9月13日に株式会社タイへイから当該地に高層住宅の建設計画案が示された。この地は、平成17年の確認調査で遺構が確認されていることから基礎工事によって埋蔵文化財が破壊を免れない部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。この合意に基づいて申請者を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、平成26年度に発掘調査を、また平成27年度に資料整理と発掘調査報告書の作成を行うこととなった。

発掘調査は、平成26(2014) 4月7日から開始し、8月8日に調査を終了した。この年は、雨の日が多く、殊に梅雨末期から盂蘭盆までは連日の雨で調査に支障が生じた。この悪条件下でも調査を終了できたのは作業に従事した方々や関係者諸氏の協力によるところが大きい。改めて謝意を表します。

### 2. 発掘調査の組織

委 託 者 株式会社 タイヘイ

調査主体 福岡市教育委員会

調査総括 文化財部埋蔵文化財調査課

埋 蔵 文 化 財 調 査 課 長 常松幹雄

調査庶務 埋蔵文化財審査課管理係 横田 忍

調查担当 埋蔵文化財調査課調査第1係 小林義彦

埋蔵文化財調査課調査第1係長

技能員 谷 直子

調査・整理作業 伊藤美伸 上原尚子 浦崎でい子 坂梨美紀 高瀬美智子 田中朋香 田中トミ子 知花繁代 遠山 勲 土斐崎孝子 西田文子 濱フミコ 日高芳子 藤木久美 北條こず江 増田ヒロ子 松下さゆり 松下楓季 柗田典子 宮元亜希世 森田祐子 山本加奈子 渡部律子

吉武 学

発掘調査および資料整理にあたっては、常松幹雄・吉武学(福岡市埋蔵文化財調査課)・米倉秀紀 (埋蔵文化財審査課)の各氏から貴重な指導と助言を頂いた。また、金属器および木製品の保存処理 は福岡市埋蔵文化財センターの田上勇一郎・上角智希が実施した。改めて謝意を表します。

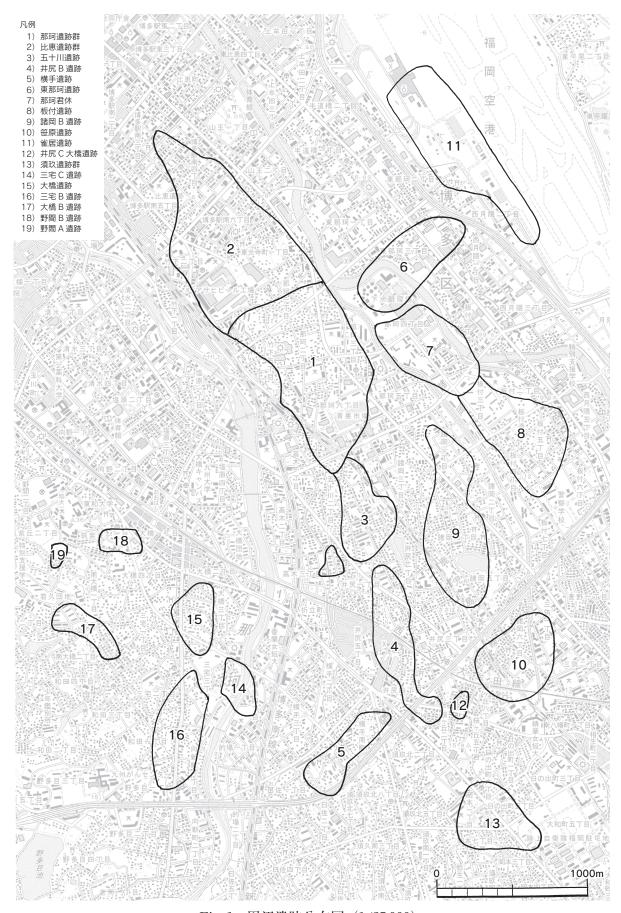


Fig. 1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

# 3. 立地と歴史的環境

那珂遺跡群のある福岡平野は、三方を三郡山系や背振山系からのびる小山塊に囲まれ、北は玄界灘に向かって開口する博多湾に面した沖積平野である。この福岡平野には那珂川と御笠川が北流して博多湾に注ぎ込み、その両川の間には観音山や牛頸から派生して断続的に長くのびる洪積台地が形成されている。春日丘陵と総称されるこの洪積台地は、花崗岩風化礫層を基盤とし、その上層には阿蘇山の火砕流による八女粘土層と鳥栖ローム層が堆積している。この春日丘陵は、奴国王の王墓地とされる須玖岡本から井尻、五十川を経て那珂、比恵へと続いて博多湾の海岸砂丘に北面しており、それらの丘陵上には、後期旧石器時代から中世にかけての遺跡が連綿と複合的に展開している。殊に、弥生時代から古代にかけては濃密な分布状況を示している。

那珂遺跡群は、この春日丘陵の北部に位置し、比恵遺跡群と連続して同じ丘陵上に立地しており、 その東には御笠川が、また西には那珂川は北流しており、丘陵の裾部には両河によって造り出された 開析谷が幾筋も弯入している。那珂遺跡群は、この南北に長く連なる比恵・那珂遺跡群の南半部に位 置し、比恵遺跡群とは、浅い鞍部を境として北半部を比恵遺跡群、南半部を那珂遺跡群と便宜的に呼 称している。

この那珂丘陵の中央部の尾根線上の最高所には、福岡平野で最古期の前方後円墳である那珂八幡古墳があり、その北西には東光寺剣塚古墳が、また南西部には前方後方墳や円墳群が広がっている。この尾根線を境として丘陵は、東西の大河にむかって緩やかに緩傾斜し、その間には可耕地としての低湿地帯が広がり、裾野には両川の開析による細長い開析谷が幾筋も弯入している。

この那珂・比恵遺跡群では、1938(昭和13)年の区画整理時に発見された環濠集落(1次調査区)の調査以来、これまでに300カ所に及ぶ地点で発掘調査が実施され、台地上において連綿と営まれた各時代の集落や墳墓地の様相が次第に明らかになりつつある。ここで那珂遺跡群を概観すると、丘陵の南東縁(38・41次調査区)で、ナイフ形石器や彫器、剥片などの旧石器時代の遺物が出土しているが、散逸的な分布を示すにすぎない。

次の縄文時代も早期から晩期前半までは、石鏃や石匙、土器片などが断片的に出土しているが、遺構に伴った明確なものはなく、その在り様は前時代と大差はない。この傾向は、比恵遺跡群においても同様である。

これが弥生時代なると一変し、台地の縁辺部で竪穴住居や貯蔵穴群などの遺構が広がり、開析谷に面した緩斜面には土器や石器、木器を伴う包含層が形成される。集落域は尾根上へと次第に拡大していく。台地の南西縁(37次調査区)に夜臼期から前期前半の二重環濠集落が営まれる。また、中央部の尾根上(67次調査区)でも貯蔵穴群を伴った環壕集落が営まれ、北西縁のアサヒビール工場内や東縁部にも貯蔵穴群が広っている。前期後半から中期になると集落域は、縁辺部から尾根上へと次第に拡大していく。比恵遺跡群も同様で集落域の拡大傾向が見られる。

中期後半から後期には、那珂・比恵遺跡群とも台地上には、竪穴住居や井戸を伴う集落域が全域に 亘って広がり、その中には銅剣や銅矛など銅製品の鋳型や中子、坩堝など青銅器の生産を示唆する遺物も出土しており、青銅製品の生産に携わる工人集団の工房群が台地の尾根上に存在したことが窺われる。また、集落域の周辺には墳丘墓をはじめとする甕棺墓群も造営され、遺跡の性格も拡大・多様化する。比恵遺跡群の中央部に位置する6次調査区では、細形銅剣を副葬する甕棺墓を埋葬した墳丘墓も出現し、遺物も銅製鋤先や鍛造鉄斧などの金属器や各種木製農工具、建築材、漆製品など多種多様なものが出土している。

古墳時代になると、台地の中央部に福岡平野で最古の前方後円墳である全長が85mの那珂八幡古墳

が造営され、主体部の木棺内に三角縁神獣鏡や玉類が副葬されていた。これに続いて6世紀後半には、那珂八幡古墳周辺の台地上に東光寺剣塚古墳と剣塚北古墳の2基の前方後円墳のほか前方後方墳が造営される。このうち、東光寺剣塚古墳は、全長が140mで三重の周溝をもつ筑前地域で最大級の前方後円墳である。この時期の集落は、那珂から比恵の台地上に広く展開する。また、規格性の高い3本柱の柵列に囲まれた大型建物群も台地上の各所に出現する。殊に、紀記に記された「那津官家」とされる大型建物群が、比恵遺跡群北西部(8次・72次・109次調査区)にあり、中央部(7・13次調査区)にも南に巨大な門を配した3柱の柵列群や大型建物群が広がっており、全体として「那津官家」を形成していたと考えられ、平野内の拠点的な集落として一翼を担っていたことが想起される。

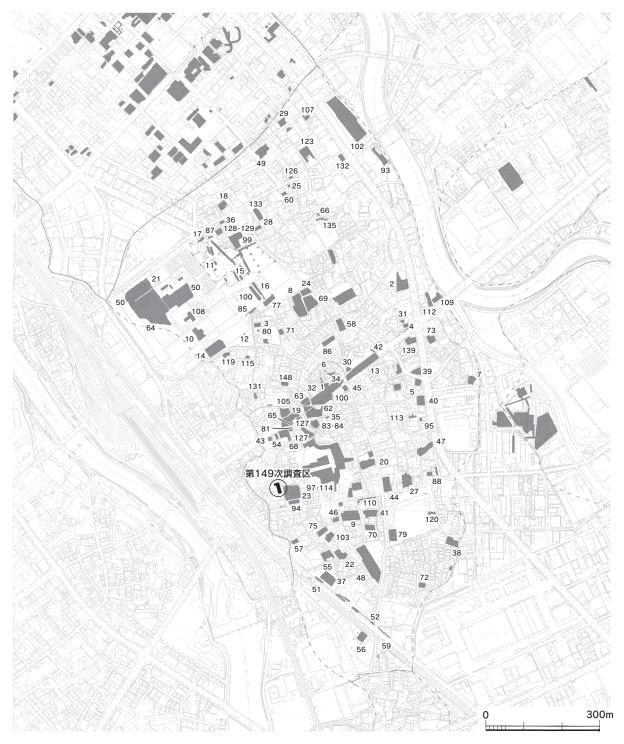


Fig. 2 那珂遺跡群位置図 (1/10,000)



Fig. 3 那珂遺跡群第149次調查区位置図(1/800)

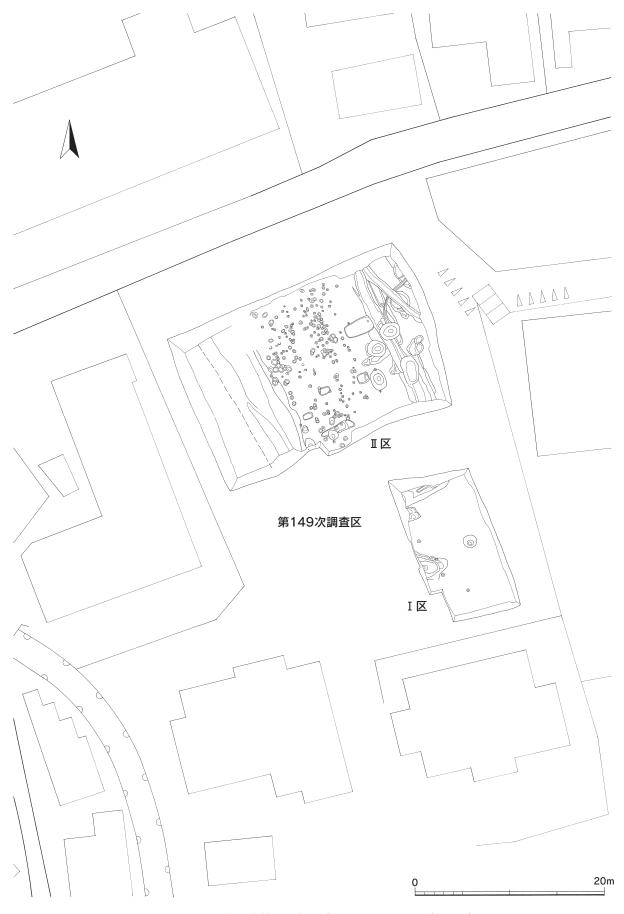


Fig. 4 那珂遺跡群第149次調査区周辺現況図(1/400)

# Ⅱ. 調査の記録

# 1. 調査の概要

那珂遺跡群は、春日市の須玖岡本から井尻を経て那珂、比恵へと北へのびる標高が10m余の洪積台地の北部に位置し、東西が700m、南北が2,000mの範囲に亘って広がっている。この那珂丘陵は本来的には11~12m余の丘陵で、その尾根上には那珂八幡古墳や東光寺剣塚古墳などの前方後円墳や前方後方墳などが立地し、その周辺には弥生時代の甕棺墓や土坑墓などの墳墓域と竪穴住居や貯蔵穴群などの集落域をはじめ、古墳時代や古代の遺構群が広く複合的・重層的に展開している。

第149次調査区は、この那珂遺跡群の中央西縁に位置し、足下には那珂川の氾濫源が丘陵に沿って広がり、周辺域には那珂川の浸食による開析谷が弯入している。また、調査区の北130mには丘陵を横断する竹下通りがあり、その沿線には福岡平野で最古の前方後円墳である那珂八幡古墳がある。一方、本調査区の南西に接する第23次調査区では、弥生時代から古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物、土坑、溝と古代から中世の井戸や土坑が検出され、古墳時代の竪穴住居は50棟を越えて重複が著しい。第149次調査の対象域は、立体駐車場と高層ビルの2地点に分かれ、立体駐車場となる南東隅部をI区、高層ビル本体の北半部をⅡ区と仮称し、平成26(2014)年4月8日に調査機材の搬入と同時にパワーショベルによってⅠ区の表土層の除去作業から開始した。その結果、現表土下20~45cmで基盤層の鳥栖ローム層を検出した。しかしながら、本調査区にはかつて練炭工場があり、それ故に至る所に撹乱坑が広がっており、その除去に多くの時間を費やした。I区の調査終了後は直ちにⅢ区の調査に着手した。検出した主な遺構は、弥生時代、古墳時代、古代、中世の4期に大別される。弥生時代の遺構は、井戸・大溝、古墳時代から古代は竪穴住居や土坑、中世は井戸と土坑、溝がある。殊に、弥生時代の大溝は、丘陵の西縁に拡がる那珂川の氾濫原上に開削された幅が6m余の大溝で、その埋土からは壷や甕など多種多様な土器のほかに石器や土製品・玉類が出土した。なかでも特筆すべきは銅戈の鋳型片が出土したことである。このような多数の遺構を検出して同年8月8日に無事終了した。

遺構の実測は、調査区の南北方向に任意の主軸線を設定した主軸ラインを基準に10mの方眼を組んだ。更に、その中に2mのメッシュを組み込み、東から西へa~o、北から南へ1~23とした。南北の主軸ラインは、磁北から17° 41′ 西偏している。

次数	調査 番号	報告書	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	時 代	概要	出土遺物	
1	7109		那珂1丁目44	19710315~19710404	24	古墳	古墳:井戸・那珂八幡古墳の周溝		
2	7414	調査団	那珂菰牟田	19741009~19741019	231	弥生·中世	中世:土坑	弥生土器·石器·須恵器·土師器·陶磁器·瓦	
3	7705		那珂	197810~	2	弥生	弥生: 甕棺墓 古墳: ピット	<b>斃</b> 棺	
4	8036	82	那珂字沼口	19810310~19810317	140	弥生・古墳	弥生: 甕棺墓	甕棺	
5	8328	年報27	那珂1丁目377-2,3	19830620~19830703	100	弥生·古墳·中世	古墳:溝 中世:柱穴群	弥生土器・土師器・青磁片	
6	8505		那珂1丁目44	19850312~19850709	534	古墳	那珂八幡古墳の範囲確認調査	三角縁神獣鏡・玉類・土師器	
7	8530	162	那珂3丁目8	19851106~19860127	495		弥生: 甕棺墓 古墳: 竪穴住居·掘立柱建物·溝 中世:溝·柱穴	先土器時代石器·弥生土器·土師器·須恵器· 陶磁器	
8	8609	153	那珂1丁目601	19860421~19860703	1350		弥生:竪穴住居·掘立柱建物 古墳:竪穴住居 古代:溝·井戸 中世:溝	青銅器鋳造関連遺物·山陰径甑形土器	
9	8703	598	竹下5丁目463	19870425~19870704	1030	弥生~古墳	弥生: 井戸 古墳: 竪穴住居·掘立柱住居·溝	青銅製品・鉄斧・玉・とりべ片	
10	8727	291	竹下3丁目1-1	19870817~19871031	862	弥生·古墳·中世	弥生:井戸 古墳:掘立柱建物·土坑·溝 中世:土坑·溝	夜臼式土器·青銅製鋤先·磨製石剣	
11	8732	291	竹下3丁目1-1	19870926~19871001	5	弥生	弥生:井戸	弥生土器·木製品	
12	8733	291	竹下3丁目1-1	19870922~19871003	20	古墳	古墳前期:井戸	土師器	
13	8736	222	那珂2丁目	19871104~19880330	1536		弥生: 竪穴住居· 掘立柱建物· 井戸· 貯蔵穴· 土坑墓 古墳: 竪穴住居· 井戸	ナイフ形石器・百済系軒丸瓦	
14	8802	291	竹下3丁目1-1	19880902~19890131	1180	弥生·古墳·奈良	弥生: 貯蔵穴·井戸 古墳: 竪穴住居 奈良: 掘立柱建物·井戸	弥生土器·土師器·須恵器·鉄製品·木製品·瓦	
15	8832	267	竹下3丁目1-1	19880325~19890325	250	弥生·古墳	剣塚古墳(重要確認) 弥生:甕棺墓	埴輪·鉄器·玉類	
16	8848	323	竹下3丁目1-1	19881024~19881211	240	弥生·古墳·中世	弥生: 甕棺墓·土坑墓·祭祀土坑 古墳:土坑墓·溝 中世:溝	弥生土器·土師器·須恵器·輸入陶磁器	
17	8849	291	竹下3丁目1-1	$\substack{19881027 \sim 19881105\\19881206 \sim 19881210}$	176	古墳·中世	古墳:古墳周溝 中世:井戸·溝	埴輪·土師器·輸入陶磁器	
18	8850	291	東光寺1丁目332他23-5	19890125~19890314	415	弥生・古墳・古代	弥生:土坑·溝 古墳:竪穴住居·掘立柱建物 古代:竪穴住居	青銅製鋤先·石器·土製品 古墳:土師器·須 恵器·鉄器	
19	8855	292	竹下5丁目	19890126~19890324	463	弥生·古代·中世	弥生: 貯蔵穴·溝 古代: 井戸 中世: 井戸・土坑	輸入陶磁器·硯·鉄製品	
20	8906	324	那珂2丁目257	19890417~10890624	750		弥生:環濠 弥生~奈良:竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑中世:井戸・土坑・溝	中広銅戈鋳型·青銅鋤先	
21	8923	291	竹下3丁目1-1	19890608~19890916	1988		弥生: 貯蔵穴・甕棺墓・土坑墓 古墳: 竪穴住居 古代: 掘立 柱建物・井戸	青銅製鋤先·鉄器·玉類·木製品·木製品·硯	
22	8935	253	竹下5丁目420	$19890707\!\sim\!19890822$	516	古墳·古代~中世	古墳:土坑 古代~中世:井戸·炉·土坑	軒丸瓦·平瓦	
23	8936	254 · 290	竹下5丁目282,283	19890710~19900104	1428	弥生·古墳·古代·中世	弥生~中世:竪穴住居·掘立柱建物·井戸·土坑·溝	弥生土器·土師器·須恵器·埴輪片·丸瓦·平 瓦·銅戈鋳型·石製品	
24	8982	年報27	那珂1丁目35	19890802~19890803	325	弥生·中世	弥生:井戸 中世:溝	弥生土器·白磁碗·瓦質土器	

Tab.1 那珂遺跡群発掘調査一覧表 1

# Tab.2 那珂遺跡群発掘調査一覧表 2

					ab.2	いわれ、1755170	群発掘調査一覧表 2	
次	調査	報告書	所在地	調査期間	調査面積	時 代	概要	出土遺物
数 25	番号 8983		東光寺1丁目218	19890912~19890921	(m²)	古墳·中世	古墳:柱穴 古代:溝	土師器·須恵器·青白磁
$\vdash$				19690912~19690921				
26	9002	409	那珂2丁目249	19900410~19900616	436	弥生·古代·中世	世:大溝	弥生土器·百済系軒丸瓦
27	9003		那珂2丁目7-12	19900411~19900616	756	古墳·古代·中世	古墳:土坑·溝 古代:溝 中世:土坑·溝	ナイフ形石器・須恵器・瓦質土器・白磁
28	9008	292	東光寺1丁目312	19900510~19900609	150	中世	中世: 地下式横穴 溝	瓦質土器·陶器
29	9026	361	東光寺162	$19900802\!\sim\!19900825$	313	古代·中世~近世	古代:井戸·溝 中世:溝 近世:井戸·土坑墓	土師器·須恵器·木製品·斎串·櫛
30	9046	292	那珂1丁目462-1	19901202~19901215	80	弥生·古墳	弥生:掘立柱建物·井戸 古墳:土坑墓	須恵器
31	9053	292	大字那珂字沼口802-15	19901202~19910131	123	弥生·古墳	弥生: 甕棺墓·土坑墓·木棺墓 古墳: 竪穴住居	弥生土器·土師器·須恵器
32	9115			19910705~19910930	1300		弥生: 竪穴住居·井戸 古墳: 竪穴住居 古代~中世:溝·堀	木製品·軒丸瓦
33	9122		那珂2丁目249-1	19910902~19911014	275	弥生·古墳·奈良	弥生: 竪穴住居·井戸 古墳: 竪穴住居 奈良: 掘立柱建物·井戸	百済系軒丸瓦
34	9144	365	那珂1丁目824	19920708~19920930	1100	弥生·古墳·中近世	弥生: 井戸 古墳: 那珂八幡古墳周溝 中近世: 井戸·土坑·溝	百済系単弁瓦·鴟尾
35	9145	365	那珂2丁目213-1	19920203~19920207	57		土坑	平·丸瓦
36	9217	年報27	東光寺1丁目332	19920608~19920610	154	弥生·古墳·戦国	弥生:土坑 古墳:土坑 戦国:大溝	弥生土器·須恵器·瓦器
37	9224	366	那珂6丁目314	19920720~19920905	1215	弥生:掘立柱建物	弥生:掘立柱建物·井戸溝	夜白式土器·石器·土製品
38	9225	399	那珂6丁目80-1	19920720~19920905	566	弥生·古墳	弥生: 甕棺墓・土坑墓・土坑 古墳: 竪穴住居・土坑・溝 中世*周溝あ	弥生土器
39	9228		那珂1丁目362	19920810~19921003	493	弥生·古墳·中世	弥生:貯蔵穴·甕棺墓 古墳:溝 中世:井戸·地下式横穴	
40	9256	367	那珂2丁目5	19930208~19930413		弥生·古墳·中世	弥生:竪穴住居·貯蔵穴 古墳:竪穴住居·溝 中世:土坑墓	弥生土器·輸入陶磁器
$\vdash$							弥生: 竪穴住居·掘立柱建物·井戸 古墳: 方形周溝墓・竪穴	ナイフ形石器・彫器・弥生土器・土師器・須恵
41	9264	399	竹下5丁目509	19930315~19930521	550	弥生·古墳·奈良	住居·掘立柱建物	꼾
42	9308	399	那珂1丁目476	19930522~19930531	63	弥生·古墳·古代	古墳:竪穴住居 古代:土坑墓	弥生土器·土師器·須恵器片
43	9315	年報8	竹下5丁目112-2	$19930607\!\sim\!19930608$	132	中世~近世初	中世~近世:土坑墓	土師器·磁器片
44	9328		那珂2丁目122·123	19930824~19931031	821	古墳·古代末~中世	古墳: 畝状遺構·溝 古代末~中世: 井戸·土坑墓·土坑	須恵器·土師器·青磁·瓦器·鉄製品
45	9333	年報8	那珂1丁目829	19930823~19930826	162	-	土坑	陶磁器片
46	9347	399	竹下5丁目432-2	19931101~19931206	250	弥生·古墳·古代	弥生:井戸 古墳:竪穴住居·掘立柱住居·溝 古代:竪穴住 民:土坑	弥生土器·石製品·須恵器·土師器·瓦片
						弥生·中世末~近世	居・土坑	
47	9414	454	那珂2丁目100-1 佐下5丁日412:	19940518~19940628	450	加生, 中世木~近世	弥生:土坑 中世末~近世:井戸·地下式土坑·土坑·溝	土師器·銅製分銅·金銅製鍬形·硯·陶器
48	9437	455	竹下5丁目412· 那珂6丁目290	19940901~19941012	2500	古代·中世·近世	古代:井戸 中世:掘立柱建物・井戸・土坑 近世:水田区画	
40	0.400	,		10040005 1004335	F05	36-A	弥生: 甕棺墓 古墳: 竪穴住居·井戸·掘立柱建物·土坑 古	
49	9438	455	東光寺1丁目148	19940905~19941102	723	弥生·古墳·古代	代:竪穴住居·木棺墓	弥生土器·石製品·須恵器·土師器·青磁
50	9441	518	竹下3丁目1-1	19940929~19941220	3000	弥生·古墳·古代	弥生: 貯蔵穴·井戸·甕棺墓·土坑墓 古墳: 竪穴住居·井戸・	弥生土器·木製品·桿頭形土製品·土師器·須
$\perp$							土坑 古代:井戸·土坑	恵器·青磁
51	9512		那珂6丁目20	19950522~19950527	38	中世	中世:溝	青磁
52	9513	_	那珂6丁目	19950531~19950627	384	弥生·古墳	弥生:溝(環壕?) 古墳:掘立柱建物·溝	弥生土器·須恵器·土師器片
53	9528	_	那珂6丁目	19950918~19951020	630	弥生	弥生:溝(環壕?)	弥生土器片
54	9530		竹下5丁目8-2	19951009~19951012	90	弥生 士捷,士仕主, 由世	弥生:井戸. 土壌:土埃,港、土化主。由州:井戸	弥生土器 土無器,須東器,互器,互片
55	9553		竹下5丁目379外	19960213~19960328		古墳·古代末~中世		土師器·須恵器·瓦器·瓦片 改生土哭,石刺具,土師哭,須重哭,輪』 国産
56	9556	500	五十川1丁目13-1	19960301~19960318	296.561	古代·中世	古代:掘立柱建物 中世:溝	弥生土器·石製品·土師器·須恵器·輸入、国産 陶磁器
57	9606	598	竹下5丁目19-32	19960624~19960702	120	弥生·古墳·古代	古墳:竪穴住居 古代:大溝	土師器·須恵器片·鉄製品·石製品
58	9619		那珂1丁目486·487	19960704~19960826	480	古墳·古代	弥生: 掘立橋建物井戸・井戸・土坑	弥生土器·石製品·土師器·須恵器片·瓦片
59	9645		那珂6丁目	19961014~19961115		古代·中世	古代:土坑·溝	土師器片
60	9702		東光寺1丁目223	19970402~19970602	158	古代·中世	古代:掘立柱建物·溝 中世:井戸·土坑·溝	
61	9709	年報12	那珂2丁目388-1	19970414~19970414	20	弥生	弥生: 甕棺墓	弥生土器
62	9711	597	那珂1丁目838-1,839-1	19970506~19970718	1005	古墳·古代~中世	古墳:竪穴住居·土坑·溝·方形周溝状遺構 古代~中世:溝	土師器·須恵器·瓦
63	9724	_	那珂1丁目792-1	19970630~19970731	214	古墳·古代·中世末	古墳:方形周溝墓·土坑墓 古代:溝 中世末:土坑墓·溝	土師器·須恵器·輸入陶磁器
64	9741	638	竹下3丁目1-13	19970922~19980820	6700	弥生·古墳·中世	弥生: 竪穴住居·貯蔵穴·甕棺墓 古墳: 竪穴住居 古代: 掘	弥生土器·土師器·須恵器·陶磁器·鉄製品·石
							立柱建物·井戸 中世:掘立柱建物·井戸·土坑墓	製品
65	9770		竹下5丁目59-3	19980212~19980218	95	中世	中世:溝	土師器·陶磁器
66	9818	841	東光寺1丁目263-2	19980608~19980625	80	古墳	古墳:竪穴住居・溝	弥生土器·土師器·須恵器
67	9858	672	那珂1丁目148	19990118~19990630	1420	弥生·古墳	弥生: 貯蔵穴・甕棺墓・土坑墓・環壕 古墳: 竪穴住居・掘立 柱建物	弥生土器・土師器・須恵器・石製品・金銅製品・ 土製品
$\vdash$	05:		11	1000001		Walter Committee		
68	9861	639	竹下5丁目94	19990212~19990331	599	弥生・古墳・古代・中世	古代:掘立柱建物·井戸 中世:地下式土坑·大溝	製品
69	9905	800	那珂1丁目590-1・602-	19990408~19990628	1088	弥生・古墳・古代・中世	弥生: 竪穴住居·掘立柱建物·井戸 古墳: 竪穴住居·土坑·	弥生土器·土師器·須恵器·雲雷文連弧文鏡片
$\vdash$	_		1.605-1				溝 古代~中世:井戸·溝	
70	9906	_	竹下5丁目500	19990413~19990531		弥生·古墳	弥生: 竪穴住居·井戸 古墳: 竪穴住居·方形周溝墓·土坑墓	
71	9932		那珂1丁目655	19990823~19991001	$\overline{}$	古墳·近世	古墳:竪穴住居・溝 近世:溝	古式土師器・須恵器
72	9935		那珂6丁目153·154	19990903~19991006		古墳	古墳:竪穴住居・掘立柱建物・土坑	弥生土器·土師器·須恵器·陶磁器·石製品 改生土器·土ま土師器·須恵器·陶磁器·石製品
73	9948	713	那珂3丁目19·20·21	19991108~20000112	382	弥生・古墳・古代・中世	弥生: 竪穴住居·木棺墓·土坑 古墳: 竪穴住居·溝 古代: 井戸 中世: 溝	你生土器·古式土師器·須忠器·輸入·国産陶磁器·石製品
74	9961	673	那珂1丁目	19991220~20000208	598	弥生·古代~中世	弥生:井戸 古代~中世:井戸	弥生土器·土師器·須恵器·木製品·石製品
$\Box$							弥生:掘立柱建物・井戸 古墳:竪穴住居 古代:溝 中世:	
75	9971	/14	竹下5丁目433	2000-301~20000414		弥生・古墳・古代・中世	土坑·溝	弥生土器·土師器·須恵器·瓦·石製品
76	0016		那珂2丁目6-7	20000601~20000606		弥生·古墳·中世末	弥生:柱穴 古墳:柱穴 中世:溝	弥生土器·土師器·須恵器·白磁
77	0045	715	竹下3丁目39外58筆	20001004~20001006	100	弥生	弥生:土抗·溝	弥生土器
78	0048	715	竹下3丁目39外58筆	20001115~20001225	611	古墳·近世	古墳:溝(周溝) 近世:近世墓·土抗	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・青白磁・陶
79	0057		那珂2丁目18-1	20001208~20010216		弥生·古墳·中世	弥生:竪穴住居·井戸 古墳:溝(周溝) 中世:溝	器・石製品・ガラス玉 弥生土器・須恵器・白磁
80	0122		那珂2 J 目 18-1 那珂1 丁目 681-1	20001208~20010216 20010731~20010816	$\equiv$	弥生・古墳・中世	弥生·竪八住店·升户 古墳·蔣(肩傳) 中世·傳 弥生: 甕棺墓·土坑墓·土坑 古墳: 竪穴住居·溝 中世:溝	弥生工器· 4思 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 ·
81	0134	1000	竹下5丁目85·82	20010731~20010816 20011106~20011215		古墳·古代·中世	古墳:溝 古代:井戸·溝 中世:溝	弥生上器·土師器·須恵器·輸入陶磁器
$\vdash$			那珂1丁目197~202・					
82	0142	1154	287~290	20011203~20011221	80	弥生·古墳·中世	弥生: 竪穴住居·井戸 古墳: 竪穴住居 中世:溝	土師器·須恵器·陶磁器
83	0146	1033	那珂2丁目213-2・214-1・	20011220~20020110	200	弥生·古墳·古代	弥生:土坑·溝 古墳:方形周溝墓 古代:井戸	弥生土器·土師器·須恵器·瓦·陶磁器
	0140	1000	214-3	20020110		HOR HIN	WWW SOUTH HISK MANAGEMENT HINTER	
84	0217	1033	那珂2丁目213-2	20020510~20020514	遺構 確認	弥生・古墳・古代・中世	弥生:土坑·溝 古墳:前方後方形周溝墓 古代:竪穴住居	弥生土器·古式土師器·土師器·須恵器·輸入 陶磁器
85	0230		竹下3丁目39外59筆	20020827~20020918	_	古墳·古代	古墳·井戸·土坑	岡 版 爺 土 師器・須恵器・瓦・石製品・青磁
$\vdash$							□項・升戸・1.列 弥生: 竪穴住居・掘立柱建物・井戸 古墳: 竪穴住居・掘立柱	弥生土器·土師器·須恵器·石製品·玉類·瓦·
86	0248	802	那珂1丁目550	20021205~20030219	370	弥生・古墳・古代	建物·溝 中世:溝	弥生工器·工邮器·须芯器·石聚吅·玉頬·丸·
87	0258	793	東光寺1丁目376-3	20030131~20030204	20	弥生·古墳	弥生:竪穴住居 古墳:土坑·溝	弥生土器·土師器
88	0313	1191	那珂2丁目	20030512~20030527			溝.	弥生土器·土師器·須恵器·滑石製勾玉
Ш		1191	83-3,83-2,83-4					
89	0316		東光寺町1丁目373	20030519~20030527	$\overline{}$	弥生·古墳	弥生: 甕棺墓·土坑墓 古墳: 周溝	弥生土器·土師器·須恵器·円筒埴輪
90	0323		那珂1丁目91	20030610~20030623	$\equiv$	弥生・古墳・古代	弥生: 竪穴住居 古墳: 竪穴住居·井戸 古代: 竪穴住居	弥生土器·土師器·須恵器·ガラス玉·滑石製品
91	0335		竹下5丁目7-3、20の一部	20030730~20030805		弥生·古墳	土坑	弥生土器·土師器·須恵器
92	0337		那珂1丁目401~403	20030818~20030901	190.7	弥生·近世	弥生: 井戸·土坑 近世: 井戸·地下式土抗	弥生土器·土師k·須恵器·国産陶器·木製品
93	0348	842	東光寺町2丁目 23~26·34·35-1·3·4、39	20030922~20031107	781	弥生	弥生:井戸·土抗·溝	弥生土器·須恵器·瓦·石製品·土製品·木製品
94	0361	843	竹下5丁目283-1、284-1	20050120~20040218	250	弥生·古墳·中世	弥生:土抗 古墳:竪穴住居·井戸·溝 中世:溝	土師器·須恵器·弥生土器·陶磁器
$\vdash$			那珂2丁目39-3、39-2の					
95	0408	年報19	一部	20040416~20040427	82.5	古墳·中世	古墳:掘立柱建物 中世:土抗·溝	土師器・須恵器・陶磁器など
							<u></u>	

# Tab.3 那珂遺跡群発掘調査一覧表 3

					ab.3	加加力區以	群発掘調査一覧表 3	
次数	調査 番号	報告書	所在地	調査期間	調査面積 (mi)	時 代	概要	出土遺物
96	0413	844	竹下5丁目452-1	20040405~20040419	(***)	弥生·古墳·古代	弥生: 掘立柱建物	弥生土器·土師器·須恵器·瓦·青·白磁·鉄製品
97 98	0414		竹下5丁目 那珂6丁目67	20040420~20040531 20040510~20050611	965.6	弥生 古墳·中世	弥生:竪穴住居·甕棺墓·土抗·溝 古墳:竪穴住居 中世:溝	須恵器·瓦(竹状模骨痕瓦)·石庖丁
99	0421		東光寺町1丁目357-1	20040514~20040730		や用・古墳・古代・中世	弥生: 甕棺墓·掘立柱建物 古墳: 井戸·溝(周溝) 古代: 土	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・輸入陶磁器・
100	0425		竹下3丁目1-1	20040601~20040730			抗·溝 中世:溝 弥生:甕棺墓·土坑墓·土抗 古代:溝 中世:溝	鉄製品·土製品 弥生土器·青磁·瓦質土器·陶器·石製品
101	0432		竹下5丁目494、495の一部	20040629~20040630		古墳	古墳:溝	弥生土器·土師器·須恵器
102	0454	1021	東光寺町2丁目23~26	20041015~20050415	7000	弥生·古代·中世	弥生:井戸·掘立柱建物·土抗 古代:道路遺構 中世:溝	弥生土器·土師器·須恵器·輸入陶磁器·石製品·銅銭
103	0455		竹下5丁目425	20041018~20041125		古墳·古代·中世	古墳:竪穴住居 古代:井戸 中世:地下式土抗	土師器·須恵器
104	0456		那珂3丁目10-1	20041018~20041025		弥生·古墳	游生:掘立柱建物·土抗 古墳:竪穴住居·掘立柱建物·土抗	弥生土器·土師器·石製品 弥生土器·土師器·須恵器·瓦·石製品·滑石製
105	0457	936	竹下5丁目59-1	20041018~20050107	745	弥生·古墳·古代·中世	古代~中世:井戸·土抗	王·輸入·国産陶磁器
106	0476	889	那珂1丁目837-1	20050111~20050216	333	弥生·古墳·中世	弥生:井戸 古墳:土抗 中世:土抗·溝	弥生土器・土師器・須恵器・瓦・石製品・石塔・ 種子
107	0477 0490		東光寺町1丁目11の一部 竹下3丁目1-1	20050117~20050209 20050308~20050318		弥生·古墳·中世 弥生	弥生~古墳:土抗·溝 中世:溝 弥生:土抗	弥生土器·土師器·須恵器·青·白磁 弥生土器
109	0541		東光寺町2丁目90	20050808 20050318		弥生·古墳·古代	弥生: 井戸·方形周溝墓 古墳: 竪穴住居 古代: 竪穴住居·土抗	弥生土器(盾・戈の絵画土器)・土師器・須恵器
110	0550	1033	竹下5丁目515-1~6	20051115~20051220	257	弥生·古墳·古代	弥生: 竪穴住居·井戸·溝 古墳: 周溝墓·土抗·溝 古代:溝	弥生土器·須恵器·瓦·石製品·土製品·木製品 石製品·輸入·国産陶磁器
111	0558	年報20	五十川1丁目815-9	20051215~20051227	12.2	古墳	古墳:溝	土師器·須恵器
112	0602	981	東光寺2丁目897	20060403~20060526	415	弥生·古墳	弥生~古墳初:堅穴住居·掘立柱建物·井戸·土抗·方形周溝 状遺構	弥生・土師器・須恵器・ガラス小玉・鋳造鉄斧・ 石製品
113	0618	982	那珂2丁目37、38	20060624~20060801		古墳・中世	古墳:掘立柱建物·井戸·土抗 中世:溝 弥生:竪穴住居·井戸·甕棺墓 古墳:前方後円墳·円墳·竪	弥生土器·土師器·須恵器·木製品·鹿角·種子 弥生土器·土師器·須恵器·銅戈鋳型·銅矛中
114	0627	1082	竹下5丁目	20060629~20070331	7752	弥生·古墳·古代·中 世	穴住居·井戸·土抗 古代:竪穴住居·井戸 中世:井戸·溝	子鋳型
115	0661	983	那珂1丁目707	20070118~20070316	142.27	弥生・古墳・古代	弥生: 堅穴住居·井戸·甕棺墓 古墳: 前方後円墳・円墳・竪 穴住居・井戸・土抗 古代: 竪穴住居・井戸 中世: 井戸・溝	弥生土器・土師器・須恵器・瓦・鉄製品・石製品・滑石製玉類・ガラス玉
116	0710	1007	東光寺町2丁目88-1	20070508~20070521		弥生・中世	沙中·理域 十棒·提克拉拉姆 正二十七 上田 9	弥生土器·土師器·瓦質土器·木製品·滑石製石鍋
117 118	0717 0719		那珂6丁目 那珂1丁目390-1	20070604~20070928 20070611~20070627		弥生·古墳 古墳	弥生:環壕 古墳:掘立柱建物·井戸·土抗 中世:溝 古墳:竪穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、木器 弥生土器・土師器・須恵器・木製品
119	0721	1035	大字那珂字堂ノ上1150- 45	20070625~20070706		弥生·古代末	弥生:井戸 古代末:土抗·溝	弥生土器·須恵器·瓦·青·白磁
120	0729	1036	那珂2丁目18-1	20070808~20070828	128	古墳·古代	古墳: 竪穴住居 · 掘立柱建物 古代: 溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦
121	0807		竹下5丁目91,179-5,179-1 那珂2丁目	20080423~20080520	131	古代·中世	古墳~古代:溝 中世:溝	土師器、須恵器、中国製磁器、石器、瓦
122	0813		347,348,349,350,351,352	20080602~20080808	995.1	古墳·古代	古墳: 竪穴住居 古代: 掘立柱建物・溝・道路状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器、石器
123	0854	1083	東光寺1丁目 131,132,133,134,135	20090116~20090310	652	弥生·古代·中世	弥生:井戸·甕棺墓 古代:区画溝 中世:井戸·土抗	土器·陶磁器·瓦·石器·木製品·埴輪·銅銭
124	0901		那珂6丁目310	20090401~20090523	98.9	古墳~古代、中世	古墳時代~古代:竪穴住居、土坑、溝 中世:土坑、溝	土器·陶磁器·石器·石製品
125	0910	1155	竹下5丁目36	20090605~20090720	204.9	古墳~飛鳥~奈良	弥生~奈良: 竪穴住居、土坑 古代~中世: 土坑墓、井戸、地 下式土坑	土器,陶磁器,瓦類,石器,石製品(青銅器鋳型2点 含む)
126	0933		東光寺町1丁目 142-1、142-2	20100210~20100303	72	中世	中世:溝	弥生土器·土師器·陶磁器
127	1006	1121	竹下5丁目10	20100419~20100615	434	弥生·中世·近世	弥生:土抗 中世:井戸·土抗·溝 近世:井戸	弥生土器·土師器·須恵器·陶磁器·石器等
128	1007	1156	東光寺町1丁目376-1	20100506~20100707	114	弥生・古墳・古代	弥生: 甕棺墓·木棺墓 古墳: 掘立柱建物·柵列·土抗墓·溝 古代: 溝	弥生土器·須恵器·鉄製品
129	1008	1157	東光寺町1丁目376-4	20100601~20100707	118			弥生土器
130	1015	1158	那珂2丁目87、88	20100630~20100810	168	弥生・古墳・古代	弥生:土抗 古墳:竪穴住居·井戸·布掘建物 古代:掘立柱 建物·溝	弥生土器・土師器・陶磁器・石器など
131	1105		竹下5丁目20-2	20110509~20110608	88		弥生: 井戸 古墳: 竪穴住居: 溝 古代: 掘立柱建物: 井戸	弥生土器·土師器·須恵器·黒曜石剥片·瓦 弥生土器·土師器·須恵器·石器·石製品·瓦·
132	1113	1192	東光寺町1丁目28	20110704~20111007	255	弥生・古墳・古代	中世:土抗	建築材·動植物遺体
133	1114	1192	東光寺町1丁目 319,321,322,323	20110705~20110920	602	弥生·古墳·中世·近 世	柱穴・土坑・溝・井戸	土師器等
134	1125	1190	那珂1丁目 336,387,388,389	20110907~20111018	292	弥生・古墳・中世	弥生: 竪穴住居·溝 古墳: 掘立柱建物 中世: 柱穴	弥生土器·土師器·須恵器
135	1136		東光寺町一丁目	20120110~20120307	193.3	弥生・古墳・中世	弥生: 竪穴住居·溝 古墳: 掘立柱建物· 土抗	弥生土器・須恵器・陶磁器など
136	1210	1930	264,265,266 那珂一丁目	20120706~20120728	81.36	弥生·古代	弥生: 甕棺墓· 土抗	弥生土器・土師器・須恵器・瓦
$\vdash$			688-1、688番3、688-4 那珂一丁目					
137	1211	1230	688-5 (688-1の一部)	20120729~20120731	25	弥生·古代	弥生: 甕棺墓·土抗	弥生土器・土師器・須恵器・瓦・ガラス小玉
138	1214	1230	福岡市博多区竹下五丁 目18·37	20120717~20121016	19	中世	中世:井戸·溝	土器·瓦·石器
139	1217	1231	那珂1丁目333-1,333-2	20120820~20121016	414.4	弥生・古墳・中世	弥生: 竪穴住居· 掘立柱建物· 井戸· 甕棺墓· 土坑墓 古墳: 竪穴住居· 土坑墓 中世: 土坑墓	弥生土器·土師器·須恵器·白磁
140	1224	1230	竹下5丁目287	20121119~20121209	34.4	近世	近世:溝	土器·石器·近世陶磁器
141	1231	年報27	那珂一丁目 324,325,326,327,332	20121212~20121213		弥生·中世	弥生:甕棺墓·溝 中世:溝·井戸	土師器·瓦質土器·鉄器
142	1232	1260	那珂一丁目92	20130123~20130315			弥生:竪穴住居 古墳:竪穴住居·井戸·土坑墓 古墳時代初頭:竪穴住居、総柱建物、井戸 古代:井戸 中	弥生土器·土師器·須恵器·石製玉類
143	1235	a	東光寺町一丁目238,239	20130313~20130607		古墳・古代・中世	世:濠、地下式横穴	弥生土器・土師器・石器など
144	1311 1312		東光寺町1丁目4,5,6,7 竹下5丁目62-1	20130610~20130614 20130701~20130725		弥生~中世 近世	(トレンチ調査) 柱穴、弥生~中世包含層 近世:掘立柱建物・土坑・溝	弥生土器、土師器 弥生土器・土師器・須恵器・輸入陶磁器・漆器
146	1320		五十川1丁目13-1	20130819~20130821	23.1	弥生~古代	(トレンチ調査) 柱穴、溝	土器
147	1330		東光寺町1丁目161 那珂一丁目	20131017~20131203	178.5	77. d d. 79	Walter Harden Market Ma	土師器·須恵器·陶磁器
148	1335	1274	725番,724番一部	20131202~20131220	75.6	弥生·古代~中世	弥生:井戸、掘立柱建物 古代:土坑 中世:井戸、溝	弥生土器·土師器·黒曜石片
立会	1344	年報予定	那珂三丁目126	20140131~20140131		弥生·古墳·古代·中世	弥生: 井戸、溝 古墳: 竪穴住居、土坑 古代: 土坑 中世: 井戸、土坑、溝	弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石製品・銅 カ鋳型・木製品
149	1401	1275	竹下5丁目290	20140407~20140808	599	弥生·古墳·中世	弥生:井戸·溝 古墳:竪穴住居·土坑 中世:井戸·土坑·溝	弥生土器·須恵器·土師器·陶磁器·青銅器·石器·土製品·石製品·木製品
150	1406		那珂一丁目90-1,3	20140507~20140519		古墳·古代	古墳:溝 古代:掘立柱建物・	土器(弥生土器·土師器·須恵器)
151 152	1409 1410		那珂1丁目90-4 那珂1丁目90-5	20140519~20150821 20150821~20150911		弥生·古墳 弥生·古墳·古代	弥生:竪穴住居 古墳:竪穴住居·土坑墓·溝 弥生:貯蔵穴 古墳:竪穴住居 古代:掘立柱建物	弥生土器,土師器,須恵器,滑石製臼玉 弥生土器,土師器,須恵器
153	1420		那珂1丁目102,103	20150910~20150923		弥生·古代·中世	弥生:竪穴住居·溝 古代:井戸 中世:井戸	土器(弥生土器·土師器·須恵器)
154	1421	1274	那珂1丁目102,103	20150924~20151212	409	弥生・古墳・古代	弥生: 竪穴住居·井戸·溝 古墳: 竪穴住居 古代: 掘立柱建物	土器(弥生土器・土師器・須恵器)
155	1451	年報	東光寺1丁目20	20141031 · 20141101 · 20141213	84	古墳	古墳:土坑	弥生土器片·土師器·須恵器·鉄器片
156	1505		竹下3丁目28-1	20141213 20150501~20150731	200	古措~古代・由近冊	古墳後期:竪穴住居・井戸・溝 中近世:井戸・溝	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石製品・鉄
157	1514		那珂1丁目525	20150701~20150705	24	BALINE RE		製品 鉄製品
158	1529		那珂1丁目31-10	20151109~20160120		古墳時代	古墳時代後期:竪穴住居	





Fig. 5 遺構配置図(1/200)

# 2. 弥生時代の調査

弥生時代の遺構としては、井戸2基と大溝を検出した。このうち82号溝と呼称した幅が5m余の大溝は、丘陵の縁辺に沿って南北流し、その覆土中からは弥生時代中期後半から後期の多種多様な遺物が重層的に検出された。また、柱穴の中には弥生土器を含むものもあるが、1棟の掘立柱建物としてはまとめ得なかった。

# 1) 井戸 (SE)

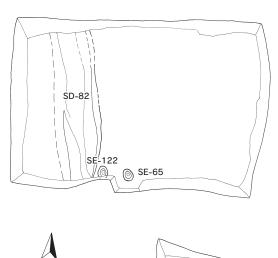
65号井戸 SE-65 (Fig. 7 巻頭2・PL. 2) 65号井戸は、II区の中央部の南壁際に位置する素掘りの井戸で、上縁の北半は64号土坑に削平されており、その西側2mの距離には122号井戸が隣接してある。平面形は、直径が95cmの円形プランを呈する。壁面は、井戸底にむかってほぼ垂直に窄まるが、底面より20~30cm上位に横断面形がV字状をした溝状の抉り込みを壁面から壁外に10cmほど掘り込んでいる。更に、壁面は、このV字状の抉り込みから直径が40cmの井

戸底にむかって緩やかに傾斜していく。このV字状の抉り込みが鳥栖ローム層と八女粘土層との境界にあたり、ここが湧水点で地下水の浸透が観察された。検出面から井戸底までの深さは230cmで、標高は5.58mを測る。覆土は、上層が濃茶褐色土で中~下層は黒茶褐色土~暗黒灰色粘質土に漸次移行し、井戸底からは甕片が比較的まとまって出土したが、埋土の崩落によって位置の測定は出来なかった。

### **122号井戸** SE-122

(Fig.  $7 \cdot 8$  PL.  $2 \cdot 17$ )

122号井戸は、Ⅱ区の南壁のや や西寄りに位置する素掘りの井 戸で、東へ2mの距離には65号井 戸がある。平面形は、南北長が 125cm、東西長が105cmの卵形に 近い楕円形プランを呈する。壁面



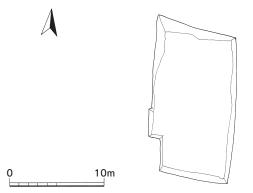


Fig. 6 弥生時代の遺構配置図 (1/400)

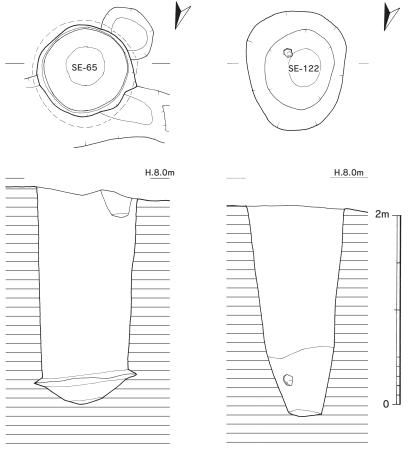


Fig. 7 65·122号井戸実測図 (1/40)

は、検出面より145~160cmの深さまでストレートに窄まった後に弱い変換点を形成し、そこから更に、35~40cm径の井戸底にむかって緩やかに窄まっていくが、西壁はやや急峻に傾斜していく。検出面から井戸底までの深さは225cmで、標高は5.47mで65号井戸とほぼ同レヴェルである。壁面の弱い変換点より20~30cmほど下に鳥栖ローム層から八女粘土層へと移る地点があり、この八女粘土層のやや下の標高5.75~5.8m付近から湧水が観察された。65号井戸とは位置的に近接しており、湧水点の比高差はほとんど無いに等しい。覆土的には、65号井戸と大差がなく、上層からロームブロックを含んだ暗茶褐色土、暗黒茶褐色土、暗黒灰色粘質土の順に堆積している。遺物は、下層から中期末の甕底などがわずかに出土した。

1は、鍬先状口縁の丹塗り壷で頸部と胴部の境には1条の三角凸帯が巡る。外面の丹塗りは良く研磨されているが、口頸部内面は流しかけ状をなしている。 2 は丹塗りの瓢型壷で口縁部は鍬先状をなそう。頸部と胴部の境に1条の三角凸帯が、またふたつの胴部の接合部には各々1条のコ字凸帯と三角凸帯が巡る。  $3\sim6$  は、甕である。 3 は、直口して立ち上がる頸部に小さく外反する口縁部が付

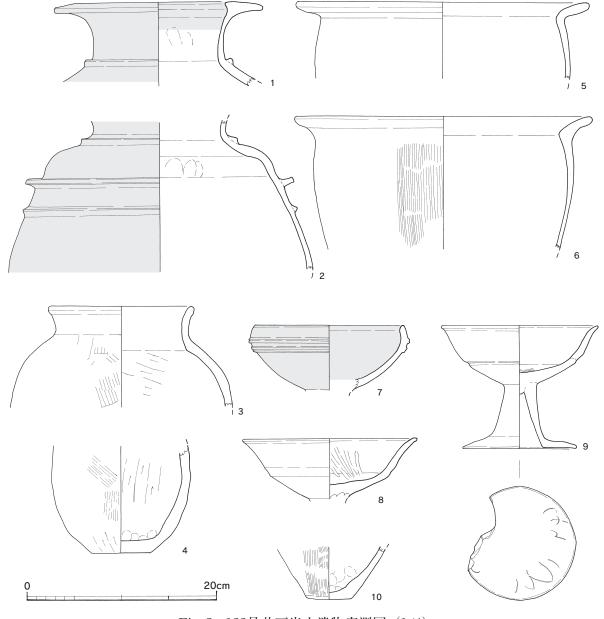


Fig. 8 122号井戸出土遺物実測図 (1/4)

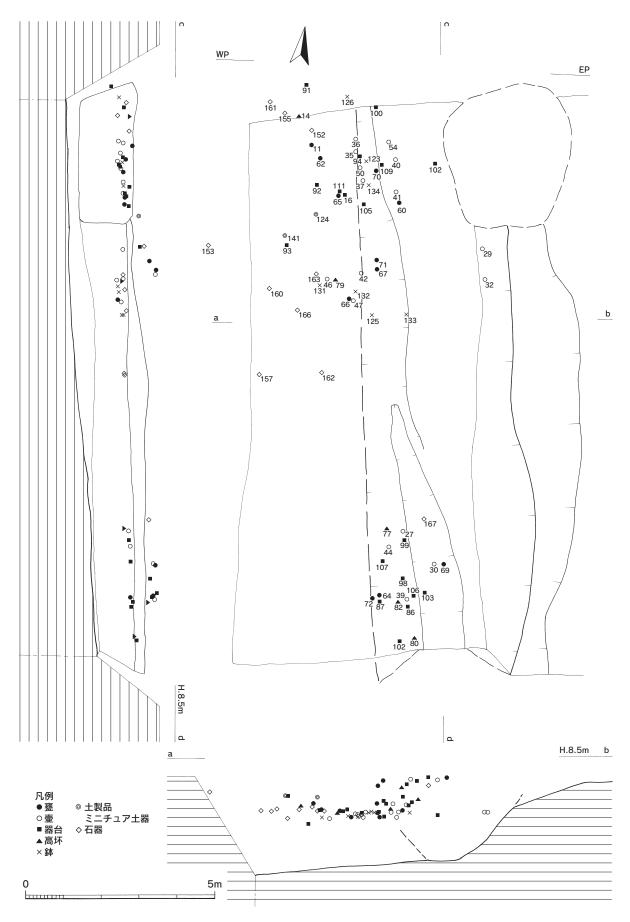


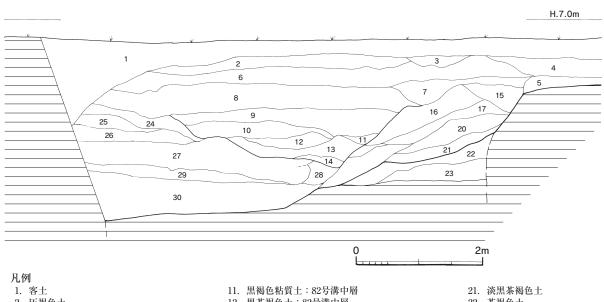
Fig. 9 82号溝実測図(1/100)

き、胴部は倒卵形をなそう。5・6は、口縁部が小さく「く」字状に外反する。7は、口縁部が偏球形の体部から小さく内弯して立ち上がり、その屈曲面に2条のM字凸帯が巡る。8・9は、口縁部が緩やかに外反する高坏である。9は、大きく開く脚裾の上面に花びら状あるいは波状の不可解な線刻を細く施文している。

## 2) 溝(SD)

#### **82号溝** SD-82 (Fig. 9~23 PL. 3~6·17·18)

82号溝は、調査区の西辺に広がる那珂川の氾濫原上に掘り込まれた溝で、台地の西縁に添うように南北流する。溝は、幅が6~7m、深さが1.5~2.3mの大溝で、現長は15m。断面形は緩やかな逆台形をなしている。溝底のレヴェルは南端が6.45m、北端が5.8~6mで北にむかって流れる。基本的な層序は、概ね1~3層に大別される。上層は、弥生土器や土師器・須恵器等を含む黒色粘質土⑨で、20~40cmの厚さで凹レンズ状に堆積しているが、台地に沿った東側がやや厚くなる。次に中層は、層厚が40~50cmで上から濃黒茶褐色粘砂土⑩・黒褐色粘質土⑪・黒茶褐色土⑫が互層的に堆積し、その覆土中には弥生中期後葉~後期初めの壷や甕、高坏、器台等が重層的に堆積していた。下層は、黒色粘質土⑬の単一層で20~35cmの厚さで凹レンズ状に堆積しているが遺物的には中層に比べてやや少ない。最後にこの下層下には濃黒色粘質土が5~15cmの厚さでやや薄く堆積しているが、遺物は非常に少ない。遺物は、溝の真ん中を中心として2~3m幅で南北に長く延びて検出された。遺物的には上層が各期混在して比較的疎らに検出されたのに対して中層は器種も多様で折り重なるように密集し、その断面形も溝に沿うように上面は広く下面が細いU字状をなしていた。下層は、期日末期の雨天中の調査で細かい確認はできず遺物の取り上げに専心したために詳細は判然としない。悔恨の念が残る。



- 2. 灰褐色土
- 3. 濃灰褐色土
- 4. 茶褐色土+ロームブロック層
- 5. 暗茶褐色土:若干の遺物含有
- 6. 茶褐色土
- 7. 黑茶褐色粘砂土
- 8. 黒茶褐色粘質土: 弥生土器及び須恵器を含む
- 9. 黑色粘質土:82号溝上層
- 10. 濃黒茶褐色粘砂土:82号溝中層
- 12. 黒茶褐色土:82号溝中層
- 13. 黒色粘質土:82号溝下層 弥生中期末の土器多含
- 14. 濃黒色粘質土:82号溝最下層 10層よりも濃い
- 15 茶褐色++ロームブロック
- 16. 濃黒色粘質土
- 17. 黑茶褐色粘質土
- 18. 暗茶褐色土:やや黒色気味
- 19. 濃茶褐色土:16層より濃く、弱粘質
- 20. 濃茶褐色土

- 22. 茶褐色土
- 23. 明茶褐色土
- 24. 黒色土:弱粘質
- 25. 黒茶褐色土:弥生土器含む
- 26. 淡黑茶褐色土 27. 暗茶褐色砂土
- 28. 青灰色シルト質土
- 29. 細砂層
- 30. 粗砂層

Fig.10 82号溝土層断面実測図(1/60)

11~23は、上層から出土した。11~13は、甕である。11は、口縁部が短く内傾する頸部から小さく外反する。胴部はやや長胴で底部は平底である。12は、小型の甕で頸部は球形の胴部から直口して立ち上がり、口縁部は短く外反する。13は、土師器甕で口縁部は球形の胴部から伸びやかに外反して立ち上がる。14は、坏部が皿状をなす扁平な高坏で口縁下内面に1条の凹線が巡る。脚部は大きく歪んでいる。15は、丹塗りの筒形器台の鍔部で端部には3条の浅い凹線が巡る。16は、短い器台である。17は、無形壷の蓋。18は、瓦碗。19・20は、ミニチュア土器の鉢である。口縁部は、19が小さく外反し、20は内弯気味に直口して立ち上がる。21は、ラグビーボール状の投弾で重さは21.5g。22・23は棒状をした不明土製品である。

24~140は中層から出土した。24~55は壷である。24~27は、丹塗りの袋状口縁壷。24の口縁部下には1条のM字凸帯が巡る。27は口径が16.6cmの大型の壷で、口縁部下と胴部上半に各々2条のM字凸帯が巡る。28~30は、鍬先口縁壷。28は、上唇に円形浮文を貼り付けている。30は、口縁部外縁にヘラ先工具による刻み目を施文し、頸部と胴部の境には1条のシャープな三角凸帯が巡る。31・32は、鍬先口縁の瓢形壷で、頸部と胴部の境には1条の三角凸帯が巡り、ふたつの壷の接合面には31がコ字凸帯と三角凸帯を32は2条のコ字凸帯が巡る。34・35は細頸壷の口頸部で、細く伸びやかに開

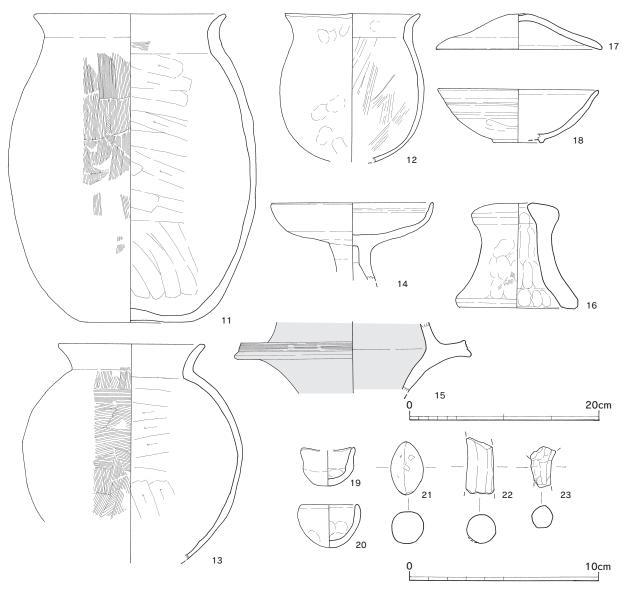


Fig.11 82号溝上層出土遺物実測図 (1/2·1/4)

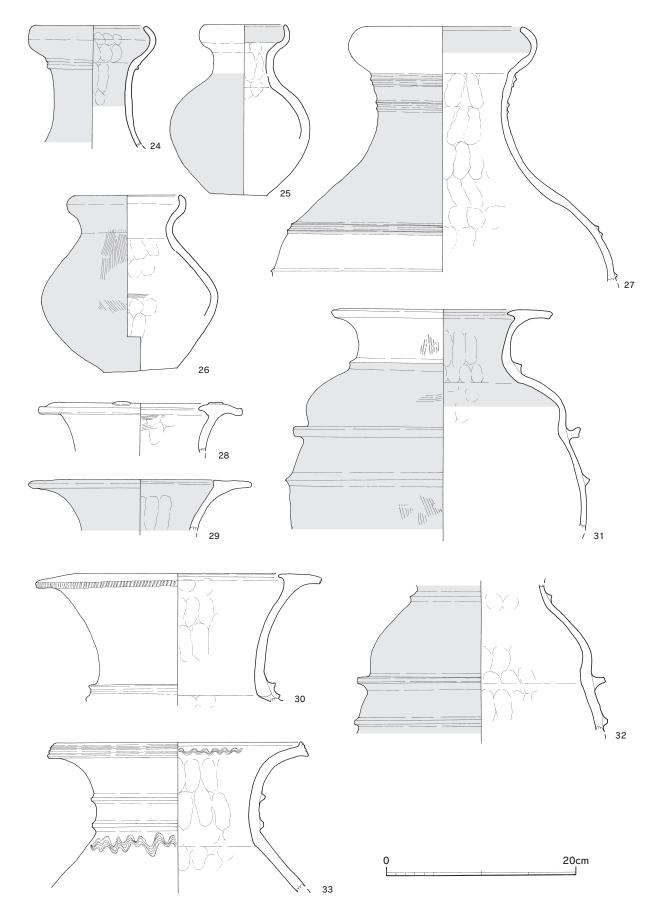


Fig.12 82号溝中層出土遺物実測図 1 (1/4)

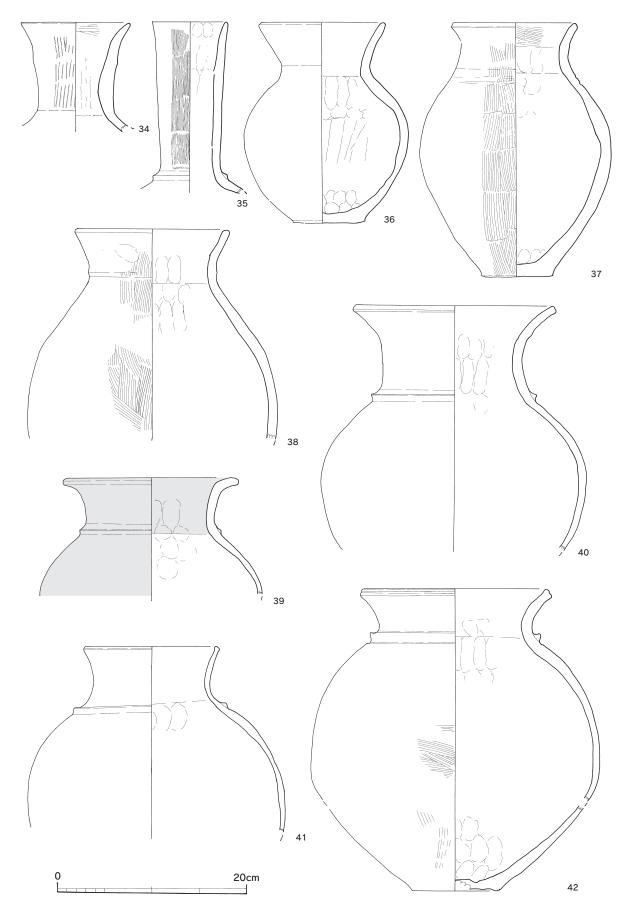


Fig.13 82号溝中層出土遺物実測図 2(1/4)

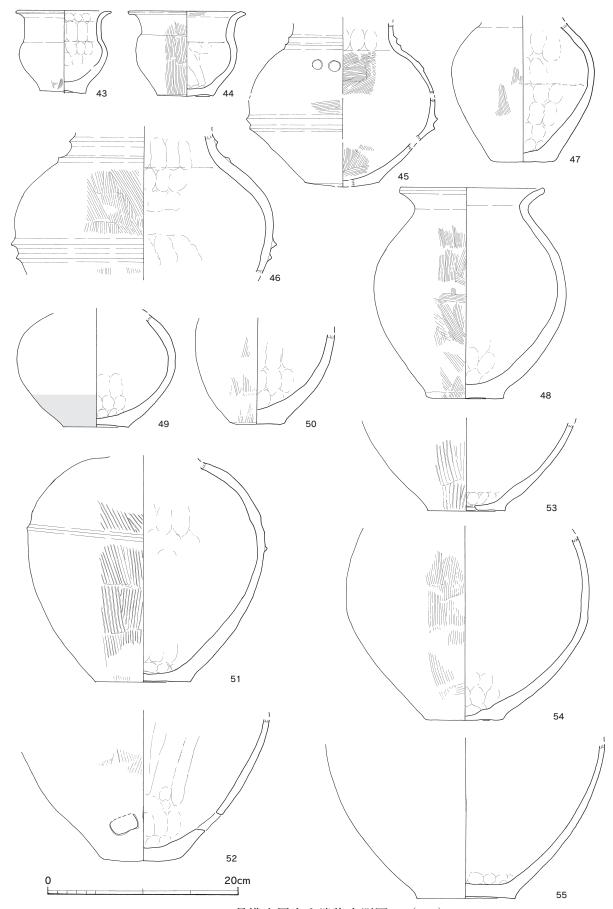


Fig.14 82号溝中層出土遺物実測図 3 (1/4)

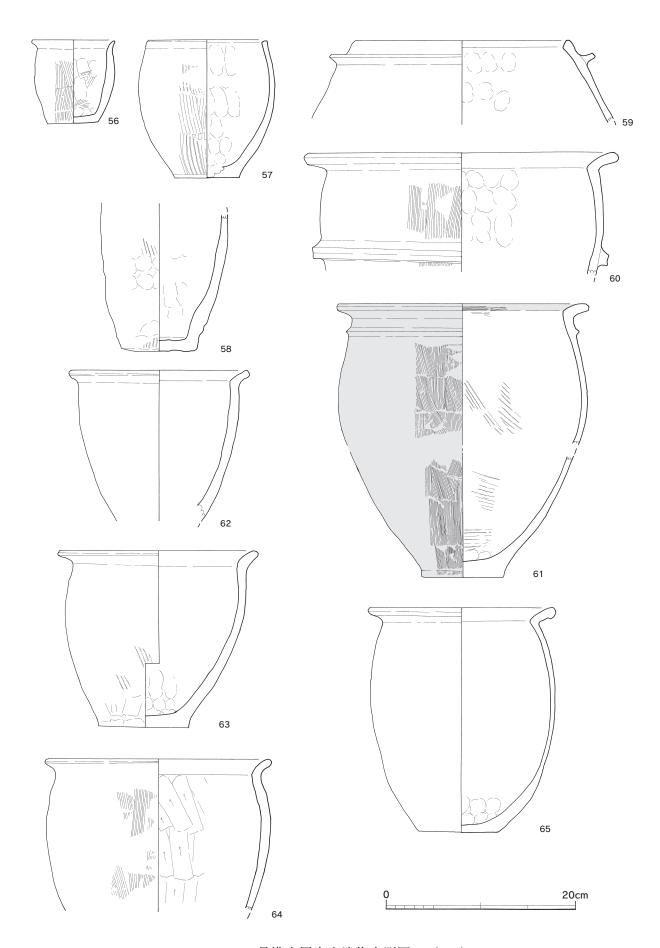


Fig.15 82号溝中層出土遺物実測図4 (1/4)

く。36~42は、直口ぎみに立ち上がる頸部から口縁部は小さく外反する壷。39~42は、胴部との境に 1条のシャープな三角凸帯が巡る。42は口径が19.6cm、器高が32cmのやや大型壷である。43・44は 直口する頸部から口縁部が短く外反する小型壷。45は偏球形の胴部が付く細頸壷で、頸部下と胴部 下半に2条の凸帯が付き肩部には2枚の円形浮文を貼り付けている。56~73は甕である。56は口径が 8.8cm、器高が8.9cmの小型甕で口縁部は短く外反する。57は単口式の甕で口径は12.7cm。58も単口 式の甕か。59は口径が20.6cmの樽形の甕で口縁下には1条のコ字凸帯が巡る。60・61は逆L字口縁

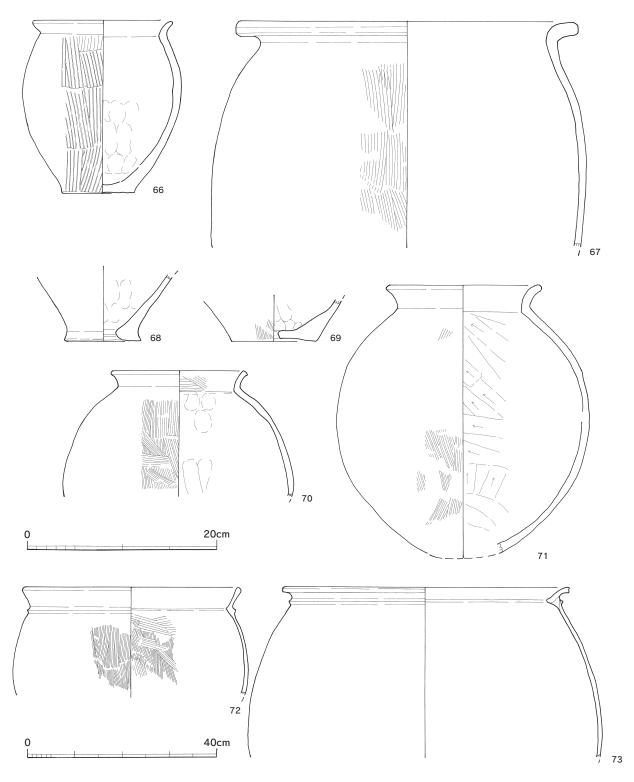


Fig.16 82号溝中層出土遺物実測図5 (1/4·1/8)

の甕で、60は胴部上半に太めのコ字凸帯が、61は口縁下にシャープな三角凸帯が1条巡る。66は口径が14.8cm、器高が18.3cmの小型甕で、口縁部は短く外反する。67は口径が36.2cmの中型甕。72は後期、73は中期後葉の中型甕で甕棺片である。74~85・89は高坏。74・75の坏は扁平な半球形で、75の体部には1条のシャープな三角凸帯が巡る。76~82の坏は鋤先口縁である。82は口径が28.3cm、器高が25cm。85は脚部上位にヘラ先状工具(?)で施文した刺突文状の圏線9条を巡らしている。89

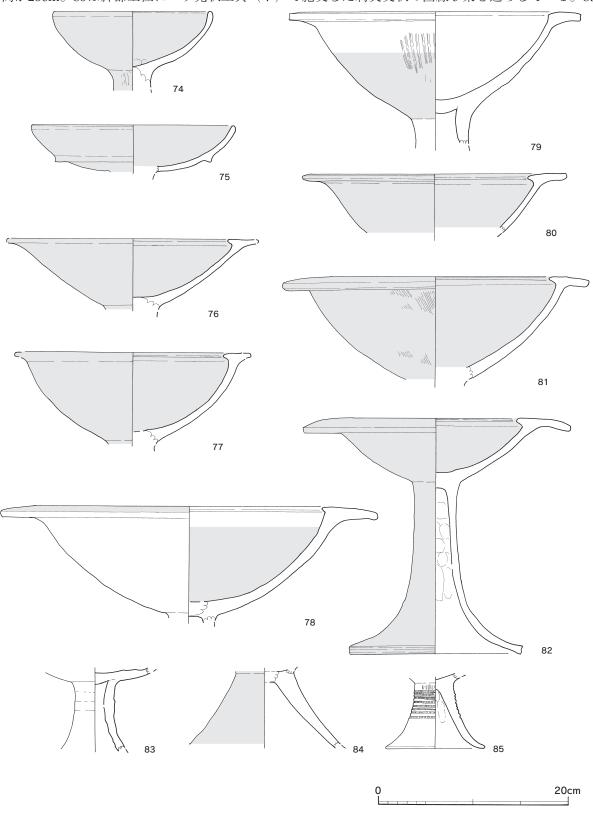


Fig.17 82号溝中層出土遺物実測図 6 (1/4)

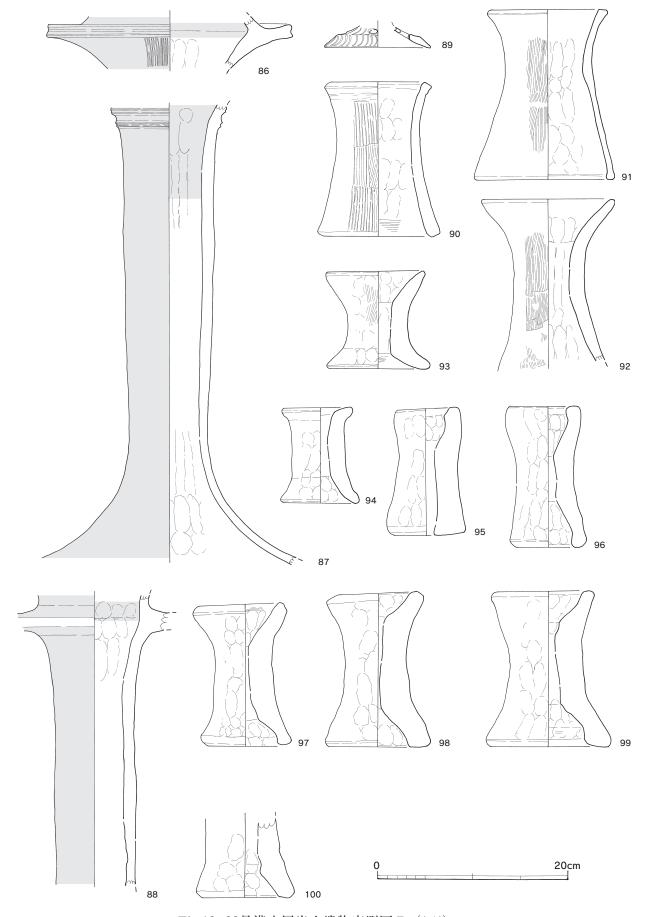


Fig.18 82号溝中層出土遺物実測図7 (1/4)

は裾部の外面に稜を作り、その稜線上に円孔を穿ち、更に「の」字状をした髭の様な暗文を施文している。86~88は丹塗りの筒形器台である。90~111は器台。112~119はミニチュア土器。120~133は鉢。136は丹塗りの注口土器。137・138は丹塗りの無形壷の蓋で、2孔一対の円孔を対称位に穿つ。139は甕の蓋。140は、長さが4.6cmの投弾で重さは17.9g。141~143は不明棒状土製品。

144~151は下層出土から出土した。144は、鋤先口縁の瓢形壷で、口径は19.6cm。口縁端には刻み目が巡る。胴部と頸部の境に三角凸帯が1条、ふたつの壷の継ぎ合わせ部には2条のコ字凸帯が巡る。145・146は扁平な倒卵形をした壷の胴部。147は、口径が12.8cmの丹塗り無頸壷。上唇部には2孔一対の円孔が対称位にある。148は、逆L字状口縁の甕で、口径は19.4cm、器高は22.6cm。149・150は器台である。150の受け部は内弯ぎみに立ち上がり、口径と底径は同法量の9.3~9.4cm。

 $152\sim154$ は、直径が 6 mm、厚さが  $3\sim4$  mmの滑石製臼玉である。 $155\cdot156$ は、ブルーのガラス小玉。157は、ボタン状をした不整円形の未製品で、中央に $1.5\sim2$  mmの円孔を穿っており、玉の可能性も考えられる。 $158\cdot159$ は、黒曜石製打製石鏃である。160は、長さが6.9cm、中央径が $1.8\times2$  cmの滑石製石錘である。 $161\cdot162$ は、滑石製紡錘車である。161は、上縁径が $1.6\sim1.8$ cm、下縁径が $3.2\sim3.4$ cm、高さが1.7cm、円孔径は  $6\sim7$  mm。側縁には、暗文状の研磨痕がある。 $163\sim166$ は、石庖丁である。163は、背側の対称位に孔径が  $4\sim5$  mmの紐通しの円孔を両側から穿っている。凝灰岩フォルンフェルス質。164は半月形をした石庖丁で孔径が 4 mmの紐通し孔を穿ち、鎬は明瞭に

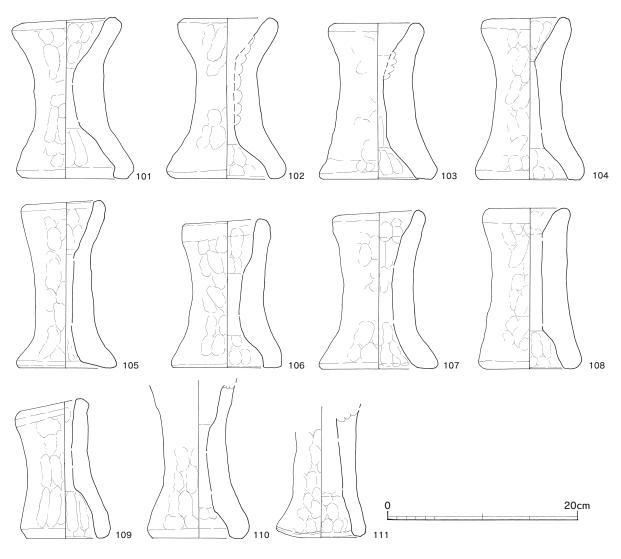


Fig.19 82号溝中層出土遺物実測図8 (1/4)

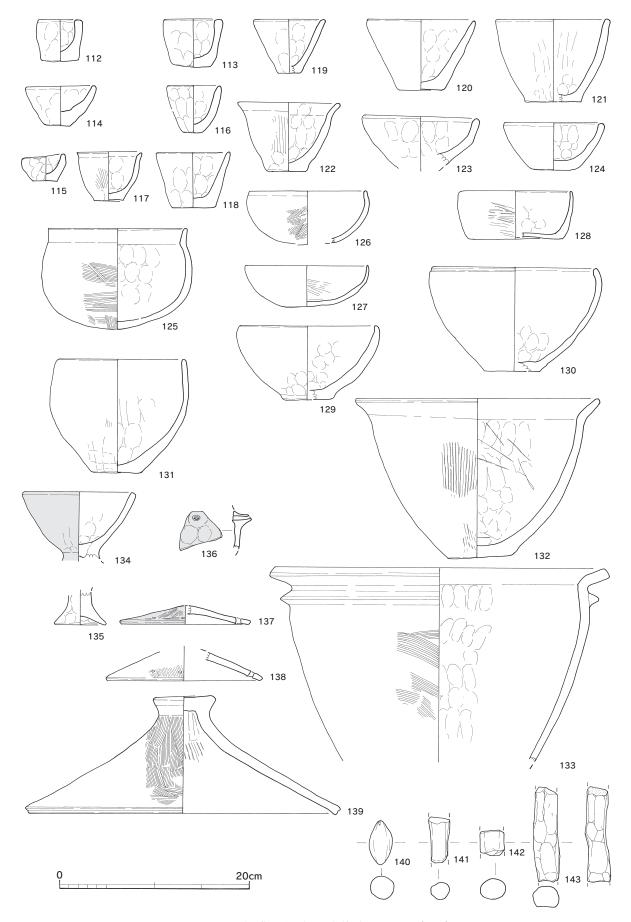


Fig.20 82号溝中層出土遺物実測図 9 (1/4)

残る。166は、頁岩質。167・168は砥石である。167は、長さが28.5cm、幅が13.7~15.7cm、厚さが5.5~8.2cmで、上縁と両側縁に砥面があり、弧状をした側縁の砥面は良く研ぎ込まれている。側縁の使用には安定のために埋め込んだことが考えられる。168の研磨痕が深く、金属器を研いだものか。

169は中細形銅戈が片面に彫り込まれた鋳型である。胡の部分から欠損しており、内が確認できる。残存幅7.2cm、残存長5.6cm、厚さ3.1cm、重さ151.5gを測る。全体に鋳型表面は黒変しており、実際に鋳造に使われたと判断できる。石材は肉眼観察によると石英斑岩である。内は右側の立ち上がりから欠損しており、正確な内幅は不明であるが、欠損ラインが直線であることから、欠損ラインを立ち上がりとして復元すると、内幅は2.0cmとなる。内には細い線刻が内の側面ラインと平行に認められるが、中心ではなく左側の立ち上がりとの間は0.9cm、右側の欠損ラインとの間は1.1cmとなっている。左側の立ち上がりには、1mm程度深く彫り込み、鋳造された製品には内の側縁部が立つ。図のように鋳型を設置した場合、彫り込み面には面を平滑に整えた線状痕が確認できる。下端面は湯口となり、内の彫り込みから左へ1.1cmの所に型合わせの印と思われる鋭い彫り込みが確認できる。下端面

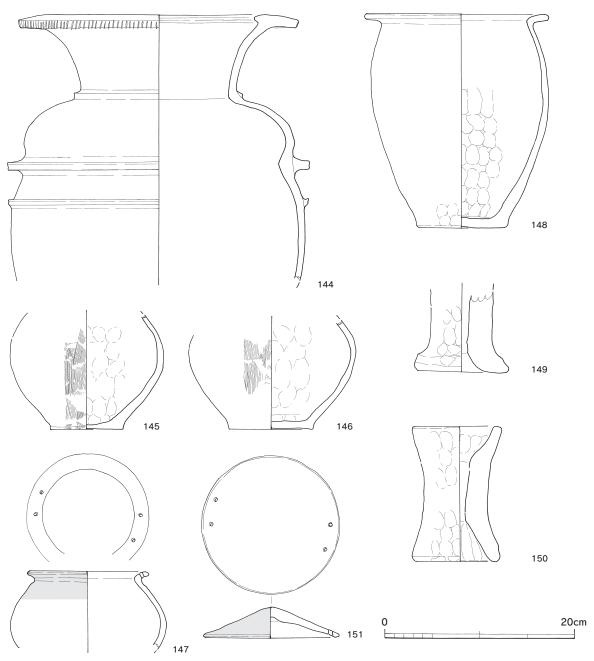


Fig.21 82号溝下層出土遺物実測図(1/4)

は敲打痕で整形されている。左側面は下端面より緩やかに広がり、敲打痕が確認できる。裏面は敲打痕と線状痕で平滑に整形されており、他の彫り込みや砥石への転用は確認できない。その他の面は欠損により不明であり。彫り込まれた製品は内の幅、胡の長さから中細形銅戈b類と考えられる。

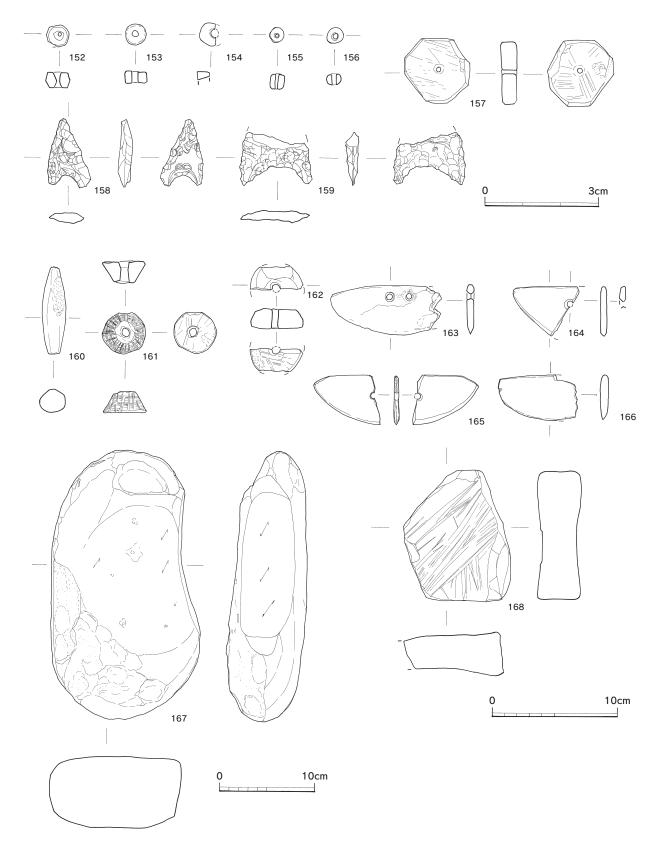


Fig.22 82号溝出土遺物実測図1 (1/1·1/3·1/4)

# 3. 古墳時代~古代の調査

古墳時代から古代の遺構は、竪穴住居 3棟 + a と土坑 3基を検出した。このうち竪穴住居は、中世の溝や井戸によって大きく破壊され、東西の壁面の一部をわずかに残しているに過ぎずその原形は留めていない。分布的には、Ⅱ区の東縁に沿って広がる傾向が窺え、50棟余の竪穴住居が幾重にも重複して検出された第23次調査区とは様相が大きく異なる。土坑はまばらに広がる。

# 1) 竪穴住居(SC)

**8号住居** SC-08 (Fig. 25 PL. 7)

8号住居は、Ⅱ区の南東隅に位置する 小型の住居で、17号住居よりも新しいが

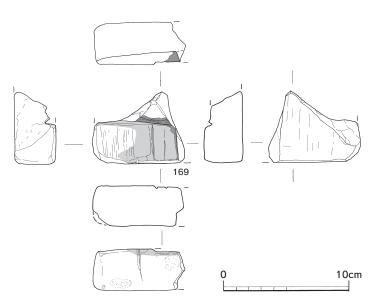


Fig.23 82号溝出土遺物実測図2 (1/3)

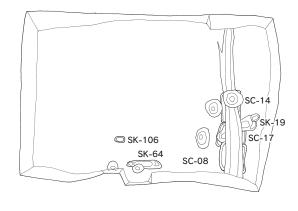
その中央部は20号溝によって大きく削平されているために東西壁を残してその大半が消失している。 平面形は、東西壁が320cmで南北壁が325cmほどの方形プランをなそう。壁面は、やや緩やかに立ち 上がり壁高は40cmである。床面は、20号溝の削平で20~40cmを残すが、中央部にむかって緩やかな 凹レンズ状をなす。壁下に周溝は巡らず、貼床や主柱穴は検出されなかった。覆土は、濃茶褐色土で 黄褐色ローム粒を僅かに含んでいる。遺物は、若干の混入が観られるが、土師器の甕・高坏や須恵器 の甕・坏・坏蓋片がわずかに出土し、古墳時代のものと考えられるが、明確な時期な判然としない。

# **14号住居** SC-14 (Fig. 25 PL. 7)

14号住居は、II区の東壁際に並ぶ3棟の住居群の中でもっとも北側あり、17号住居の北壁と接するように位置している。北東隅壁は63号井戸に、南西隅壁は13号井戸に削平されている。平面形は、東壁と北西隅壁を残すのみで判然としないが、南北壁が310cm、東西壁が340cmの方形プランをなそう。壁高は、東壁が30cm、西壁が20cmで壁面はやや緩やかに立ち上がる。床面は、大半が20号溝に削平されて判然としないが、貼床や壁下の周溝は確認できなかった。覆土は、濃茶褐色土で、須恵器甕や高坏のほかに土師器甕・竈片と瓦片がわずかに出土した。

# **17号住居** SC-17 (Fig. 25·26 PL. 7)

17号住居は、Ⅱ区の東壁際に並ぶ3棟の住居跡群の中央に8号住居と並列するように位置し、南壁は8号住居に切られている。平面形は、大半が20号溝によって削平され、南北壁が260cm、東西壁は260~330cmのやや歪な方形プランをなす。壁面は、東壁が急峻に西壁はやや緩やかに立ち上がり、壁高は東壁が40cm、西



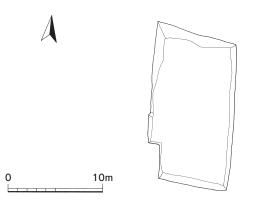


Fig.24 古墳時代から古代の遺構配置図 (1/400)

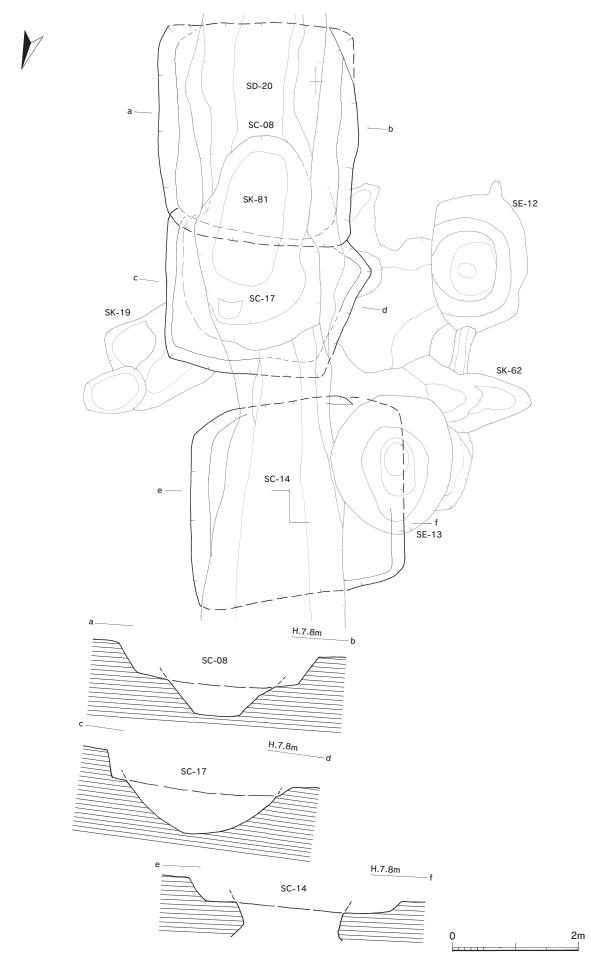


Fig.25 8·14·17号住居実測図(1/60)

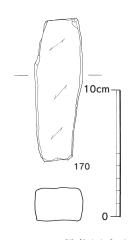
壁が20cmである。床面は、大半が消失しており、主柱穴や貼床は確認できな かった。覆土は、8号住居と大差のない濃~暗茶褐色土の単一層で、須恵器甕 や土師器甕・砥石のほかに石鍋や土鍋片の混入が観られた。

170は、長さが11.3cm、幅が2.9~3.8cm、厚さが0.9~2.9cmの手持ち型砥石で ある。砂岩質。

# 2) 土坑 (SK)

# **19号土坑** SK-19 (Fig. 27 PL. 7)

19号土坑は、Ⅱ区の南東部にあり、南壁は17号住居の北東隅壁を切ってい る。平面形は、長辺が160cm、短辺が140cmの長方形プランを呈する。東壁側 には幅が20~40cmの半月状をしたフラット面が付く2段掘り構造をなしてい る。壁高は12~15cm。坑底面は、浅い凹レンズ状をなし、そのフラット面か Fig.26 17号住居出土 ら25cmの深さにあり壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は、暗茶褐色土の単一 層で弥生土器片や土師器片のほかに丸瓦片がわずかに出土した。



遺物実測図 (1/3)

# **64号土坑** SK-64 (Fig. 27 PL. 8)

64号土坑は、Ⅱ区中央部の南壁際にあり、南壁は65号井戸を切っている。平面形は、長辺が 368cm、短辺は、西壁が40cm、東壁が70~80cmの棒状に長い長方形プランを呈する。主軸方位は、 N-77°-Eにとる。東壁下には60cm、西壁下には30cm余の長さの浅いフラット面が張り出してい る。坑底は、中央部がやや窪む凹レンズ状をなし横断面形は浅い舟底状をなす。壁面は、短辺側が急

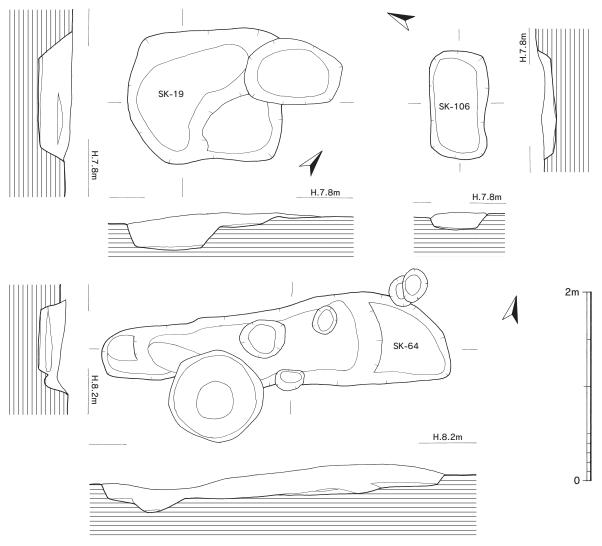


Fig.27 19·64·106号土坑実測図 (1/40)

峻に長辺側は緩やかに立ち上がる。壁高は、フラット面までが10~15cm、坑底までは25~30cmを測る。覆土は、黄褐色ローム粒を含む暗茶褐色土で、須恵器や土師器の甕や高坏、坏、坏蓋がわずかに出土した。

# **106号土坑** SK-106 (Fig. 27 PL. 8)

106号土坑は、Ⅲ区中央部の南壁寄りに位置し、2mほど南には64号土抗がある。平面形は、長辺が92cm、短辺が62cmの長方形プランを呈し、主軸方位をN-67°-Eにとる。壁面は緩やかに立ち上がり、壁高は18cm。坑底面は、西側が浅い凹レンズ状をなしている。覆土は、暗茶~濃茶褐色土。

# 4. 中世の調査

中世の遺構は、井戸4基と土坑10基、溝6条を検出した。分布的には、那珂川の氾濫原に近い西側にはあまり広がらず、古墳時代の竪穴住居と同じよう台地側の東に集中的に広がる傾向が窺える。このうち井戸は、1基を除いてフラスコ状に大きく広がる構造を示すもので那珂丘陵における該期通有の特徴を示している。また、土坑や溝は、構造や分布傾向が窺えず全体としてまとまりがない。

#### 1) 井戸 (SE)

#### **2**号井戸 SE-02 (Fig. 29·30 PL. 9)

2号井戸は、I区の中央部に位置する素掘りの井戸で、上縁の南から西壁側は撹乱坑で削平され、西には、3号溝がある。平面形は、直径が140~160cmの円形プランを呈する。壁面は、上縁から160~180cmほどフラスコ状に大きく広がって強い屈曲線を作る。この壁面が最大に広がる地点が鳥栖ローム層と八女粘土層の境をなす。次に、そこから内側にむかって20~40cm内傾して緩やかな稜線を作る。この面が検出面から200~220cmで、これより40~50cm下の八女粘土層中から湧水が観られ、稜線からは25~30cm径の井戸底にむかって急速に窄まる。この深さは180~200cmで、井戸底の標高は4.05m。覆土は、暗灰色~濃灰黒色土で、下層ほど黒味と粘質度が強くなる。遺物は、弥生土

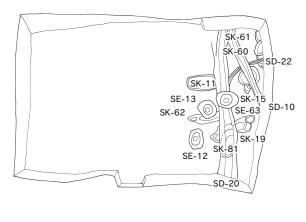
器や須恵器・土師器の甕、高坏等のほかに平瓦 片や高麗青磁碗、青・白磁碗が出土した。

171は、口径が24.4cmの土鍋で外面には煤が付着している。172は、底径が7cmの土師器小皿。

# **12号井戸** SE-12

(Fig. 31 ~ 33 巻頭 2 · PL. 10 · 11)

12号井戸は、II区の南壁の西寄りに位置する 素掘りの井戸で、北側2mの距離には13号井戸 がある。平面形は、南北長が125cm、東西長が 105cmの長方形プランを呈する。壁面は、検出面 より90~120cmの深さまでストレートに窄まり、 そこから80~100cmほど大きく外側へフラスコ 状に広がった後に60cmの比高差で緩やかに傾斜 する。井戸は、そこから2ヶ所に弱い屈曲線を 形成して直径が70×85cmの楕円形の井戸底にむ かって窄まる。井戸底のレヴェルは、3.85mであ る。井戸底からは、青磁碗や白磁碗・捏鉢・土 鍋に混じって桶やザル、曲物などがまとまって



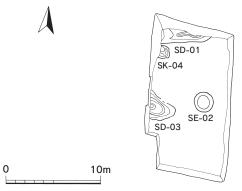
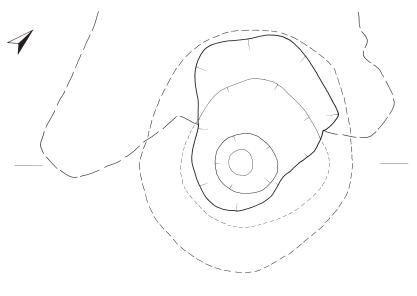


Fig.28 中世の遺構配置図 (1/400)

出土した。また、井戸の廃棄時には、開口部を灰青色粘土で厚く覆 い再利用を防ぐような感が窺えた。井戸底から出土したザルは保存処理中に損壊してしまった。

173~176は、口径が5.7~8cm の土師器小皿。173・174・176の 口縁部には油煙の付着が観られ、 灯明皿に転用されている。177 は、ミニチュア壷。178は、砂岩 質の五輪塔宝珠。179は、スギの 板目板の桶か曲げ物の底板であ る。長さ9.7cm、幅4.0cm、厚さ 7mmである。直径が10cmほど の小型の曲げ物か桶と思われる。 長辺部の両側に紐ずれと思われる へこみがあり、紐をかけて木札 のようにして再利用されたと思 われる。180は、スギの板目板を 用いた直径14~15cm、高さ13cm の円筒形の桶である。桶の側板 は18枚、幅は1.8~3.5cm、厚みは 5mmほどである。表面にタガの 痕跡が残るが、不明瞭である。内 面は黒褐色の塗料(漆か?)が塗 られている。底板は直径13cm、 厚さは7mmである。穿孔や紐か けの痕跡は見られない。181は、 スギの板目板を用いた持ち手付 きの桶である。直径18~19cm、 高さ16cmの円筒形を呈し、桶の 側板は16枚、幅は2.8~3cmのも のと、4cmほどのものがあり、 交互に組み合わさる。厚さは5 ~6mm。表面にタガの痕跡が残 る。タガは遺存していたが、取り 上げの過程で外れている。底板は 直径17cm、厚さ5mm。持ち手 は長さ19.5cm、幅3.5cmほどで、 両端は幅2.5cmほどに切り落とさ



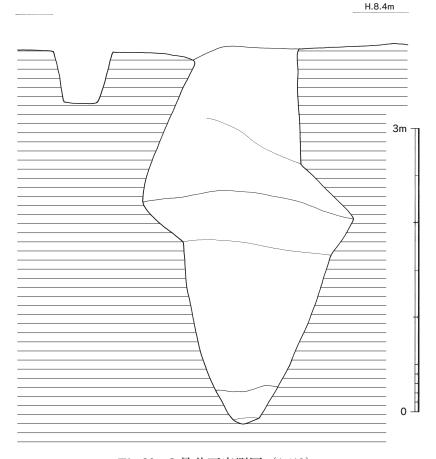


Fig.29 2号井戸実測図 (1/40)

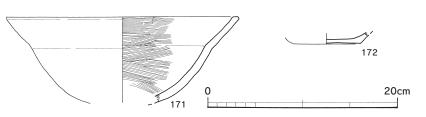


Fig.30 2号井戸出土遺物実測図(1/4)

れ、側板に開けられた孔に納まる。中央部が抉り込まれ、紐がかけられていたと思われる。やや小型であるが、この井戸の釣瓶桶として使用されていた可能性もある。182は、スギの柾目板の桶の底板。長さ19.1cm、幅7cm、厚さ 7 mm。直径20cmほどの小型桶の底板であろう。表面は丁寧に加工されている。183は加工棒材である。広葉樹の板目材で、長さ43.8cm、幅4cm、厚さ1.8cm。先端部に向かってやや細くなる。上端部は欠損している。全体的に粗い面取りが施される。184は舟形をした木製品である。針葉樹の板目板を用い、長さ28.8cm、最大幅 7 cm、厚さは2.8cm。平面形は両端部が細くなる舟形で、中心部からやや上端側に不整円形の孔がある。側面部は丁寧に面取りされている。185は加工板材。広葉樹の柾目板で長さ53.2cm、幅20.4cm、厚さは2.5cmで、下端部に向かって薄く、長辺の両端は面取り加工されている。形状は平鍬の未製品に似るが大型であり、おそらく農具ではない。表面には鉇による調整痕がみられ、上端部にくり込んだ加工痕がある。本来は方形の孔か

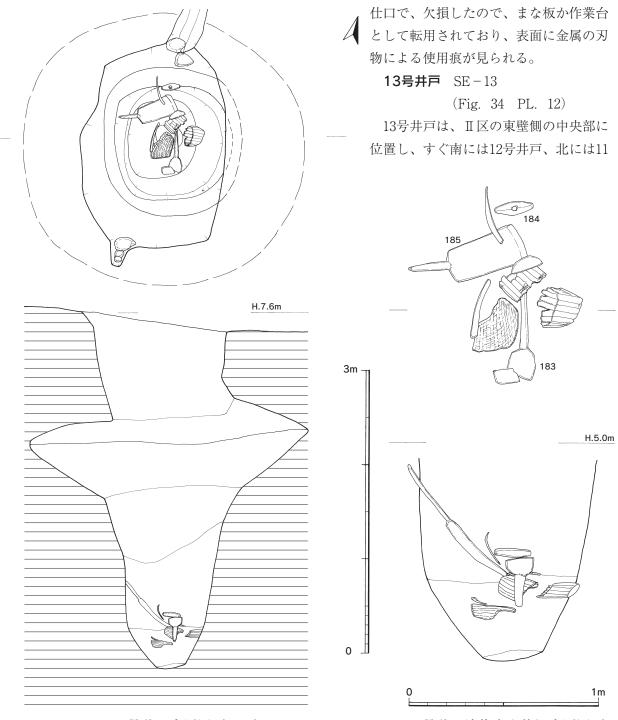


Fig.31 12号井戸実測図 (1/40)

Fig.32 12号井戸遺物出土状況実測図 (1/20)

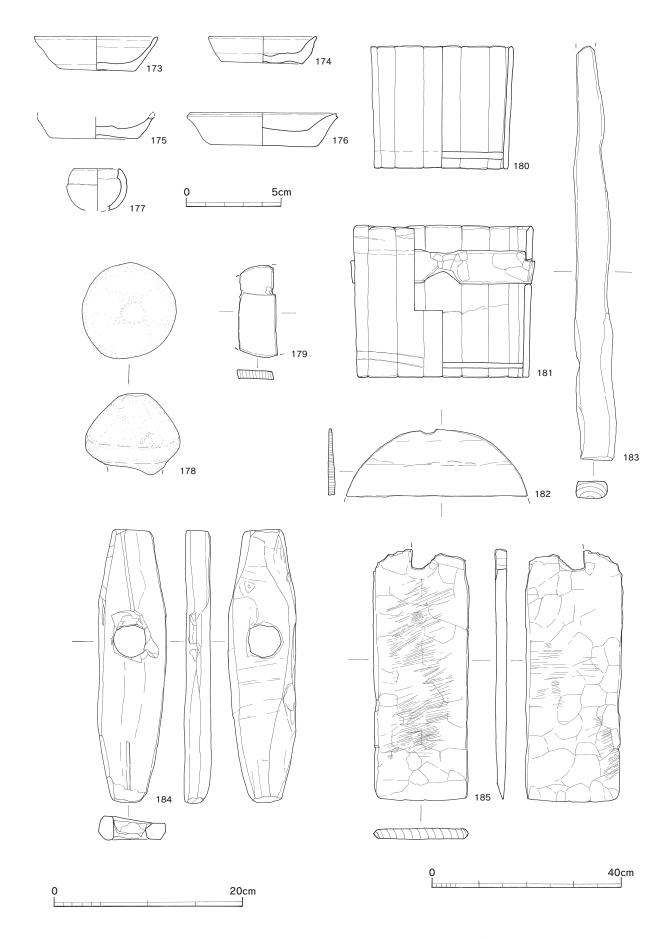


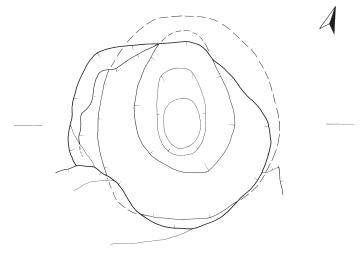
Fig.33 12号井戸出土遺物実測図(1/2·1/4·1/8)

号土坑がある。平面形は、直径が190×215cmの楕円形プランを呈し、壁面は、3ヶ所に緩やかな屈曲点を作りながら井戸底にむかって窄まる。壁高は455cmと深く、標高は3.45m。覆土は、上層から暗灰茶褐色土・濃茶褐色粘質土・黒褐色粘質土が互層状に堆積しており、須恵器甕や坏・坏蓋のほかに青磁碗・白磁碗・捏鉢・土鍋片などが出土した。

# **63号井戸** SE-63 (Fig. 35·36 PL. 13)

63号井戸は、Ⅱ区中央部の東寄りに位置し、 14号住居より新しく、20号溝よりも古い。2m 北東には15号土坑が、2m西には13号井戸があ る。平面形は、直径が230cm余の円形プランを なす。壁面は、井口より30~60cmほどフラス コ状に緩やかに膨らみ、そこから緩傾斜して標 高が3.85mの所に一度底面を作り、そこから更 に南へ60cmほどの深さに井戸底を掘り直して いる。最終的な底面のレベルは3.25m。また、 北西壁には、15号土坑の南西壁際から延びた流 路が流れ込んでいる。この流路状の遺構が貯水 を目的として作為的に掘り込まれたものか、井 戸の埋没前に偶発的に貫通したのかは判断でき なかった。覆土は、暗灰茶褐色~黒褐色土で下 層ほど粘性が強くなる。遺物は、土師器や須恵 器の甕のほかに青磁碗・陶器鉢・捏鉢・摺鉢な どのほかに桶の底板や仕口のある加工材が比較 的まとまって出土した。

186は、口径が13.8cmの土師器甕である。 187・188は、平底の弥生甕で、底径は187が 10.6cm、188は8.6cmである。189~191は桶 の底板である。189は、スギナナメ材で長さ 16.5cm、幅8.4cm、厚さ1.2cmである。直径 17cmほどの桶の底板であろう。表面は丁寧に 面取り加工されている。190は、スギの板目板 で直径16.3~16.8cm、厚さ1.1cmである。表面 は丁寧に面取り加工されている。191は、スギ の板目板で直径16.2cm、厚さ7mmである。表 面は丁寧に面取り加工されている。192は杭で ある。広葉樹の芯持材である。長さ34.8cm、 幅 4 cm、厚さ2.6cmで、本来は直径 4 cmほど である。先端は断面六角形に削って杭用の加工 がされていたと思われるが、全体に欠損が激し い。193は仕口のある加工棒材である。



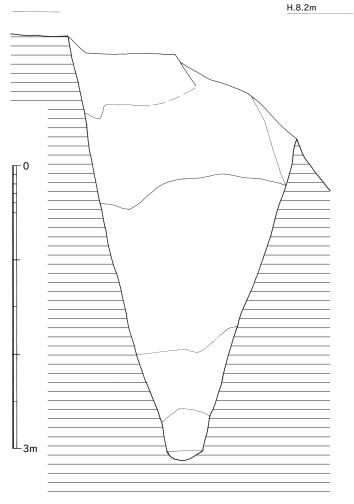


Fig.34 13号井戸実測図 (1/40)

H.8.0m

# 2) 土坑 (SK)

#### **4 号土坑** SK - 04

(Fig. 37 · 38 PL. 14)

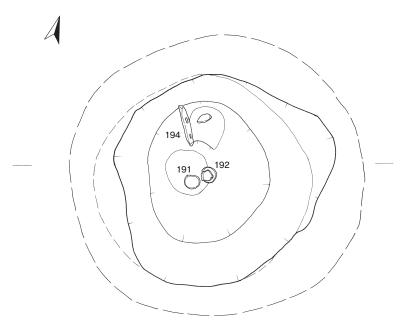
4号土坑は、I区の北西隅に位置し、すぐ北には東西方向に流れる1号溝がある。平面形は、西半が調査区外にあるために明らかではないが、短辺が140cmで長辺は170~200cm余の隅丸的な長方形プランをなそうか。坑底は、南北に2段の段状をなす。また東小口壁は北側が2段、南側が3段のやや歪な形状をなしている。壁面は、階段状部がやや緩やかなほかは急峻に立ち上がる。坑底の最深部までは53cm。覆土は、暗灰黄~暗灰黄褐色土の単一層である。

194は、凝灰岩フォルンフェルス質の石庖丁である。

#### **11号土坑** SK-11

(Fig. 39 PL. 14)

11号土坑は、Ⅱ区の北東部に位置 する大型の土抗で、東小口壁の一 部は20号溝に削平されている。平 面形は、南北長が140cmの隅丸長方 形プランを呈し、東西長は335cmほ どになろう。ただし、東小口壁が 140cm、西小口壁が125cmと15cm の差があり、台形的な形状を呈す る。主軸方位は、N-83.5°-E。 壁面は、北東隅壁を除いて急峻に 立ち上がり、壁面の深さは、35~ 50cm。横断面形は、浅い凹レンズ 状をなし、坑底は西小口側にむかっ て緩傾斜し、深さは55~60cmを測 る。覆土は、暗灰黄色~灰黄褐色土 の単一層で、下層には赤黄褐色粘土 ブロック層の堆積層がある。遺物 は、須恵器甕・坏や土師器甕・青白 磁碗・土鍋片のほかに滑石片がわず



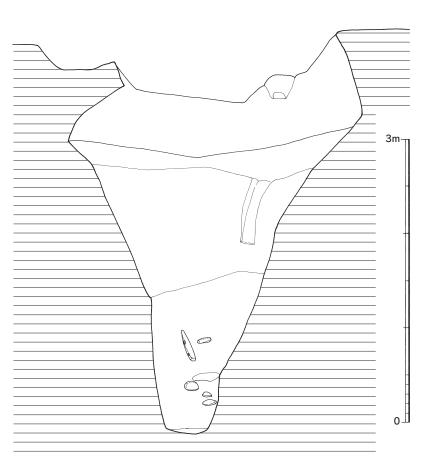


Fig.35 63号井戸実測図 (1/40)

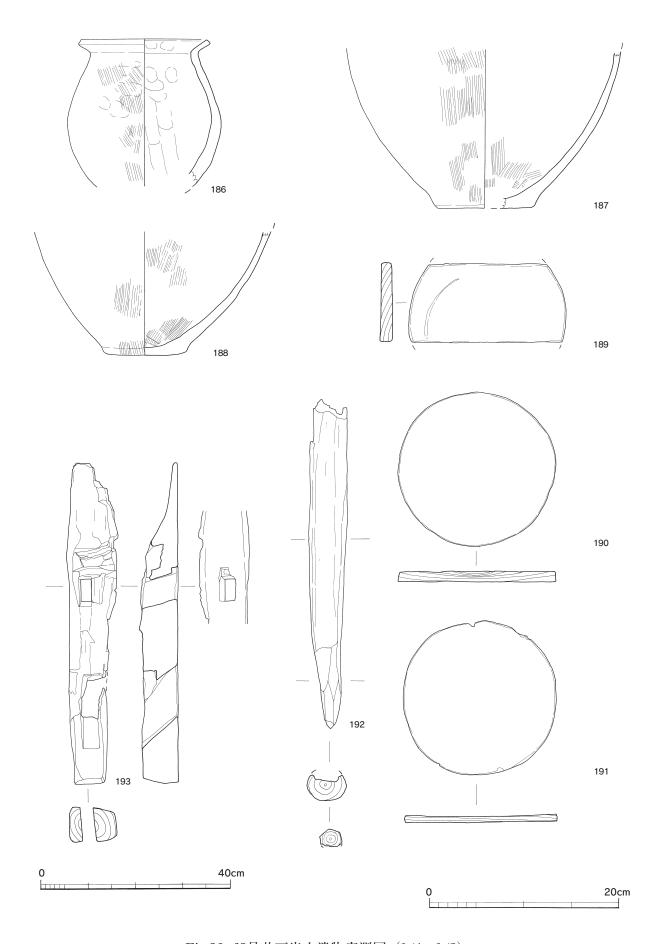


Fig.36 63号井戸出土遺物実測図(1/4・1/8)

かに出土した。

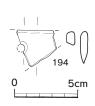
# **15号土坑** SK-15 (Fig. 40 PL. 14)

15号土坑は、Ⅱ区の北東部隅に位置する大型 の土坑で、土坑の中央部には北北西から南南東 にむかって深さが40cmの10号溝が直線的に延 びている。平面形は、直径が215cmの円形プラ ンを呈し、壁高が57cmの坑底は、ほぼフラッ トで箱形の断面形をなしている。一方で、南 壁側には、幅が73cm、長さが90cmの突起状 の張出し部がある。この張出し部は、10cmほ どの深さで狭い階段状のテラス面を作り、一 旦20cmほど緩傾斜してそこから更に、40cmほ ど下りながら西壁に沿うように緩やかな段を 作って屈曲している。この緩やかな屈曲溝の最 深部は標高が6.8mで、中央部の段状面には、 15cm×25cmの小児の頭大の転石が埋め込むよ うにしてある。ただし、この屈曲溝は、ここで 終息せずにそのまま坑底下に潜り込んで、南南 西に隣接している63号井戸の北壁に水路状に 繋がっている。覆土は、暗灰黄色~暗灰黒色土 で、若干量の赤黄褐色粘土小ブロックの堆積が 観られた。遺物は、土師器細片がわずかに出土 した。

#### **16号土坑** SK-16 (Fig. 40 PL. 15)

16号土坑は、II区中央部の南寄りに位置する東西軸の小型土坑で、すぐ南東には12号井戸がある。平面形は、長辺が120cm、短辺が108cmの長方形プランを呈し、主軸方位はN-73°-Eにとる。坑底はフラットで、東小口側には幅が35cm、深さが8~10cmの掘り込みがある。壁面は、急峻に立ち上がり壁高は18cm、東小口壁下の最深部までは28cm。覆土は、暗灰黒色土の単一層で白磁碗片が出土した。

**25号土坑** SK-2 (Fig. 40 PL. 15) 25号土坑は、II区の中央部に位置する小型



の土坑で4m東には16号土坑 がある。平面形は、長辺が 125cm、短辺が80cmの長方 形プランを呈し、主軸方位 は、N-73.5°-Eにとる。

Fig.38 4号土坑出土 遺物実測図 (1/3)

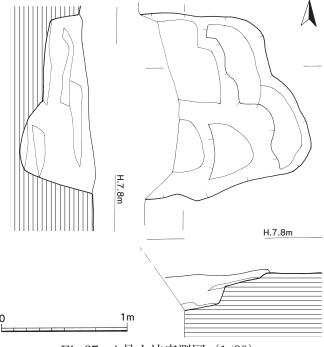


Fig.37 4号土坑実測図(1/30)

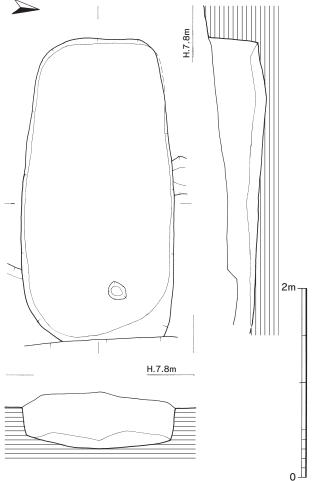


Fig.39 11号土坑実測図 (1/40)

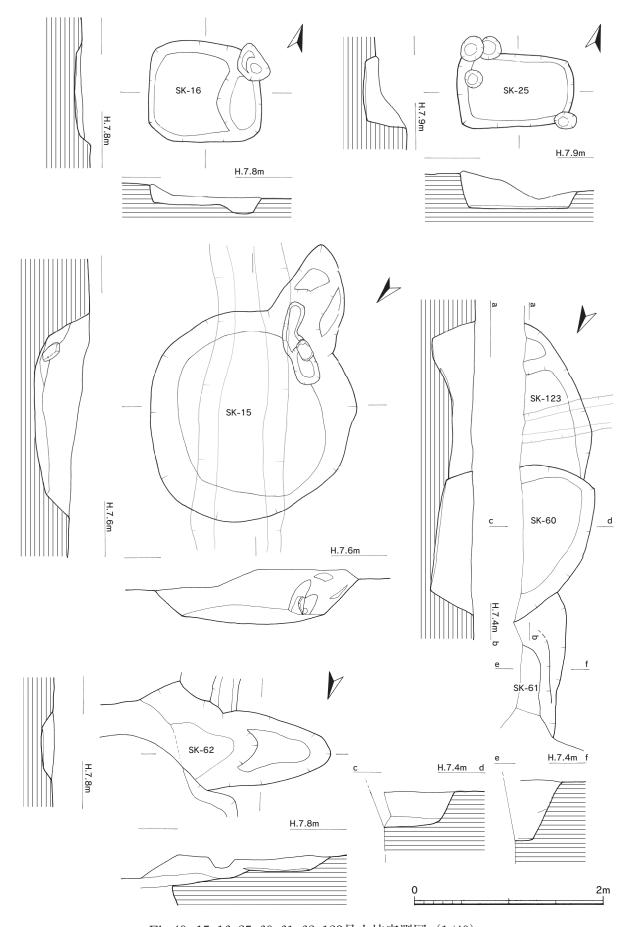


Fig.40 15·16·25·60·61·62·123号土坑実測図(1/40)



Fig.41 81号土坑実測図 (1/40)

壁高は20~45cmで、壁面は急峻に立ち上がる。坑底はフラットで、断面形は逆台形をなす。覆土は、暗灰黒色土で、土師器片や陶器片が出土した。

# **60号土坑** SK-60 (Fig. 40)

60号土坑は、Ⅲ区東壁際の北寄りに位置し、北は61号土坑を南は123号土抗を切り、3者の中で最も新しい。東半部が調査区外に広がるが、南北長が180cm、東西長が130cmほどの楕円形プランになろう。壁面は緩やかに立ち上がり、深さは40~45cmでフラットな坑底は、北へ緩やかに傾斜する。覆土は、濃灰黒色土で抗底にはやや粘性の灰黒色土層が薄く堆積していた。遺物は、瓦器壷や捏鉢・土

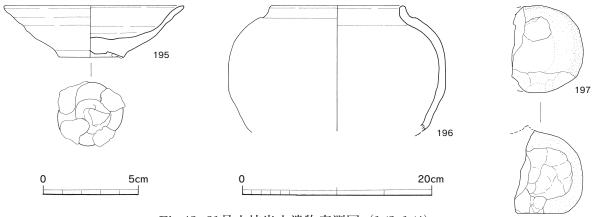


Fig.42 81号土坑出土遺物実測図 (1/2·1/4)

# 鍋・青磁碗片が出土した。

# **61号土坑** SK-61 (Fig. 40)

61号土坑は、II区の東壁の北寄りに 並ぶ3基の土坑(SK-60・61・123) のうちで最も北寄りに位置する土坑 で、南壁は60号土坑に切られている。 その大半が調査区外に拡がっているた め全容は明確ではないが、直径が160 ~200cmの円~楕円形プランを呈する ものであろう。深さが60cmほどの壁 面は緩やかに立ち上がり、中位の一 30cm付近で緩やかな稜を作る。覆土 は、暗灰黄褐色~濃灰黄色土で、遺物 は、擂鉢や捏鉢・白磁片がわずかに出 土した。

# **62号土坑** SK-62 (Fig. 40)

62号土抗は、II 区南東部にある12号井戸のすぐ北にあり、北壁は13号井戸に、東壁は20号溝に削平されている。平面形は、短辺が78cmで長辺は180~200cm余の細長い楕円形プランをなそうか。西壁には緩やかなフラット面を作り、そこから15cm余り掘り込んで浅い凹レンズ状の抗底に至る。壁面は緩やかに立ち上がり、壁高は27cm。覆土は、暗灰黄褐色土の単一層で、土師器皿や捏鉢・陶磁器片がわずかに出土した。

## 81号土坑 SK-81

(Fig. 41 · 42 PL. 15)

81号土坑は、II区の南東部に位置し、調査区の東壁に沿って南北流する20号溝の溝底に掘り込まれており、17 a 号住居よりも新しく、20号溝よりも古い。土坑は、20号溝の溝底検出後に確認したため本来の形状は明らかでないが、17号住居の東西壁の状況からすると、長辺が350cm、短辺が260cmほどの楕円形プランが想定される。壁高は95cmほどでN-5°-Wに主軸方

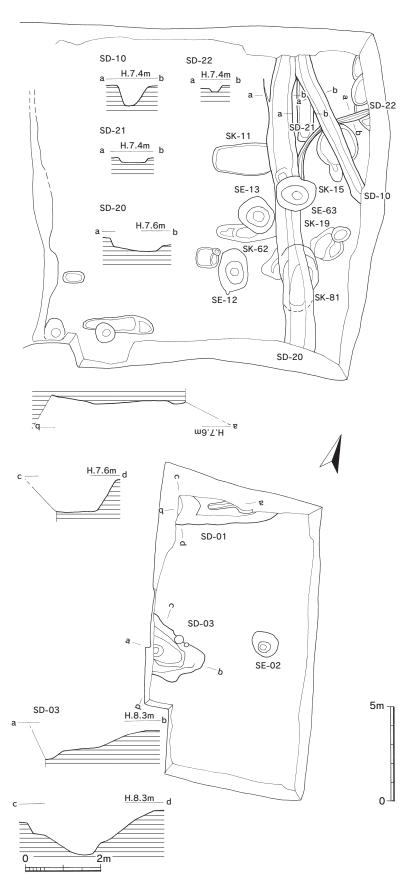
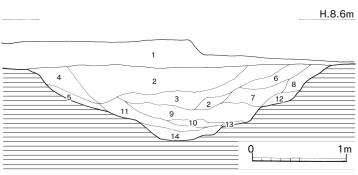


Fig.43 1·3·10·20·21·22号溝実測図(1/100·1/200)

位をとる。壁面は緩やかに立ち上がり、 北東隅壁際には、幅が40cm、奥行きが 25cmの小さなステップ状のフラット面 が坑底より35cmほど上面に付設されて いる。20号溝の底面から坑底までの深さ は33cm、標高は6.12mで坑底は八女粘土 層の上面にまで達している。覆土は、暗 茶褐色~濃灰黒色土である。上層の遺物 は、20号溝のものが混入しているが、遺 物は、須恵器や土師器・土鍋・捏鉢・瓦 のほかに白磁碗・染付碗片が出土した。

195は、口径が9.5cm、器高が2.7cmの 青磁皿である。底面の4ヶ所に目跡が残 る。196は、土師質の火鉢。外面には煤 が付着している。197は、砂岩質の五輪塔宝珠である。



#### 凡例

- 1. 客土
- 2. 黄褐色粘土ブロック+黒色土
- 3. 褐灰色土
- 4. 褐灰色:弱軟質
- 5. 灰黄褐色土:ローム粒僅少混入
- 6. 黄褐色粘土粒土
- 7. 黒褐色土

- 8. 灰黄褐色土+粘土ブロック粒混入
- 9. 灰黄褐色土:ローム小ブロック粒少量混入
- 10. 黄褐色粘土粒層
- 11. にぶい黄褐色土:ローム粒僅少混入
- 12. 黒褐色土:やや軟質
- 13. 黒褐色土
- 14. 黑色土

Fig.44 3号溝土層断面実測図 (1/40)

#### **123号土坑** SK-123 (Fig. 40)

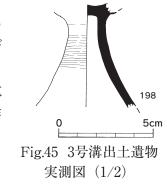
123号土坑は、Ⅱ区東壁の北寄りに位置し、西には15号土坑と10号溝があ る。また、北壁は60号土坑の南壁に削平され、坑央には122号溝が東西に延び ている。平面形は、定かでないが、直径が250~300cmの円~楕円形プランを なそうか。深さが25~30cmの壁面はやや緩やかに立ち上がる。フラットな坑 底は北に緩傾斜するが、南壁は10cmほどの比高差で階段状のフラット面を作 る 2 段掘りの構造をなしている。 覆土は濃灰黒色土の単一層である。

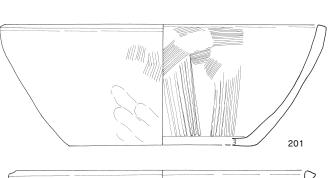
# 3) 溝(SD)

#### **1号**溝 SD-01 (Fig. 43 PL. 16)

1号溝は、 I 区の北壁に沿って延びる溝で 北壁が調査区外に広がっており溝幅は明らか ではない。溝は、緩やかに傾斜しながら西に むかって低くなり、その形状や遺物・覆土の 状況から北へ矩形に延びてⅡ区の20号溝に繋 がるものと考えられる。覆土は、黄褐色ロー ム粒を含む暗灰黄褐色土。遺物は、須恵器甕 や瓦器・捏鉢・陶磁器片がわずかに出土し た。

**3号溝** SD-03 (Fig. 43~45 PL. 16) 3号溝は、I区西壁の中央部に位置し、 4m北に4号土坑がある。溝幅は150~260cm で西は調査区外に延びている。壁面は、緩や かに立ち上がるが東壁は3段のフラット面を 作って溝底に至る。壁高は80cm。覆土は、 暗茶~暗灰黒色土で弥生土器器台や土師器





199

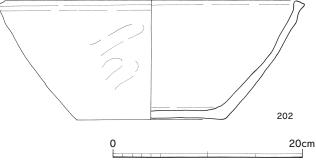


Fig.46 20号溝出土遺物実測図 (1/4)

甕・須恵器甕・坏・陶磁器片のほかに石鍋片が出土した。溝の西側が判然としないが、土坑の可能性も考えられる。

198は、須恵器高坏である。絞りを加えながらのナデ調整であるが、脚部上半はカキ目状のナデ仕上げ。胎土は精良で、微細砂を含み焼成は堅緻。灰色。

# **10号溝** SD-10 (Fig. 43 PL. 16)

10号溝は、II区の北東隅を南北流する幅が70~90cmの溝で、現長は8m。北西隅は21号溝を、南東端は15号土坑を切っている。壁高は40cmで、溝底は浅い凹レンズ状をなす。遺物は、青・白磁碗や捏鉢・摺鉢・染付碗のほかに土師器や須恵器甕片が出土した。

**20号溝** SD-20 (Fig. 43·46 PL. 16) 20号溝は、Ⅱ区の東寄りを南北流する直線的な

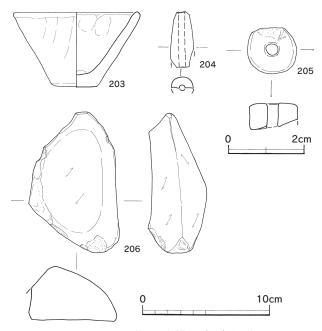


Fig.47 その他の遺構と包含層出土 遺物実測図 (1/1·1/3)

溝で、南は西へ矩形に曲がって I 区の 1 号溝に繋がると考えられる。溝幅は $100\sim120$ cmで、溝底は浅い凹レンズ状をなす。壁面は緩やかに立ち上がり、深さは $30\sim60$ cm。覆土は、暗灰黒色土の単一層で青・白磁碗や瓦碗・土鍋・陶器甕・瓦片が出土した。

199は、口径が7.5cmの土師器小皿。200は、底径が7.6cmの土師器坏。201は、口径が34.4cm、器高が13.8cmの瓦質の摺鉢。202は、口径が32.6cm、底径が15.6cm、器高が12.6cmの捏鉢。

# **21号溝** SD-21 (Fig. 43 PL. 16)

21号溝は、II 区北部の10号溝と20号溝に挟まれた短い溝で、溝幅は80cm、現長は $4\sim5$  mで深さは15cmと浅い。遺物は、土師器片のほかに瓦器・捏鉢・陶磁器片が出土した。

#### **22号溝** SD-22 (Fig. 43)

22号溝は、Ⅲ区の北東部を63号井戸から123号土坑にむかって弧を描いて延びる細溝で10号溝よりも古い。溝幅は20~30cm、深さは15cm。覆土は暗灰茶褐色土で、土師器片がわずかに出土した。

# 5. そのほかの遺構と包含層の遺物 (Fig. 47)

各遺構のほかに柱穴や遺物包含層から各種の遺物が出土した。

203は、口径が10cm、器高が5.9cmのミニチュア鉢。204、長さが4.4cmの土錘。205は、直径が、厚さが0.6cmの滑石製臼玉。206は、砂岩質の砥石で砥面は2面である。

# Ⅲ. おわりに

本調査では、弥生時代から中世に至る各期の竪穴状居や井戸、土坑、溝などを検出したほかに柱痕跡を残しながらもひとつの建物として捉えられなかった柱穴が多数ある。また、基盤層上には、薄い遺物包含層が確認されている。ここで特筆されることは、南東に隣接している第23次調査区の折り重なるような遺構の検出状況とは大きく異なる。なかでも古墳時代の竪穴住居や中世の井戸・溝など

は、調査区の東に寄って広がる傾向が窺え、該期の集落域の西限域と云えよう。これは、那珂川の氾濫原に面することに起因するものと考えられる。次に大きな問題点は、丘陵西縁に迫る那珂川の氾濫原上に開削された大溝(82号溝)である。この溝中からは、弥生時代中期後葉から後期初頭の多様な土器や銅戈の鋳型片などが出土した。この溝は、現状では南北に長く延びるが、その南は東へ矩形に折れて23次調査区の40号溝へと続き、更には97・114次調査区の2030号溝を経て20次調査区の1号溝へと続く総延長が320mの長大な溝になると考えられる。このことからこの溝は、これ以北を取り囲む一種の環壕と考えることが出来ようか。また、この域内には97・114次調査区とその北方150mの100次調査区には甕棺墓域が広がり、それを取り巻くように集落域が広がっている。更に、本調査区を初め、23・97・114・20次調査区の溝や域内からは青銅器の鋳型片や中子が出土しており、その集落域内において青銅器の製造が行われていた可能性が十二分に考えられよう。諸制約の中で十分に検討できなかったが、調査資料の増加を待って詳細な検討を加えた上で論究したい。

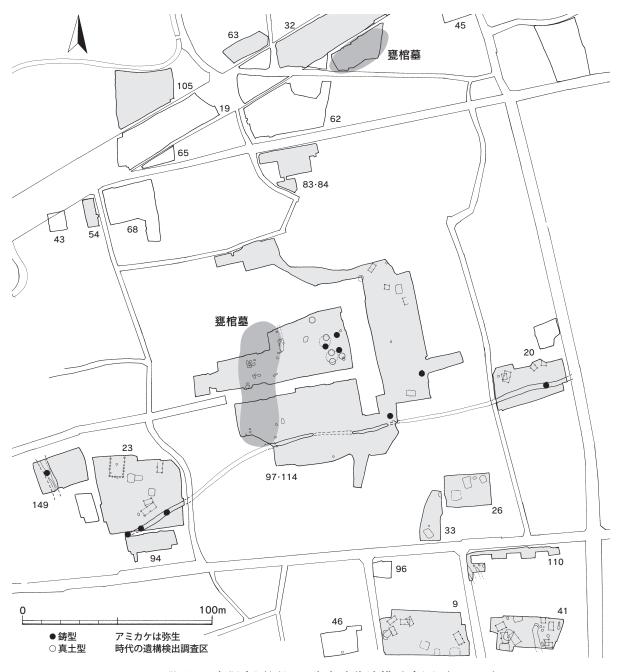


Fig.48 那珂149次調査区周辺の弥生時代遺構分布図(1/2000)

# 出土土器観察表凡例

# (1) 法量

- 現存または復原される数値を記載した。
- 上段が口径、中段が底径、下段は器高を示す。
- (2) 調整手法の特徴
  - 調整の用語はカタカナで略式的に記載した。
  - 上段が内面、下段が外面の手法を表し、各々上から下への順に記載した。

# (3) 胎土

- 砂粒の大小は、微細<細<小砂 (1 mm 粒) <中砂 (1 ~ 2 mm 粒) <粗砂 (3 mm 粒以上)
- 混入物の量は、僅少く少量く (無冠) <比較的多い<多いの順を基本とする。

# (4) 色調

○ 濃淡→主調となる色→加わる要素としての色の順で示した。

#### (備考)

- 土器の摩耗や2次的変化について記載した。
- ※ 土器 No は、本文・挿図中の No と一致している。

# Tab.4 出土土器観察表 1

No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量(口径・ 底径・器高)cm	胎土	焼成	色調 (上:内) (下:外)	調整(上:内)(下:外)	備考
1	Fig8	122号井戸		弥生	丹塗り 壷	22.2 8.9+ a	精良であるが、小〜中 砂粒を少量含む	良好	橙色 朱色	ヨコナデ〜ナデ・指頭押圧ナデ ヨコナデ	頸部と胴部の屈曲面に三角凸帯が 1条巡る 頸部内面の上半まで丹塗り
2	Fig8	122号井戸		弥生	丹塗り 壷	15.9+ a	精良であるが、小〜粗 砂粒を含む	良好	灰褐色 朱色(素地は橙色)	指頭押圧ナデ ナデ	顕部と胴部境の屈曲面に1条の三 角凸帯と胴部上半に深いコ字凸帯 と三角凸帯が各々1条巡る 調整は丁寧で丹塗り研磨は摩滅が 著しい
3	Fig8	122号井戸		弥生	蹇	15.3 10.8+ a	やや粗く、小〜粗砂粒を含む	良好	にぶい橙色	ョコナデ〜ナデ後にケズリ ョコナデ〜ナデ後にハケ目	ハケ目幅は2~3mmと粗い
4	Fig8	122号井戸		弥生	蹇	6 11.4+ α	やや粗く、小〜中砂粒 を多く含む	良好	灰白色~灰色	ナデ後にヘラケズリ、内底面は指 頭押圧ナデ ナデ後にハケ目~ケズリ	器肉厚く、調整も粗い
5	Fig8	122号井戸		弥生	甕	31 8.1+ a	やや粗く、小〜粗砂粒を含む	良好	橙色	ョコナデ〜押圧ナデ ョコナデ〜ナデ	外面は摩滅が著しい
6	Fig8	122号井戸		弥生	甕	31.5 14.1+ a	良質で、小~中砂粒を 少量含む	良好	橙色	ョコナデ〜ナデ ョコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は、約2mmと粗い 調整は粗い
7	Fig8	122号井戸		弥生	丹塗り 鉢?	15.8 6.9+ a	精良であるが、小砂粒 と雲母粒を多く含む	良好	朱色	ヨコナデ後に丹塗り研磨 ヨコナデ後に丹塗り研磨	口縁部下に2条のM字凸帯が巡る 外面は摩滅が著しい
8	Fig8	122号井戸		弥生	高坏	18.4 6.5+ α	精良	良好	淡橙色	ヨコナデ〜ナデ・ハケ目、体部は 粗い研磨 ヨコナデ〜ナデ	土師器高坏 内底面には摩滅あり
9	Fig8	122号井戸		弥生	高坏	16.6 13 12	精良で、少量の雲母微 細を含む	良好	橙色	坏:ヨコナデ〜ナデ・ハケ目 脚:ヨコナデ〜ケズリ 坏:ヨコナデ〜ナデ 脚:ナデ〜ヨコナデ	土師器高坏 脚裾に波線状の絵画的線刻がある 整形・調整は丁寧
10	Fig8	122号井戸		弥生	鉢	4.6 5.6+ a	粗く、中〜粗砂粒を含む	良好	橙色 灰褐色	ナデ〜指頭押圧ナデ ナデ〜ハケ目	ハケ目幅は1mmとやや細かい 小型甕の可能性もあり得る
11	Fig11	82号溝	上層	弥生	蹇	20.4 12.6 32.7	粗く、多くの細〜石英 粗砂粒と僅少の赤鉄 鉱塊を含む		明赤橙色~くすんだ黄橙色 淡明黄橙色~くすんだ赤橙色	ョコナデ~ヘラケズリ ョコナデ~押圧ナデ後にハケ目	ハケ目幅は1~1.5mm 胴部下半〜外底面2次被熱による 赤変と黒斑あり 摩滅顕著

# Tab.5 出土土器観察表 2

				Tab.5 出土土奋鲵祭表 2										
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量( 口 径・ 底径・器高)cm	胎土	焼成	色調(上:内)(下:外)	調整 (上:内) (下:外)	備考			
12	Fig11	82号溝	上層	弥生	甕	14.2 15.7+ a	良質で、小砂粒を含む	良好	橙色	ョコナデ〜押圧ナデ後にやや粗 いケズリ ョコナデ〜指頭押圧ナデ	口縁部は、直口した後に小さく外 反する 整形・調整は粗い			
13	Fig11	82号溝	上層	古墳	甕	15.5 22.8+ a	良質であるが、微細~ 石英小~粗砂粒を多 く含む	良好	橙色 淡橙色	ヨコナデ〜押圧後に粗いヘラケ ズリ ヨコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は1~1.5mmでやや粗い ヘラケズリは下半は下から上へ、 上半は右から左へ 内外面とも調整は粗い			
14	Fig11	82号溝	上層	弥生	高坏	17.4cm 8.3+ a	良質で、微細~小砂粒 を比較的多く含む。	良好	赤橙色	坏:ヨコナデ〜ナデ 脚:ケズリ状のナデ 坏:ヨコナデ〜ケズリ状にナデ 脚:絞り状のヨコナデ	坏内面に1条のヨコ凹線が巡り、内 底面に炭化物様の 黒色物が付着 摩滅顕著			
15	Fig11	82号溝	上層	弥生	丹塗り 筒形器台	7.5+ a	精良で、比較的多くの 微細〜細砂粒と少量 の雲母微細を含む	良好	淡明橙色 淡灰橙色	指頭ヨコナデ 丹塗り研磨	<b>鍔端部に3条の浅い凹線が巡る</b>			
16	Fig11	82号溝	上層	弥生	器台	9.2 13 11.2	粗く、多くの細〜石英 中砂粒と若干量の雲 母微細を含む	良好	淡黄白褐色~淡黄橙色 淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ、一部にハケ目	受け部側に2次被熱による赤変→ 支脚に転用? ハケ目幅は1mm弱で細かい			
17	Fig11	82号溝	上層	弥生	蓋	17.6	やや粗く、多くの小~ 中砂粒と少量の雲母 を含む	良好	橙色	指頭押圧ナデ	無形壷の蓋			
18	Fig11	82号溝	上層	弥生	瓦器碗	17 5.6+ α 5.7	精良	良好	灰色	ヨコナデ ヨコナデ〜粗い研磨	底部はナデで、高台高は2~3mm			
19	Fig11	82号溝	上層	弥生	手捏 ミニチュア 鉢	3.1	精良であるが、僅少の 小砂粒を含む	良好	橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ				
20	Fig11	82号溝	上層	弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	4.6 3.5	良質で、少量の小~中 砂粒を含む	良好	橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	底部は尖底気味の盃条をなす 整形・調整はやや粗い			
24	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	11.7 12.8+ a	精良で、少量の微細〜 細砂粒を含む	良好	朱色(赤身の濃い淡明赤 橙色)	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ〜指先の押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ?〜丹塗り研磨	長顎の袋状口縁壷 口縁内面まで 丹塗り 頸部内面に丹零れ 丹塗り研磨は丁寧な仕上げ			
25	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	8.6 6 18.1	精良で、多くの微細~ 小砂流の外に僅少の 雲母微細と赤鉄鉱塊 を含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ後に丹塗り研磨?	胴部下半に2次被熱による赤変あり 袋状ッ口縁内と胴部外面に赤色顔 料の塗布痕がある →丹塗壷 丹の剥落顕著			
26	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	11.3 7.5 18.3~18.7	精良で、微細〜細砂粒 を比較的多く含む	良好	淡明黄橙色 朱色(赤橙色)	ヨコナデ〜指頭・指先の押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ〜やや粗いハケ 目後に丹塗り研磨	短顎の袋状口縁壷 内面底近くに 丹零れあり 胴部内側には炭化物様の黒色物付 着 全体的に歪			
27	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 長頸壷	16 27+ a	精緻で、比較的多くの 微細〜細砂粒と若干 量の赤鉄鉱塊を含む	良好	淡押灰色 朱色(素地は淡黄橙色)	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ後に丹塗り研磨	袋状口縁の内側まで丹塗り 袋状口縁下と胴部上半に各々2状 のM字凸帯が巡る			
28	Fig12	82号溝	中層	弥生	壷	21.6 5.1+ α	精良であるが、微細~小砂粒をやや多く含む外に雲母微細と赤鉄鉱小塊を含む	良好	濃赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ、ハケ目 ヨコナデ	口縁部上唇に2cm径の円形浮文貼 付 胎土的に丹塗り土器の可能性も			
29	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	23.9 5.4+ a	良質で、多くの微細~ 小砂粒と僅少の雲母 微細・赤鉄鉱塊を含む	良好	明赤橙色 淡赤橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ ヨコナデ〜丹塗り研磨?	鍬先口縁 頭部内面に丹零れ有り			
30	Fig12	82号溝	中層	弥生	壷	30.3 13.5+ a	良質で、比較的多くの微細~石英小砂粒と少量の 石英中~粗砂粒・僅少の 雲母微細・赤鉄鉱塊をを 含む	良好	淡黄橙色	ヨコナデ ヨコナデ〜指頭押圧ナデ	鍬先口縁端に刻み目が、頸部には 幅広のM字凸帯が巡る			
31	Fig12	82号溝	中層	弥生	瓢型	23.3 23.3+ a	やや粗く、多くの細~ 石英小砂粒と少量の 雲母微細を含む	良好	淡黄橙色 明赤橙色	ヨコナデ〜指頭・指先押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ後にハケ目	敏先口縁で頭部に1条、胴部にコ字 凸帯と三角凸帯が 各々1条巡る 胎土的に丹塗りの可能性もある			
32	Fig12	82号溝	中層	弥生	丹塗り 瓢型壷		精良で、多量の細~石 英小砂粒と少量の雲 母・僅少の赤鉄鉱塊を 含む	良好	明赤橙色 朱色	強い指頭押圧ナデ ヨコナデ〜丹塗り研磨	頭部下に1条の三角凸帯、胴部に2 条のコ次凸帯が巡る 外面の丹彩には摩耗による剥離が ある			
33	Fig12	82号溝	中層	弥生	壷	17.6 15.3cm	粗く、多くの細〜石英 中砂粒と雲母微細〜 小粒を含む	良好	淡黄灰色 淡明橙色	ヨコナデ〜指先・指頭黄圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	口縁部端に3条の横凹線が、頸部に は2条のコ字凸帯が巡る 口縁部内唇と頸部下の各々にヘラ 工具先で横描波状文を描く			

# Tab.6 出土土器観察表 3

							1 40.0				
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法量(口径・ 底径·器高)cm	胎 土	焼成	色調(上:内)(下:外)	調整(上:内)(下:外)	備考
34	Fig13	82号溝	中層	弥生	?	11.3+ a	やや粗く、細〜中砂粒を多く含む	良好			ハケ目幅は4~5mmと粗い
35	Fig13	82号溝	中層	弥生	長頸壷	8 17.3+ a	やや粗く、比較的多く の微細~小砂粒と僅 少の雲母微細・粒と赤 鉄鉱小塊を含む	良好	明赤橙色~淡灰黒色 くすんだ淡赤橙色	指頭・指先による押圧ナデ 細かいハケ目	幅2~4cmの縦縞状の黒斑あり
36	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	13.4 7.2~7.6 21.3	良質であるが、細~石 英小砂粒を比較的多 く含む。	良好	淡明黄橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ、下〜上への ヘラケズリ ヨコナデ〜ナデ	外底面はヘラケズリ 淡黒斑あり
37	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	13.3 7.6 26.9	粗く、細~石英中砂粒 を多く含む	良好	明赤橙色	ヨコナデ後にハケ目〜指頭・指先 による押圧ナデ ヨコナデ〜ハケ目	口縁部内唇のハケ目幅は1.5mm、外面は 上半が3mm外面は上半が3mmで上~下 へ、下半は幅が2mmで下~上へ外面には 黒斑を中心に淡黄橙色部あり→2次被熱?
38	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	16.4 22.3+ a	粗く、細~中砂粒の石 英粒を多く含む	良好	淡明橙色	ヨコナデ〜指頭・指先の押圧ナデ ヨコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は約2mmと粗い 淡黒斑あり
39	Fig13	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	18.5 12.5+ a	精良であるが、比較的 多くの細砂粒・雲母と 若干量の石英小砂粒 を含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	頭部内面に丹零れ有り 摩滅顕著 頭部に1条の三角凸帯が巡る
40	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	21.5 25.9+ a	精良であるが、やや多 くの微細〜石英小砂 粒と少量の赤鉄鉱塊 を含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭・指先押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	頭部に1条の三角凸帯が巡る 口頭部の一部にはベンガラ状の顔 料が僅かに付着しており、丹塗り の可能性がある
41	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	14~15.2 19.6+ a	粗く、細~小砂粒を多 く含む	良好	淡白灰色淡黄白褐色 淡赤橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ	頭部に1条の三角凸帯が巡る やや歪 摩滅顕著
42	Fig13	82号溝	中層	弥生	壷	20.1 9 32~33	粗く、細~石英粗砂粒 を多く含む	良好	淡白灰色淡黄白褐色 淡黄白褐色	ヨコナデ〜指頭・指先押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ後のハケ目	上半と下半は接点がないが、調整 や胎土から同一固体か? 胴部外面のハケ目は下半がやや粗 く、上半は細かい
43	Fig14	82号溝	中層	弥生	小型壷	10.1 4.8 8.8	精良で、微細~石英小砂粒と僅少の雲母粒 を含む	良好	明赤橙色 淡明赤橙色~淡黄橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜押圧ナデ〜ハケ目	全体に歪で、底部上の外面には細 かいハケ目
44	Fig14	82号溝	中層	弥生	小型壷	12.4 5.9 9	良質であるが、微細~ 小砂粒を比較的多く 含む	良好	淡明赤橙色 外面の一部は淡褐橙色	ヨコナデ〜ハケ目 指頭・指先に よる押圧ナデ ヨコナデ〜粗いタテハケ目	ハケ目幅は1~1.5mm
45	Figl4	82号溝	中層	弥生	壷	7.8 17.3+ a	良質で、少量の微細~ 細砂粒と僅少の雲母 微細を含む	良好	くすんだ黄灰色 明赤橙色	指頭押圧~ハケ目 ナデ~ハケ目	頸部と胴部の屈曲面に連続する2条の 三角凸帯と胴部にM字凸帯が巡る。ハ ケ目瞩はImm。接点はないが同一個体。 頭部下に1.1×1.3mmの円形浮文を2枚 一対で対称位に貼付ける
46	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷		良質であるが、比較的多 くの微細〜細砂粒と僅 少の石英粗砂粒・雲母微 細を含む	良好	淡明橙色 くすんだ橙色	指頭・指先による押圧ナデ ヨコナデ〜タテハケ目	頭部やや間をおいて2条、胴部下半 に連続 して2条の三角凸帯が巡る 2次被熱による器面の剥落がある
47	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	6.7 14.8+ α	良質で、多くの微細~ 細砂粒と少量の小砂 粒を含む	良好	明赤橙色 くすんだ赤橙色~淡黄橙 色	指頭押圧ナデ 指頭押圧後に細かいハケ目 下 半部は掻き上げ	ハケ目幅は1mmで細かい 底部に黒斑
48	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷?	15.4 7.7~8 22.3	精良であるが、微細~ 小砂粒を多く含む	良好	明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧後に丁寧な 研磨状のナデ ヨコナデ〜やや粗いハケ目	底部は円盤貼付 内面の丁寧な調整に対して外面は 粗い
49	Fig14	82号溝	中層	弥生	丹塗り 壷	6.8 12+ α	精良で、微細〜細砂粒 と雲母微細を比較的 多く含む	良好	淡明白灰色 朱色(素地は淡黄橙色)	指頭押圧ナデ 丹塗り研磨うs	外面は丁寧な研磨 丹塗り痕遺存 底部は上げ底 内外面ともに摩滅 剥落が顕著
50	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	5.6~6 11.3+ a	微細~中砂粒を比較 的多く含む。	良好	明赤橙色 明赤橙色~淡黄橙色	指頭押圧ナデ 押圧後に粗いハケ目	淡黒斑あり
51	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	10 23.3+ a	やや粗く、細砂~小・ 中砂粒を多く含む	良好	明赤橙色 ややくすんだ淡橙色	指頭・指先による押圧ナデ 押圧ナデ後に粗いハケ目	口頭部欠 胴部中位に1条の三角 凸帯が巡る 全体的に調整は粗く、歪みが著しい
52	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	8.8 15+ a	粗く、多くの細~石英 小砂粒と僅少の赤鉄 鉱小塊を含む	良好	淡明白灰色 淡明白灰色~淡橙色	指頭押圧後にヘラ状工具による ナデ上げ ハケ目後に掻上状のナデ	底部上に未完の穿孔有り 内外面ともに摩滅顕著

# Tab.7 出土土器観察表 4

No.	Fig	LL _1 . Yels 3-200	<u></u>			와 티/ H #2		1		T .	
	1 Ig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量( 口 径・ 底径・器高)cm	胎 土	焼成	色調 (上:内) (下:外)	調整(上:内)(下:外)	備考
53	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	8.2 9.4+ a	粗く、多くの微細~小砂粒と少量の雲母微細~小粒を含む	良好	淡灰黄色 淡橙白色	指頭押圧ナデ ハケ目	底部には2.2~3cmの楕円形の穿孔がある ハケ目幅は4mmで下から上へ掻 上げ状に調整 2次被熱による赤変がある
54	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	8.2~8.4 20.3+ a	粗く、多くの細~石英 小・中砂粒と少量の雲 母微細粒を含む	良好	明赤橙色	指頭押圧ナデ 粗いハケ目	ハケ目幅は2~3mm、一単位は約 3cm 外面には2次被熱による赤変あり
55	Fig14	82号溝	中層	弥生	壷	10.4 16.3+ α	精良で、微細〜細砂粒 と僅少の雲母微細を 含む	良好	明赤橙色 淡赤橙色~淡明黄橙色	内底面は押圧ナデナデ?	摩滅顕著 胎土的・形状的に(81: 瓢型壺)と同 一個体か?
56	Fig15	82号溝	中層	弥生	手捏ね 小型甕	8.8 5.4 8.7~8.9	良質で、比較的多くの 微細~石英小砂粒と 僅少の雲母微細を含 む	良好	黒茶色 淡黒茶~明赤橙色	ョコナデ〜指頭押圧ナデ ョコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は1.5~2mm 外面の黒斑下に明赤橙色部あり →2次被熱か?
57	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	12.7 6.8 14.6	粗く、微細〜石英中砂 粒を多く含む	良好	淡灰黒色 淡明橙色	指頭押圧ナデ 粗いハケ目	ハケ目幅は4mmと粗い 底部に黒斑あり
58	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	7.6~8.2 15.5+ a	やや粗く、微細〜石英 中砂粒を比較的多く 含む	良好	淡黄橙色	指頭・指先の押圧ナデ 押圧ナデ後に一部ヘラナデ	底部に黒斑あり
59	Fig15	82号溝	中層	弥生	樽型 甕	20.6 8.3+ α	精良で、多量の細~石 英小砂粒とやや多く の雲母粒・赤鉄鉱粒・ 小塊を含む	良好	淡明赤橙色 淡黄橙色	指頭押圧ナデ	口縁下に1条のコ字凸帯が巡る 器面の摩滅が著しいが、胎土的に 丹塗りの可能性がある
60	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	32.1~33.3 13.1+ a	粗く、微細〜細砂粒と 小〜中砂粒を多く含む	良好	淡黄橙色	ョコナデ〜指頭押圧ナデ ョコナデ〜押圧ナデ後にハケ目	口縁部下7~8cmに大き目のコ字 凸帯が1条巡る ハケ目幅は1.5mmと粗い
61	Fig15	82号溝	中層	弥生	丹塗り 甕	26.6 15+ α	精良で、少量の細~石 英小砂粒を含む	良好	淡明赤橙色 朱色(素地は淡明赤橙色)	ヨコナデ〜ヨコハケ目〜指頭押圧 ナデ後に粗いハケ目 ヨコナデ〜ハケ目後に丹塗り研磨	内面のハケ目幅は4~5mmと粗い が外面は1mmと細かい 接点はないが61の上半部
61	Fig15	82号溝	中層	弥生	丹塗り 甕	8.6 13.3+ a	精良で、少量の細~石 英小砂粒を含む	良好	淡明赤橙色 朱色(素地は淡明赤橙色)	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ後に粗い ハケ目 ヨコナデ〜ハケ目後に丹塗り研磨	内面のハケ目幅は4~5mmと粗い が外面は1mmと細かい 丹の剥落が顕著 接点はないが61の下半部
62	Fig15	82号溝	中層	弥生	小型甕	19 16+ α	良質で、多くの細~石 英小砂粒と僅少の雲 母微細を含む	良好	淡明褐色 くすんだ暗赤褐色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	外面には煤様の黒色物付着
63	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	21.l 9.3 18.5~18.9	良質で、微細〜細砂粒を比較的多く含む	良好	明赤橙色 明赤橙色~ややくすんだ 黄灰色	ヨコナデ〜指頭・指先の押圧ナデ ヨコナデ〜ヘラ状工具によるナ デ上げ〜粗いハケ目	ハケ目幅は4~5mmと粗い 全体的に歪みが著しい
64	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	24 16+ α	良質で、比較的多くの 細~石英小砂粒と僅 少の雲母微細を含む		明赤橙色 くすんだ淡灰黄褐色	ヨコナデ〜押圧後に粗いヘラケ ズリ ヨコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は1.5mm~2mm 胴部には2次被熱による赤変があ る
65	Fig15	82号溝	中層	弥生	甕	19.9 8.6 23.8	良質で、多くの細~小砂粒と微量の赤鉄鉱 塊を含む	良好	淡明黄橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ ヨコナデ〜押圧ナデ	内面には煮沸による炭化物付着 外面には2次被熱による赤変と煤 が付着
66	Fig16	82号溝	中層	弥生	甕	14.8 7.6 18.3	良質で、比較的多くの 微細~石英小砂粒の 外に僅少の.雲母微細 を含む		淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧後にナデ ヨコナデ〜粗いタテハケ目	ハケ目幅は3mmで粗い 外底面は押圧後にナデ
67	Fig16	82号溝	中層	弥生	中型	36.2 23.9+ a	粗く、細~石英粗砂粒 を多く含む	良好	淡黄橙色	ヨコナデ〜指頭・指先の押圧ナデ ヨコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は3~4mmで調整は全体的に粗い 内外面ともに粗い
68	Fig16	82号溝	中層	弥生	斃	7.7~8.2 7+ a	粗く、多くの細~石英 中砂粒と若干の赤鉄 鉱小塊を含む		淡黄橙~淡赤橙色 淡黄桃色	指頭押圧ナデ	底部に外→内への焼成前の穿孔有 り 外面に2次被熱による赤変あり
69	Fig16	82号溝	中層	弥生	斃	9 4.4+ α	粗く、細~中砂粒を多 く含む	良好	濃明赤橙色 明赤橙色	指頭押圧ナデ ナデ後にハケ目	ハケ目幅は1.5~2mmで2次被熱に よる赤変あり 底部には焼成前の穿孔有り 調整粗く、歪
70	Fig16	82号溝	中層	弥生	斃	14.4 13.3+ a	精良で、微細~小砂粒 と雲母・赤鉄鉱塊を含む	良好	淡明黄橙色	ヨコナデ〜ハケ目 指頭押圧ナデ ヨコナデ〜粗いハケ目	ハケ目幅は2mmで一単位は10~ 12本 2次被熱?

# Tab.8 出土土器観察表 5

							1 ab.o		L 工		
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量( 口 径・ 底径・器高)cm	胎土	焼成	色調 (上:内) (下:外)	調整(上:内)(下:外)	備考
	TI 10	00 El 3#		I . Lute	adet	16.4	  粗く、細~石英中砂粒	3. 17	淡黄橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ〜ヘラケズリ	胴部下半に2次被熱による赤変と
71	Fig16	82号溝	中層	古墳	差	28.5+ a	多く含む	良好	淡黄橙~くすんだ淡赤橙 色	ヨコナデ〜ナデ〜ハケ目	煤様の黒色物付着 ハケ目幅は1.5mm∼2mm
						46	良質で、多くの微細~			    ヨコナデ〜押圧後に粗いハケ目	く字口縁下に1状の三角凸帯が巡る
72	Fig16	82号溝	中層	弥生	中型甕		小砂粒・雲母と少量の 石英中砂粒を含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜粗いハケ目	内側のハケ目は1.5~2mmのタテ ハケ目の上に幅4mmの粗いハケ
						23+ a				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	目 外面は2mm 甕棺片
73	Fig16	82号溝	中層	弥生	大型	50.4	良質であるが、比較的多くの微細~細砂粒	良好	明茶橙色	ヨコナデ〜押圧ナデ	口縁部下に1条の三角凸帯が巡る 内外面に煤様の黒色物が薄く付着
	Ü				甕	36+ a	と僅少の小砂粒·赤鉄 塊を含む			ヨコナデ〜ナデ	甕棺用の大甕
					丹塗り	16.6	精良で、微細~小砂粒			押圧後に中心から口縁への放射状 の研磨	
74	Fig17	82号溝	中層	弥生	高坏	8.1+ a	を比較的多く含む	良好	淡桃橙色	ナデ後の丹塗り研磨 脚は縦研磨	内外面ともに丹塗り研磨
						21.6			No. 1. Pro. 4.		内面の研磨は坏底から口縁にむ
75	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り 高坏		精良で、微細砂粒を僅 かに含む	良好	淡赤橙色	ヨコナデ〜押圧後に丹塗り研磨	かって放射状に撫で上げる 丹の剥落は顕著
						4.9+ a			朱色	ヨコナデ〜丹塗り研磨	坏部中位に1条のシャープな三角 凸帯が巡る
76	D: _17	82号溝	中層	弥生	丹塗り	26.6	精良で、微細〜細砂粒	良好	朱色(素地は淡明赤橙色)	ヨコナデ〜ナデ後に丹塗り研磨	口唇部はヨコ研磨、内面は中心か ら口縁にむかって放射状の
10	Fig17	02 与 件	中層	7小生	高坏	7.5+ a	と若お宇佐粒を含む	及如	本色(系地は依明が恒色)	ナデ後に丹塗り研磨	研磨 外面の丹塗り研磨は剥落が著しい
						24+ a				ヨコナデ〜押圧ナデ後に丹塗り	口唇端を欠く
77	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り 高坏		精良で、僅少の細~小 砂粒を含む	良好	朱色(素地は淡黄橙色)	研磨	丹の剥落面に黒色物付着→2次被 熱?
						9.7+ α 40				ヨコナデ〜ナデ後に丹塗り研磨 ヨコナデ〜押圧ナデ、その後に丹	
78	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り	40	精良で、比較的多くの微細~小砂粒の外に少量の乗り燃煙をはない。	良好	朱色 (素地は淡明赤橙色)	塗り研磨	全体的に歪みあり 口唇部と外面 は丹の剥落が顕著 外面の一部に
	Ü				高坏	12.4+ α	の雲母微細赤鉄鉱小塊を含む		(条地は次明亦恒巴)	ヨコナデ〜押圧ナデ、その後に丹 塗り研磨	黒色顔料が遺存→黒色顔料塗布後 に丹塗り研磨か
					丹塗り	30.8	良質で、細~石英小・			坏:ヨコナデ〜指頭押圧ナデ 脚:押圧後に絞り	坏外面には丁寧な丹塗り研磨後に 幅が2mmの暗文を2~4mm間隔で
79	Fig17	82号溝	中層	弥生	高坏	14.5+ a	中砂粒を多く含む	良好	明赤橙色	坏:ヨコナデ〜押圧後に丹塗り研磨	縦方向に施文 摩滅が著しいが坏内外面と脚は丹
						28				ヨコナデ〜押圧ナデ後に丁寧な	塗りの可能性がある
80	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り 高坏		精良で、微細〜細砂粒と少量の雲母微細を	良好	朱色(素地は明赤橙色)	丹塗り研磨	鍬先口縁で脚部欠く 外面の一部に丹彩痕あり→坏~脚 全体が丹塗りの可能性有
						6.2+ a	含む 			ヨコナデ ヨコナデ〜指頭押圧後に丹塗り	主体が月壁りの可能性有
81	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り	32.4	精良で、比較的多くの 細~小砂流と僅少の	良好	朱色	研磨	口縁部にやや歪みあり 摩滅による丹の剥落が顕著
01	11611	02.7 117	1 /8	33.1.	高坏	11+ a	雲母微細・赤鉄鉱小粒 を含む	12.71	(素地は淡赤橙色)	ヨコナデ〜ナデ後にハケ目、その 後丹塗り研磨	
					til iA h	28.3	良質で、比較的多くの			坏:ヨコナデ〜押圧後に放射線状	
82	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り 高坏	18.3 25	細〜石英小砂粒と僅 少の雲母微細・赤鉄鉱 塊を含む	良好	朱色(素地は淡明赤橙色)	の研磨 	脚端部は凹線状に窪む
						25	985 8 8			坏:ナデ	
83	Fig17	82号溝	中層	弥生	高坏		精良で、赤鉄鉱塊を比 較的多く含む	良好	濃明橙色	脚:左上~右下への絞り	
						8.6+ a				坏:ヨコナデ 脚:ヨコナデ	
84	Fig17	82号溝	中層	弥生	丹塗り		精良で若干量の微細 砂粒と僅少の赤鉄鉱	自杯	田総名	脚: 指頭押圧ナデ〜押圧ナデ	脚の開き方から台付壷の可能性あ り
04	1.1811	04 ケ件	丁/唱	7小生	高坏	8.4+ a	塊を含む	及灯	'27位 [	PPP・1日級(3年)上 ノ / 二寸半上 ノ ブ	摩滅が著しいが、外面に丹彩痕が あり、丹塗りの可能性もあり得る
							the sky and the same		坏:淡黑灰色	坏:押圧ナデ	Ble Lytra
85	Fig17	82号溝	中層	弥生	高坏	10.4	精良で、微細〜細砂粒 雲母微細を少量含む	良好	坏:淡明橙色 	脚:指頭押圧ナデ〜ナデ	脚上半にヘラ工具によるヨコ凹線 を9~10本線刻(山陰系か?)
						8+ a			淡明橙色	脚:ナデ〜ハケ目	
86	Fig18	82号溝	中層	弥生	丹塗り 筒形器台		精良で、少量の微細~ 細砂粒を含む	良好	淡明赤橙色	  ヨコナデ〜指頭押圧ナデ  ヨコナデ〜研磨	鍔下に目幅が1mmの細かい暗文 を施文
					同心能口		/mm1977生で 占 U			ココノノ 一明店	鍔端部は横凹線状に窪む
					丹塗り		精良で、微細〜細砂粒		淡黄橙色	指頭・指先による押圧ナデ 筒部は絞り	受け部・脚裾は欠損
87	Fig18	82号溝	中層	弥生	筒形器台	48+ α	を含む	良好	朱色(丹塗り)	ナデ後に、丁寧な丹塗り研磨	鍔下に2条のM字凸帯が巡る 丹の剥落が著しい
						-0 · u	株白元 徳伽 - 伽ひむ		冰田未發名		研磨は幅が4mm程のヘラ先工具
88	Fig18	82号溝	中層	弥生	丹塗り 筒形器台		精良で、微細〜細砂粒 の外に若干の雲母微 細を含む	良好	淡明赤橙色     朱色	指頭・指先の押圧ナデ ココ〜タテの丹塗り研磨	で丁寧に研磨  摩滅による器面の剥落が著しいが  整形・調整とも丁寧
						30.6+ a	THE COU			ココニテテジ川至り御店	整形・調整とも「寧 鍔内面に丹零れ有り 脚裾に焼成前の穿孔が2孔ある→
89	Fig18	82号溝	中層	弥牛	高坏	11.3	精良で、微細砂粒僅か	良好	淡黄橙色~淡黄灰色	ナデ	等間隔に5~6孔か? 円孔から底部にヘラ先状工具によ
	510	~3 J IIT		.,		2.2+ a	に含む	-22,		ナデ	る「ヒゲ」状の暗文を描く
_											

# Tab.9 出土土器観察表 6

							1 ab.9	Щ.	上土		
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量(口径・ 底径・器高)cm	胎土	焼成	色調(上:内)(下:外)	調整 (上:内) (下:外)	備考
90	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	11.2 13~13.2 16.3	や料く、比較的多く の微細~石英小砂粒 と少量の雲母微細を 含む	良好	明赤橙色淡黄橙色	ヨコナデ〜指先押圧ナデ ハケ目 ヨコナデ〜指頭押圧後にハケ目	内面にはヘラ状工具によるナデ痕 やハケ目が残る ハケ目幅は2.5~3mm粗い
91	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	12.8 14.8 18	精良であるが、比較的 多くの微細〜小砂粒 と僅少の雲母微細を 含む	良好	淡橙白色 淡黄橙色	ョコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ ョコナデ〜ハケ目	摩滅著しいがハケ目幅は2mmと 粗い 口縁部に赤変あり→2次被熱か?
92	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	14.2 18.2+ a	組く、多くの微細〜石 英中砂粒と少量の雲 母微細を含む	良好	淡黄橙色	ョコナデ〜搾り後に指頭・指先に よる押圧ナデ ョコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は1~1.5mmで粗い 外面には2次被熱による赤変と淡 黒斑がある 支脚に転用か?
93	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	10.5 10.9~11.3 10.1~10.4	粗く、多量の細~中砂 粒と僅少の雲母微細 を含む	良好	淡明赤橙色	指頭・指先による押圧ナデ 脚裾 はナデ後にハケ目 指頭押圧後にやや粗いタテハケ目	ハケ目幅は1.5~2mmと粗い 歪み顕著 整形:調整とも粗い
94	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	7.5 8.3 10.1	やや粗く、比較的多く の細~小砂粒と若干 量の雲母微細を含む	良好	淡明赤橙色 淡黄橙色	ヨコナデ〜ヘラ状工具によるナ デ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜指頭押圧ナデ	上縁は小さく内傾し、その内傾面 や裾には2次被熱に よる赤変あり→支脚に転用? 歪みで整形・調整はやや粗い
95	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	6.8 8.3 13.2~13.5	良質であるが、微細〜 小砂粒を比較的多く 含む	良好	淡明赤橙色	ナデ〜指頭押圧ナデ〜絞り 指頭押圧ナデ	上縁部は小さく内傾する→支脚に 転用? 器台中心の穿孔は1.4~1.6cmの三 角形状の棒状工具を使用 調整・整形は粗い
96	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	7.6 8.1 14	良質であるが、細〜石 英粗砂粒を多く含む	良好	淡明黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	整形・調整ともに粗い
97	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	9.9 9.6 14.8~15.1	良質で、多くの微細砂と少量の石英小砂粒・ 雲母微細・赤鉄鉱塊を 含む	良好	ややくすんだ淡橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ 絞り ヨコナデ〜指頭押圧ナデ	全体的に歪みが著しく仕上げは粗い 上縁は内傾が顕著で支脚に転用か?
98	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	10.2 11.1 16~16.5	粗く、多くの細〜石英 中砂粒と少量の雲母 微細・赤鉄鉱塊を含む	良好	明赤橙色	指頭押圧ナデ 受け部・裾部端は ヨコナデ 指頭・指先による押圧ナデ 受け 部・裾部端はヨコナデ	上縁は小さく内傾し、口縁内と内 傾面に2次被熱に よる赤変あり→支脚に転用? 外面に籾圧痕あり
99	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	10.8 13.2 16.5	粗く、多くの細〜石英 小砂粒と僅少の雲母 微細を含む	良好	淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭・指先による押圧ナデ	上縁は小さく傾き、2次被熱による 赤変あり →支脚に転用? 調整・整形は粗い
100	Fig18	82号溝	中層	弥生	器台	10.4 8.4+ a	良質で、微細~小砂粒を比較的多く含む	未焼成	くすんだ灰黒色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	
101	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台(支脚?)	11.6 12.4~12.8 16.4~17.1	粗く、多くの微細〜細砂と石英小・中砂粒の外に僅少の赤鉄鉱粒を含む	良好	上半: 明赤橙色 下半: くすんだ黄橙色	指頭〜指先の押圧ナデ 指頭〜指先の押圧ナデ	調整は粗く、器面の凹凸が顕著 上半部に2次被熱による赤変があ る 全体に歪
102	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	10.4 12.5 17	良質で、微細~小砂粒を含む	良好	淡明黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭・指先による押圧ナデ	上下両縁の片側に2次被熱による 赤変あり →支脚に転用?
103	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	10.1 12.5~13.7 16.5	・良質で、多量の微細〜 細砂粒と少量の石英 小砂と雲母粒を含む	良好	淡黄橙色 ややくすんだ淡黄橙色	指先による押圧ナデ〜絞り 粗い指頭押圧ナデ	上縁は内傾し、その面には2次被熱 による赤変あり →支脚に転用?
104	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	9.4 11.1~11.6 16.9~17.3	良質で、多くの細〜小砂粒と比較的多くの 雲母微細を含む		淡明橙色 ややくすんだ黄橙色	指頭・指先による押圧ナデ ヨコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ	上縁は小さく内傾し、2次被熱による赤変がある →支脚に転用? 整形・調整ともに粗い
105	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	9 10.6 17.2~17.7	粗く、多量の細〜石英 中砂粒と僅少の雲母 微細・赤鉄鉱塊を含む		明赤橙色	指頭押圧ナデ〜絞り 指頭・指先による押圧ナデ	上縁は小さく内傾し、口縁と底部 の内傾側に2次 被熱による赤変あり→支脚に転 用?
106	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	8.9 11.6 15.2~15.7	粗く、多くの微細〜小砂粒の外に僅少の.雲 母微細・粒を含む	良好	淡明黄橙色	ョコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ〜ョコナデ ョコナデ〜指頭押圧ナデ	受け部は内傾し、その内傾面に2次 被熱による赤変 →支脚に転用?
107	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	9.8 12.5 16.2~16.8	粗く、多量の細〜石英 小砂粒と少量の雲母 微細を含む		ややくすんだ淡橙色 淡黄橙色	粗い指頭押圧ナデ 上下唇はヨコナデ 粗い指頭押圧ナデ 上下唇はヨコナデ	上縁は小さく内傾し、内傾側に2次 被熱による赤変 →支脚に転用?
108	Fig19	82号溝	中層	弥生	器台	9.4 10.7~11 17	良質であるが、微細〜 小砂粒を比較的多く 含む	良好	淡黄橙色	ココナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ	片側面に2次被熱による赤変がある→支脚に転用? 整形・調整ともに粗い
					*		*				·

# Tab.10 出土土器観察表7

出土遺構 82号講 82号講 82号講 82号講 82号講 82号講	中層中層中層中層中層	時代           弥生           弥生           弥生           弥生           弥生	器台	法量(口径· 底径·器高)cm 7.9 9.4 13.4~14.7 10~10.6 16.2+ a 9.2~9.6 13.6+ a 4.8~5 3.7~4 4.5 5.8~6.2 3.6~4 5.1 7.6~8.2	胎 土 良質で軟的多く含む外 を比少量の 含む 良質で、微細~細砂を 良質で、微細~細砂を 食む 良質で、微細~細砂を 食物・一、微細・一、 食質母砂 良質の 食物・一、 大変なの と 生変なの と し と 生変なの と し と し と し と し と し と し と し と し と し と	良好良好		調整 (上:內) (下:外) 指頭・指先の押圧ナデ 指頭・指先による押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	備 考  上縁は内質が顕著で、2字被熱による赤変有り →支脚に転用? 極めて歪である 一部に2次被熱による赤変がある →支脚に転用? 全体的に歪みが顕著で整形・調整ともに粗い  外面には2次被熱による淡い黒斑あり 歪み著しい 調整は粗い 支脚に転用?
82号溝 82号溝 82号溝 82号溝 82号溝	中層中層中層中層	<ul><li>弥生</li><li>弥生</li><li>弥生</li></ul>	器 器 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢	9.4 13.4~14.7 10~10.6 16.2+ α 9.2~9.6 13.6+ α 4.8~5 3.7~4 4.5 5.8~6.2 3.6~4 5.1 7.6~8.2	を比較的多く含物を含された。 と比較のの要けで、微細や神のでは、微細を含む。 良質で、微細・赤針のでは、微細・赤針ので、微細・赤針のでは、一、大変を含む。 良質の変性である。 良性の変性ののであるが、に石実のである。 と変けである。 はないのである。 はないのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、また。 をは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、多くのでは、また。	良好良好	ややくすんだ淡黄橙褐色 くすんだ淡黄橙色 淡明橙色	指頭・指先による押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	る赤変有り 一支脚に転用? 極めて歪である 一部に2次被熱による赤変がある 一意に2次で表が表が表が表が表ができる。 一部に2次で表がある 一部に2次で表がある。 一部にを2次で表がある。 一部にを2次で表がある。 一部にを2次で表がある。 一部にを2次で表がある。 一部には2次で表がある。 一部には2次で表がある。 一部には2次で表がある。 一部には2次で表がある。 一部を2次で表がある。 「記述されば、1000では、1000で
82号溝 82号溝 82号溝 82号溝	中層中層中層中層	弥生 弥生 弥生	器 手ミア 禁 キミア 禁 キミア 禁 キミア 禁 キミア 禁 キミア な ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	16.2+ a  9.2~9.6  13.6+ a  4.8~5  3.7~4  4.5  5.8~6.2  3.6~4  5.1  7.6~8.2	石英小・粗砂粒と雲母 微細を含む 良質で、微細~中砂粒鬼 と雲母微細・赤鉄鉱塊 を含む 良質であるが、比較的中砂粒と僅少の雲母機細を含む 粗く、多くの微細を含む	良好	くすんだ淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	→支脚に転用? 全体的に歪みが顕著で整形・調整 ともに粗い 外面には2次被熱による淡い黒斑 あり 歪み著しい 調整は粗い 支脚に転用? 口縁部は直口して立ち上がる
82号溝 82号溝 82号溝 82号溝	中層中層中層	弥生	手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア鉢 手ミア ガーカー カース	13.6+ a 4.8~5 3.7~4 4.5 5.8~6.2 3.6~4 5.1 7.6~8.2	と雲母微細・赤鉄鉱塊 を含む 良質であるが、比較的 多くの微細・石雲母微細を含む 粗く、多くの微細 一 石 英小砂粒と雲母微	良好	<b>淡明橙色</b>	指頭押圧ナデ	あり 歪み著しい 調整は粗い 支脚に転用? 口縁部は直口して立ち上がる
82号溝 82号溝 82号溝	中層中層中層	弥生	ミア鉢 手ミア鉢 担ニ セ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3.7~4 4.5 5.8~6.2 3.6~4 5.1 7.6~8.2	多くの微細〜石英中 砂粒と僅少の雲母微 細を含む 粗く、多くの微細〜石 英小砂粒と雲母微細				
82号溝	中層	弥生	ミニチュ	3.6~4 5.1 7.6~8.2	英小砂粒と雲母微細	良好			
82号溝	中層		ミニチュ ア 鉢				淡明赤橙色 淡橙色~淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	器肉は厚く、整形・調整とのに粗い
		弥生	<b>毛</b> 坦	4.2	良質であるが、比較的 多くの微細〜小砂粒 と僅少の雲母微細を 含む	良好	濃赤橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	口唇部はナデ 調整は粗い 化粧土塗布
82号溝			ナ <u>控</u> ミニチュ ア 鉢	4.6 2.5 2.5~2.9	良質であるが比較的 多くの細~小砂粒を 含む	良好	明赤橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	
	中層	弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	5.9 2.2 5	良質で、微細~小砂粒 と雲母微細を含む	良好	淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	口縁部は内弯ぎみに立ち上がる 整形・調整は粗い
82号溝	中層	弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	6.9 3 4.1	良質で、微細〜細砂粒 と雲母微細・赤鉄鉱塊 を僅かに含む	良好	淡橙色~明赤橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ後にハケ目	口縁部はく字状をなし、ヨコナデ 化粧土塗布 ハケ目幅は約1.5mmよ粗い
82号溝	中層	弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	7.9 4.6 5.9	良質で、比較的多くの 微細〜細砂粒を含む	良好	くすんだ淡黄橙色 淡橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	口縁部はストレートの外反 整形・調整は粗い
82号溝	中層	弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	7.5 2.5~2.9 5.9	良質であるが、比較的 多くの微細〜細砂粒 と僅少の雲母微細を 含む	良好	淡明橙色 淡黑灰色~淡明橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ後に一部ハケ目	口縁部はストレートに外反 ハケ目幅は2mmで粗い
82号溝	中層	弥生	手捏ね 小型鉢	11.5 5 7.5	良質であるが、比較的 多くの細~石英中砂 粒と僅少の雲母粒を 含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	調整は粗い
82号溝	中層	弥生	小型鉢	12 6 8.7	良質で、比較的多くの 細~小砂粒と少量の 雲母微細を含む	良好	淡明橙色	ヨコナデ〜指頭押圧後に掻上げ 状のナデ上げ ヨコナデ〜掻上げ状の粗いナデ 上げ	内外面ともに調整は粗い 黒斑あり
82号溝	中層	弥生	手捏 小型甕	10.8 4.4 7.4	粗く、細~石英中砂粒 を多く含む	良好	濃赤橙色	指頭押圧ナデ ヨコナデ〜押圧ナデ後にハケ目	ハケ目幅は3mmで調整も粗く、内 面の押圧痕も明瞭に遺存 整形・調整ともに粗く摩滅著しい
82号溝	中層	弥生	手捏ね 小型鉢	12.3 5.6+ a	粗く、細~石英中砂粒 を多く含む	良好	濃赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜指頭押圧ナデ	
82号溝	中層	弥生	手捏 小型鉢	10.8 4.2~4.6 5	やや粗く、細〜石英小 砂粒を多く含む	良好	明赤橙色内面には淡黄橙色部あり	指頭押圧ナデ 押圧後にナデ	全体に歪みが顕著
82号溝	中層	弥生	鉢 (碗?)	14.7	精良で、微細~石英小砂粒と雲母微細・粒を 比較的多く含む	良好	淡明赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ハケ目	口頭部内面に黒色物付着→2次被 熱?
	中層	弥生	手捏ね 浅鉢 (碗?)	12.4 5.5~5.8	精緻	良好	淡黄橙色	ヨコナデ〜押圧後に研磨状の丁 寧なナデ ヨコナデ〜ナデ後にハケ目	ハケ目幅は1.5~2mmとやや粗い 外面口縁下に淡黒斑
82号溝		弥生	鉢	13	精良	良好	明橙色	ヨコナデ〜ナデ ヨコナデ〜ナデ	内底面はハケ目状工具によるヨコ ナデ
	82号溝82号溝82号溝	82号溝     中層       82号溝     中層       82号溝     中層	82号溝     中層     弥生       82号溝     中層     弥生       82号溝     中層     弥生       82号溝     中層     弥生	82号溝     中層     弥生     手捏ね小型鉢       82号溝     中層     弥生     手捏 小型鉢       82号溝     中層     弥生     鉢(碗?)       82号溝     中層     弥生     表達な(碗?)	82号溝     中層     弥生     手捏 小型薬     108 44 7.4       82号溝     中層     弥生     手捏 小型鉢     123 5.6+ a       82号溝     中層     弥生     手捏 小型鉢     42~4.6 5       82号溝     中層     弥生     44.7       82号溝     中層     弥生     10.7 10.7       82号溝     中層     弥生     手捏ね 浅鉢 (碗?)     12.4       82号溝     中層     弥生     4.5       82号溝     中層     弥生     4.5       82号溝     中層     弥生     4.5	82号漢   中層   弥生   手捏	82号  中	82号溝 中層   弥生   手捏	108

# Tab.11 出土土器観察表 8

_							1 40.11				
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器種	法 量(口 径・ 底径・器高)cm	胎土	焼成	色調(上:内)(下:外)	調整(上:内)(下:外)	備考
128	Fig20	82号溝	中層	弥生	浅鉢	11.8 10 5.1	精良であるが、比較的 多くの微細〜細砂粒 と雲母微細を僅かに 含む	良好	淡赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	外面のナデは粗くハケ目状をなす 底部は上げ底状
129	Fig20	82号溝	中層	弥生	鉢	14.4 5.4 7.9	良質で、微細~小砂粒 の外に雲母小粒を僅 かに含む	良好	淡灰白褐色 淡橙色	ョコナデ〜指頭押圧ナデ ョコナデ〜押圧ナデ	口縁部は小さく内傾 内外面ともに摩滅顕著
130	Fig20	82号溝	中層	弥生	鉢	16.5~17.4 4.8 11	良質で、多くの微細~ 小砂粒の外に僅少の 雲母微細と赤鉄鉱粒 を含む	良好	淡明橙褐色	ョコナデ〜指頭押圧ナデ ョコナデ〜掻上状の押圧ナデ	口縁部は歪で楕円形をなし、外面には黒斑がある
131	Fig20	82号溝	中層	弥生	鉢	13.6 5.2 12	良質で、比較的多くの 微細~石英小砂粒と 僅少の雲母微細を含む	良好	ややくすんだ赤橙色	ヨコナデ〜指頭押圧後にヘラ工 具によるナデ上げ ヨコナデ〜押圧後に掻き上げ状 のナデ	調整は粗い 外面には煤様の黒色物付着
132	Fig20	82号溝	中層	弥生	鉢	25.8 6.9 17	粗く、多くの細~石英 中砂粒と少量の雲母 微細・赤鉄鉱小粒を含 む	良好	明赤橙色	ヨコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ ヨコナデ〜ハケ目	ハケ目幅は3mm 内外面ともに摩滅顕著
133	Fig20	82号溝	中層	弥生	中型鉢	36 20.4+ a	良質で、比較的多くの 微細〜細砂〜小・中砂 粒と僅少の赤鉄鉱小 塊を含む	良好	淡明黄橙色	ョコナデ〜指頭・指先による押圧 ナデ ョコナデ〜押圧ナデ後にハケ目	く字口縁下に1条の三角凸帯が巡る ハケ目幅は1~1.5mmで調整は粗い 内外面ともに摩滅顕著
134	Fig20	82号溝	中層	弥生	丹塗り? 台付鉢	12 7+ a	やや粗く、細〜石英小・中砂粒を多く含む	良好		ヨコナデ〜指頭押圧ナデ ヨコナデ〜押圧後にナデ上げ	外面口縁部下と台部に丹彩痕あり →丹塗りか?
135	Fig20	82号溝	中層	弥生	手捏 ミニチュ ア 台付甕	5.4 3.5+ a	良質で、多くの細〜石 英小砂粒と若干量の 雲母微細を含む	良好	淡黄橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	台上の器種は不詳
136	Fig20	82号溝	中層	弥生	丹塗り 注口(壷?)		精良で、微細砂量を僅 かに含む	良好	淡赤橙色 朱色	指頭押圧ナデ ナデ後に丹塗り研磨	内面に化粧土塗布
137	Fig20	82号溝	中層	弥生	丹塗り 蓋 (無形壷)	13.8	精良であるが、少量の 微細~小砂粒と赤鉄 鉱塊を含む	良好	淡黄橙色 朱色	押圧ナデ	□縁部端よりやや上に4.5mm径の円孔が 3cmの間をおいて焼成前に穿たれている →2孔が一対で対称位に穿たれていたもの ハケ目は円孔までが天井から口縁へ円孔 からはヨコ方向
138	Fig20	82号溝	中層	弥生	蓋 (無形壷)	16.6 3+ a	良質であるが、比較的 多くの細〜石英小砂 粒と僅少の雲母微細・ 赤鉄鉱片を含む	良好	淡橙色~淡黑灰色 黄橙色	押圧ナデ	口縁部端から1cm上に直径が4~5mmの2 孔を穿ち、約11cm離れた処に円孔の損痕が あるが、対称位とは云い難い 焼成前穿孔 摩滅が著しいが、ハケ目幅は1~2mmとや や粗い
139	Fig20	82号溝	中層	弥生	蓋	33.2 6.6(摘径) 12.5	やや粗く、微細〜石英小・中砂粒を多く含む	良好	淡明橙褐色	ョコナデ〜押圧ナデ後にハケ目 ョコナデ〜ハケ目	摘みはナデ、内面のハケ目は幅が3~4mmと粗い 外面のハケ目幅は1mm余で上~ 下へやや細かい
144	Fig21	82号溝	下層	弥生	瓢型壷	29.6 28.2+ a	精良で、微細〜細砂粒 と少量の雲母・赤鉄鉱 片を含む	良好	明赤橙色	ョコナデ〜丁寧な押圧ナデ ョコナデ〜ナデ?	口唇部に刻み目 器面の摩滅顕著→丹塗りか?
145	Fig21	82号溝	下層	弥生	壷	7.8 12.3+ a	良質で、比較的多くの 微細~小砂粒と僅少 の雲母粒を含む	良好	濃黄橙色くすんだ黄橙色 〜くすんだ赤橙色 くすんだ黄橙色〜くすん だ赤橙色	指頭押圧ナデ 押圧ナデ後にやや粗いハケ目	ハケ目幅は1mm 調整は内外面 ともに粗い 外面には2次被熱による赤変(?)有 り
146	Fig21	82号溝	下層	弥生	壷	8.8 11.5+ a	良質で、比較的多くの 細~石英中砂粒の外 に僅少の雲母微細と 赤鉄鉱小塊を含む	良好	淡黄橙色 淡黄橙色~明赤橙色	指頭・指先による押圧ナデ ナデ後にハケ目 底部はナデ	外面には明赤褐色の化粧土を塗布 ハケ目幅は1mmでやや細かい
147	Fig21	82号溝	下層	弥生	丹塗り? 無頸壷	12.8 8.2+ a	精良であるが、微細〜 細砂粒と雲母微細を 比較的多く含む	良好	淡灰黒色 淡灰黒色~くすんだ淡橙 褐色	ヨコナデ〜押圧ナデ ヨコナデ〜ナデ	口唇部に2孔一対の円孔を対称位 に穿つ 外面の口唇下に丹彩痕があり、丹 塗り無形壷の可能性が大
148	Fig21	82号溝	下層	弥生	甕	19.4 9.7 22.6	良質で、多くの微細〜 細砂粒と石英小・中砂 粒と少量の雲母微細 と赤鉄鉱塊を含む	良好	明赤橙色 くすんだ赤茶褐色	ヨコナデ〜強い指頭押圧ナデ ヨコナデ〜押圧後に掻上げ状の 粗いナデ	2次被熱による赤変と黒斑がある 調整は全体に粗い
149	Fig21	82号溝	下層	弥生	器台	10~10.7 8.6+ a	良質で、微細〜細砂粒 と赤鉄鉱小塊をやや 多く含む	良好	淡黄橙色	ナデ 指頭押圧	整形・調整ともに粗い
150	Fig21	82号溝	下層	弥生	器台	9.4 8.2 9.3	精良で、微細〜細砂粒 と雲母・赤鉄鉱小片を 含む	良好	ややくすんだ橙褐色	指頭・指先による押圧ナデ 絞り 指頭押圧ナデ	全体的に歪み顕著 整形・調整ともに粗い

# Tab.12 出土土器観察表 9

	Tab.12 出土土器觀察表 9										
No.	Fig	出土遺構	層位	時代	器 種	法 量( 口 径・ 底径・器高)cm	胎 土	焼成	色調(上:内)(下:外)	調整 (上:内) (下:外)	備考
151	Fig21	82号溝	下層	弥生	丹塗り 無形壷蓋	13.3~14.4 3.3	良質で、比較的多くの 微細〜石英小・中砂粒 の外に雲母微細を含む	良好	明赤橙色 濃赤色(朱色)	指頭押圧ナデ 外縁は左右へ天井部は口縁部から中央への丹塗り研磨	外縁に二孔一対の穿孔有り 孔は 外から内へ 孔は焼成前に外から内へ 孔内に 丹痕有り
171	Fig30	2号井戸		中世	土鍋	24.4 9+ a	精良で、角閃石を含む	良好	灰褐色~茶褐色	ハケ目 ナデ	ハケ目幅は細かいが、調整は粗い 外面には煤が付着
172	Fig30	2号井戸		中世	土師器小皿	7 1.2+ a	良質で、赤鉄鉱塊と雲 母片を含む	良好	橙色	ナデ	底部は糸切り 摩滅が著しい
173	Fig33	12号井戸		中世	土師器小皿	6.5 4.1 1.8	精良で、少量の雲母微 細を含む	良好	橙色	ナデョコナデ	口唇部~内面に油煙が付着→灯明 皿に転用 底部は糸切り
174	Fig33	12号井戸		中世	土師器小皿	5.7 4.3 1.5	精良で、小砂粒を僅か に含む	良好	淡橙色	ヨコナデ〜ナデ ヨコナデ	口唇部内外に油煙が付着→灯明皿 に転用 底部は糸切り
175	Fig33	12号井戸		中世	土師器小皿	5.2 1.1+ α	精良で、少量の小砂粒 を含む	良好	灰褐色	ナデ	底部は糸切り
176	Fig33	12号井戸		中世	土師器小皿	8 5.7 1.7	精良で、雲母片を含む	良好	灰褐色	ナデ	口唇部内縁に油煙が付着→灯明皿 に転用 底部は糸切り
177	Fig33	12号井戸		中世	手捏 ミニチュ ア 壷	2.2	精良	良好	淡橙色	ナデ	内唇は直口し、調整は丁寧 体部上位に圏線状の細い凹線が巡 る
186	Fig36	63号井戸		中世	蹇 (土師器)	13.8 15.6+ a	やや粗く、細〜小砂粒 を含む	良好	淡橙色~灰褐色	指頭押圧ナデ〜ケズリ状のナデ 上げ ナデ後にハケ目	ハケ目幅は、1.5~2mmと粗い 調整は全体に粗い
187	Fig36	63号井戸		弥生	蹇	10.6 16.8+ a	精良で、中砂粒を含む	良好	灰白色~灰色	押圧~ハケ目・ナデ ハケ目~ナデ	ハケ目幅は1.5~2mmとやや粗い
188	Fig36	63号井戸		中世	蹇 (弥生)	8.6 13+ a	やや粗く、細~小・中砂粒を比較的多く含む	良好	灰白色	押圧ナデ後にハケ目 ナデ〜ハケ目	内外面ともにハケ目は粗く、調整 も粗い 外面に黒斑有り
195	Fig42	81号土坑		中世	青磁皿	9.5 3.4 2.7	精良	堅緻	茶褐色	ヨコナデ	底部はケズリ 底面の4ヶ所に目跡が残る
196	Fig42	81号土坑		中世	土師質 火鉢?	14.4 7.1+ α	精良で少量の小砂粒 を含む	良好	黄橙色	ヨコナデ	外面に煤付着
198	Fig45	3号溝		中世	高坏 (須恵器)	5.5+ a	精良で、少量の調査粒を含む	堅緻	灰色	坏・脚:ナデ 坏:ナデ 脚:ナデ〜カキ目	脚部上半はカキ目調整
199	Fig46	20号溝		中世	土師器小皿	7.5 6.2 1.5	精良であるが、小〜中 砂粒と赤鉄鉱塊を含 む	良好	淡橙色	ナデ	底部は糸切り
200	Fig46	20号溝		中世	土師器 坏	7.6 2.2+ a	精良であるが、少量の 小砂粒と雲母微細を 含む	良好	淡灰褐色	ヨコナデ	底部は糸切り
201	Fig46	20号溝		中世	瓦質 擂り鉢	34.4 19.6 13.8	精良であるが、少量の 小〜中砂粒を含む	良好	淡橙色	ハケ目~ナデ ナデ後に一部ハケ目	ハケ目幅は2~3mmと粗く調整も 粗い 摺面の刻みは幅拡で深い
202	Fig46	20号溝		中世	瓦質 捏鉢	32.6 15.6 12.6	粗く、小〜粗砂粒を含む	良好	橙色	ョコナデ〜押圧ナデ? 指頭押圧ナデ	内面は摩滅が顕著
203	Fig47	Ⅱ区西側		弥生	手捏 ミニチュ ア 鉢	10 3.6 5.9	粗く、小砂粒を含む	良好	黄橙色~橙色	指頭押圧ナデ 指頭押圧ナデ	

# 那珂遺跡群第149次調査出土の中細形銅戈鋳型について

九州大学アジア埋蔵文化財研究センター 田尻 義了

本資料は那珂遺跡第149次調査のSD82溝上層から出土している。共伴土器の時期は弥生時代中期後半で、筒型器台や瓢形土器などが出土している。鋳型が出土したSD82溝は那珂遺跡第149次調査区に近接する第23次調査(下村・荒牧編1992)でSD44溝と報告されている溝と、位置関係や出土遺物の時期、堆積状況から一連の遺構と考えられる(Fig50)。この第23次調査SD44溝からも4点の鋳型が出土しており、第149次調査で出土した中細形銅戈鋳型を位置づけるためにも、それらの鋳型群との検討が必要である。また、付近には那珂遺跡群第114次調査区(吉武2010)が所在し、その調査でも鋳型をはじめとする鋳造関連遺物が出土している。本調査区を含めてこの周辺は那珂遺跡群の中でも鋳型が集中する地区であると捉えられ、付近に青銅器生産施設が存在したと考えられる。

第23次調査のSD44溝から出土した4点の鋳型の3点は、中細形銅戈が彫り込まれており本調査で出土した鋳型と同様である。Fig49-1は身の部分で両面に黒変が観察できる。Fig49-2は樋と脊の部分が鋳型両面に認められ、樋には綾杉文が施されており両面共に黒変している。Fig49-3は鋒部分が両面に彫り込まれた鋳型である。両面とも黒変が認められる。Fig49-4は黒変した鋳型破片であり、製作した製品は不明である。その他、黒変面は認められないが、鋳型を転用したと思われる石英斑岩製の砥石が4点出土している。

第114次調査では7点の鋳型と5点の真土型が出土し報告されている。Fig49-5と6は接合しないが、色調と質感から同一個体の鋳型として報告され、中細形銅戈b類が彫り込まれた鋳型である。鋒の一部に黒変が認められる。鋳型断面は蒲鉾形をしており、裏面の使用は想定できない。Fig49-7は両面に互い違いの方向で銅戈が彫り込まれた鋳型である。両面とも黒変しており、砥石に転用され彫り込みの凹凸が平滑にされている。Fig49-8は銅戈の援と胡が確認できる鋳型である。表面は黒変しており、鋳型の断面形が台形状に広がっているが、裏面は破損しており両面笵であるかどうか判断できない。Fig49-9は中細形銅戈b類と推定される製品が両面に彫り込まれた鋳型である。胡と内の一部が確認でき、第149次調査出土鋳型と残存部位は類似している。両面共に黒変している。Fig49-10は銅矛が彫り込まれていたのではないかと推察される鋳型転用砥石である。銅矛の脊と樋の一部と考えられ、図にあるようにその箇所が黒変している。砥石に転用されているため、彫り込みの凹凸はなだらかにされている。Fig49-11は黒変部が認められるが、製品を推定できない鋳型片である。なお2つの調査区で出土した11点の鋳型は、全て石英斑岩製である。Fig49-12~16までは銅矛の中子である。ハバキ部分に相当する12・13とその他は袋部の中子である。報告では中細形以前の型式に相当するとされている。その他、第114次調査では鉛が付着した取瓶片などが出土しており、近隣に青銅器生産施設の存在が推定できる。

第149次調査出土鋳型は、片面のみに中細形銅戈が彫り込まれた鋳型である。中細形銅戈は1つの 鋳型の両面に彫り込む両面笵がこれまでに10点、片面のみに彫り込みを行う単面笵が第149次調査出 土鋳型を含めて6点出土している。6点の内訳は上述した那珂遺跡第114次調査区出土のFig49-5・ 6(同一個体として1点)と福岡市東区伝八田遺跡出土品の3点、佐賀県櫟ノ木出土鋳型1点であ る。今後、3点と集中している伝八田遺跡出土品と今回の鋳型を含めた那珂遺跡出土の2点の関係を 検討しなければならない。単面笵と両面笵の違いは、製作者達の石材の入手量と相関していると考 えている(田尻ほか2012)。豊富に石材が入手できる際は片面のみの使用を行い、石材が少ない場

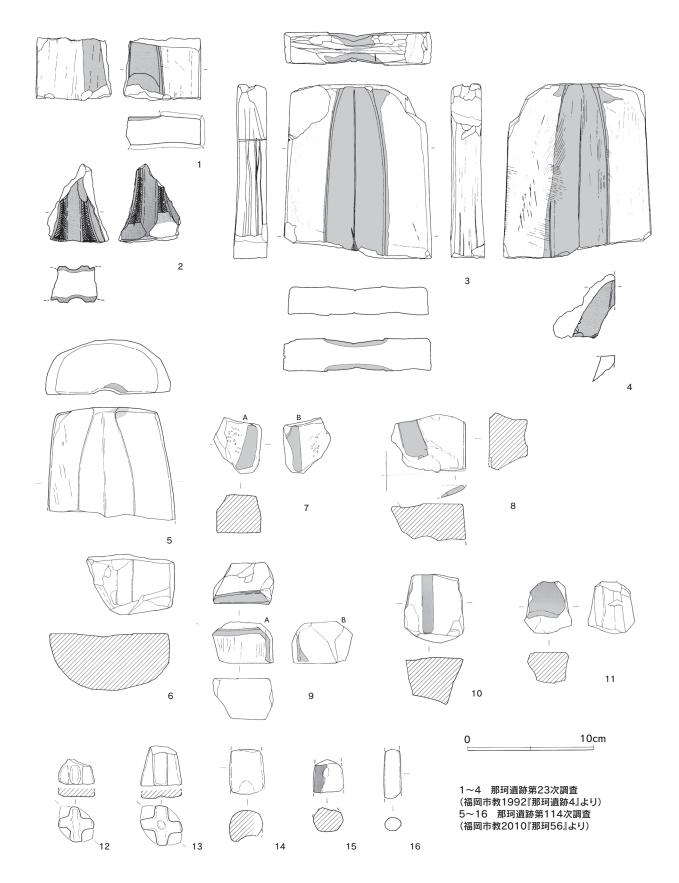


Fig.49 那珂遺跡群第149次調査区周辺出土鋳造関連遺物 (1/3)

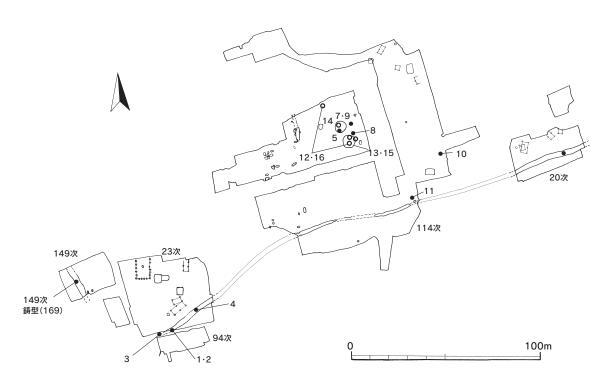


Fig.50 那珂遺跡群第149次調查区周辺出土鋳造関連遺物分布図

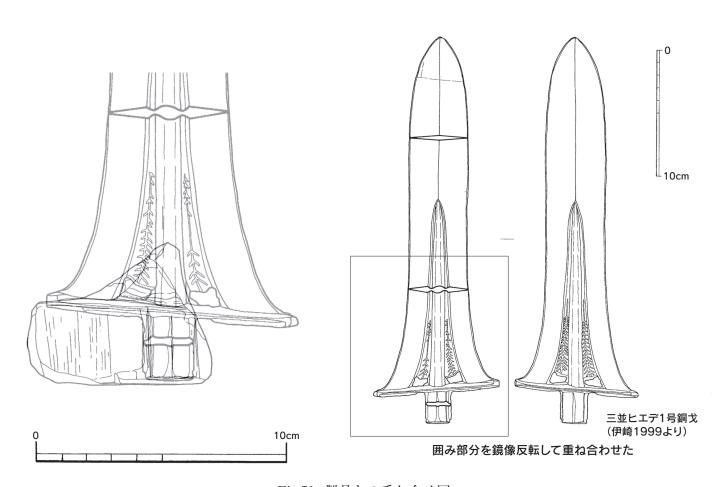


Fig.51 製品との重ね合せ図

合は両面を使用するのであろう。石英斑岩は那珂遺跡から直線距離で約40km以上離れた福岡県八女市を流れる矢部川河原で採取でき、運び込まれている(田尻ほか2012)。那珂遺跡出土の多くの鋳型が両面笵であるのに対し、第114次と第149次の調査で出土した2点のみが中細形銅戈を製作する段階で単面のみを使用しており、興味深い資料である。

第149次調査出土鋳型で製作された中細形銅戈 b 類は、これまでのところ筑前町三並ヒエデで出土した1号銅戈 (伊崎1999) に近い形態である (Fig51)。三並ヒエデ出土1号銅戈は全長30.6cmをはかる完形の中細形銅戈 b 類であり、内の幅や内と胡の角度、胡の残存している長さ、また内の表面に鋳出された1本の突線など、鋳型と製品は複数の箇所で類似している。最終的には鋳型と製品の実物同士の重ね合わせ、また製品と鋳型の三次元データを計測した後にデータ同士の重ね合わせを試みる必要があるが、図面同士の重ね合わせでは類似度が高い。三並ヒエデ遺跡では17本の銅戈が一部互い違いにされ、円筒形土器の中に埋納されていたとされている。また、報告では近接した調査区である那珂遺跡第23次調査SD44溝より、埋納に使用したとされる土器と類似した円筒形土器が出土していることも指摘されている。

したがって、第149次調査で出土した鋳型は、その鋳型で製作された製品、また青銅器生産関連で繋がり近接する第23次調査で出土した土器が、筑前町三並ヒエデ遺跡出土の銅戈や土器との関連を示している。今後、第149次調査周辺では筑後平野との関係を示唆する遺物等について注意深く精査すれば、さらなる展開が期待できよう。また、この調査区周辺では今後も鋳型をはじめとする鋳造関連資料の出土が想定できる。那珂遺跡における青銅器生産の実態把握のためにも、今後の調査が期待される。

#### 参考文献

- ・伊崎俊秋1999「福岡県夜須町出土の銅戈」『甘木歴史資料館報』 1 pp.31-52
- ・田尻義了,足立達朗,中野伸彦,米村和紘,小山内康人,田中良之2012「弥生時代北部九州における鋳型 石材の原産地同定と鋳型素材の加工と流通」『日本考古学』33 pp.95-112.
- ・下村智,荒牧宏行編1992『那珂遺跡4』福岡市埋蔵文化財調査報告書第290集
- ・吉武学2010『那珂56』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1082集

# PLATE



1) Ι区全景 (西から)



2) Ⅱ区全景(北から)



1)65・122号井戸断面(北から)



2)65号井戸遺物出土状況(北から)



3) 122号井戸遺物出土状況(北から)



1)82号溝全景(西から)



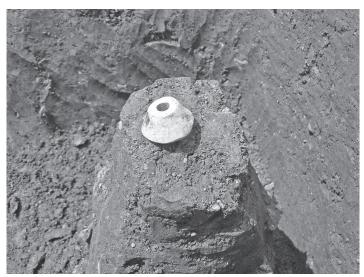
2)82号溝土層断面(南から)



3) 82号溝北端部上層遺物出土状況(西から)



1)82号溝北端部上層遺物出土状況(北から)



2) 82号溝北端部上層紡錘車出土状況(南から)



3)82号溝中層遺物出土状況(南から)



1)82号溝中層遺物出土状況(北から)



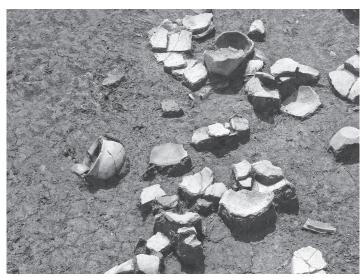
2)82号溝中層遺物出土状況(南から)



3)82号溝中層遺物出土状況(東から)



1)82号溝中層遺物出土状況(東から)



2) 82号溝中層遺物出土状況 (東から)



3)82号溝中層石錘未製品出土状況(南から)



1)8・17号住居(南から)



2) 9・14号住居、11号土坑 (東から)



3) 19号土坑(東から)



1)64号土坑(北から)



2)64号土坑 (東から)



3) 106号土坑 (南から)



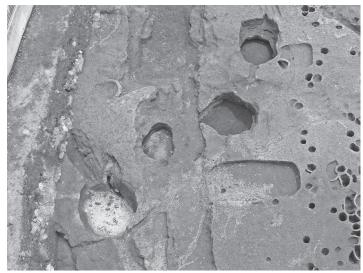
1) 2号井戸 (東から)



2) 2号井戸 (北から)



3) 2号井戸断面(西から)



1) 12・13・63号井戸、15号土坑(北から)



2)12号井戸断面(南から)



3)12号井戸底遺物出土状況(南から)



1)12号井戸底遺物出土状況(南から)



2) 12号井戸ザル出土状況 (南から)



3) 12号井戸鋤・曲げ物出土状況 (東から)



1) 13・63号井戸 (北から)



2) 13号井戸 (北から)



3)13号井戸断面(南から)



1)63号井戸断面(南から)



2) 63号井戸底遺物出土状況(南から)



3) 15号土坑から63号井戸への流水路(南から)



1) 4号土坑 (東から)



2) 11号土坑(西から)



3) 15号土坑(北から)



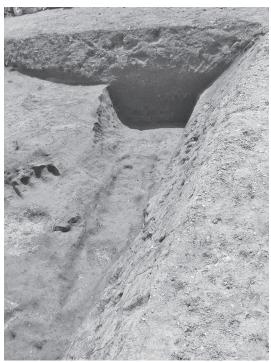
1) 16号土坑 (北から)



2) 25号土坑 (東から)



3)81号土坑(西から)



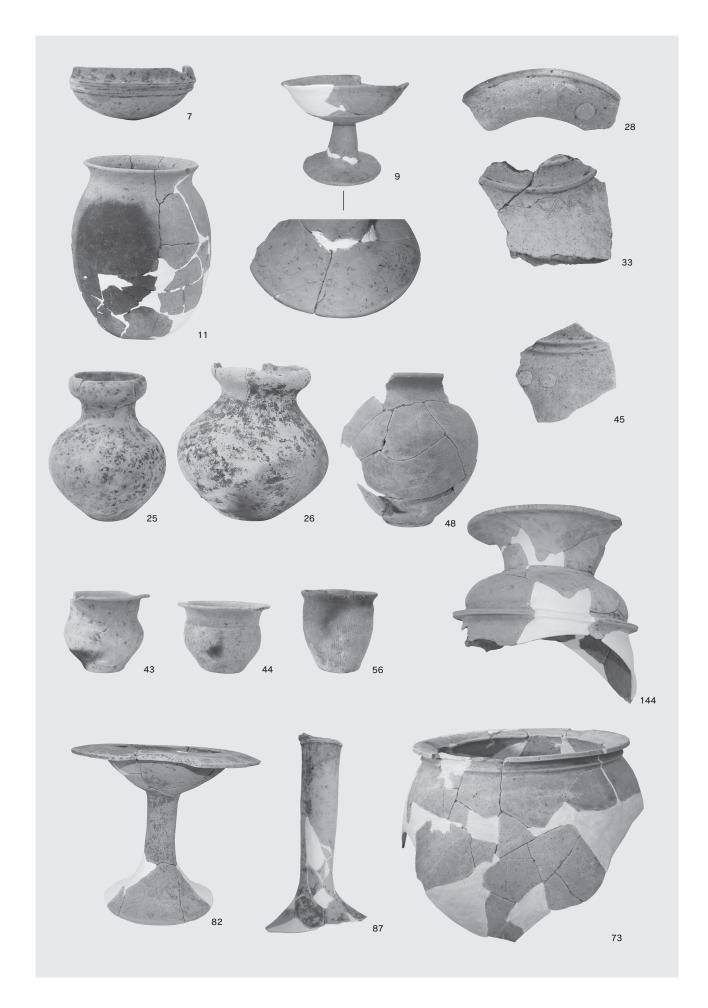
1) 1号溝 (北東から)

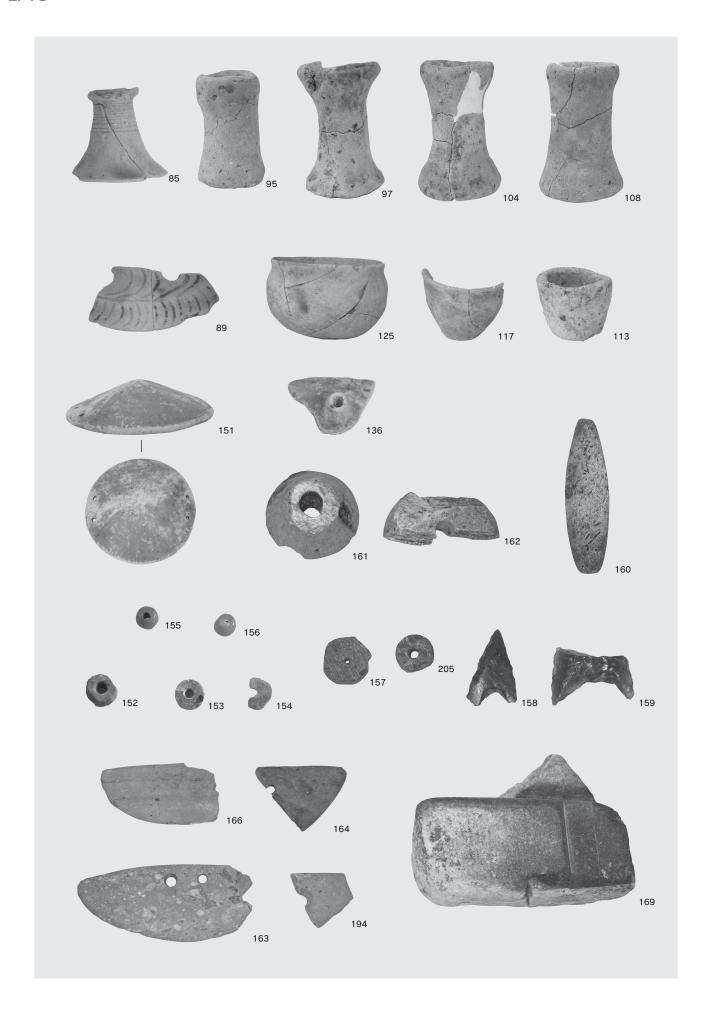


2) 3号溝 (東から)



3) 10・20・21号溝 (東から)





## 報告書抄録

ふりがな	なか								
書 名	那珂 75								
副 書 名	那珂遺跡群第149次調査報告								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第1287集								
編著者名	小林義彦								
編集機関	福岡市教育委員会								
所 在 地	₹810	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2016年 3 月25日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな		コ・	- ド	11. 44.	-t-49	36 TCI 110 BB	発掘面積	<b>₹</b>
	所	在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	m²	発掘原因
那珂遺跡群	ふくおかし福岡市		40100			20140407		記録保存	
だい149 じきょうさ 第149次調査	たけしたご	5ょうめ 290ばん 丁目290番	40130	40130 85	34′ 6″	26′ 4″	20140808	599	調査
所収遺跡名	種別	重別 主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
那珂遺跡群 第149次調査	集落	弥生時代~	中世	竪穴住居 土坑、溝	、井戸、	弥生土器、石器、木器、磁器、青銅器片、 銅戈鋳型			
那珂遺跡群は、福岡平野の西を北流する那珂川の中流域右岸の低丘陵上に立地し、すぐ東には御笠川が北流している。この丘陵は、春日市の奴国王墓とされる須玖岡本遺跡から井尻、五十川、那珂を経て比恵へと延びて博多湾へと続く。第149次調査区は、この那珂丘陵の中央部西縁に位置し、調査区の西縁には、那珂川の氾濫原が広がっている。すぐ東にある第23・114次調査区では、弥生時代中期後半の甕棺墓や竪穴住居、土坑、溝などのほかに古墳時代前期の前方後方墳や方墳と中世の井戸などが検出されている。本調査区では、弥生時代一古墳時代と中世の遺構を検出した。また、中世の遺構は、後期の井戸2基と溝1条のほかに古墳時代初めの竪穴住居3棟と土坑2基を検出した。また、中世の遺構は、井戸4基と土坑10基のほかに溝6条を検出した。このうち中世の井戸は、井戸底までの深さが4mにも及ぶ。遺物は、弥生時代の溝から壷や甕・高坏・器台のほかに銅戈鋳型片や青銅製品片とガラス玉・滑石製臼玉・土錘・石錘・紡錘車などがコンテナ130箱以上と中世の井戸からは竹製ザル・桶・鋤や建築部材などの木製品が出土した。第149次調査では、弥生時代中期末~古墳時代初めの竪穴住居や井戸、溝と中世の井戸など集落に伴う遺構を検出した。このうち弥生時代中期末から後期の溝は、那珂丘陵の西縁に広がる氾濫原の埋土上に掘り込まれた幅が6~7m、深さが2mに及ぶ溝で、東隣の第23次調査区の南縁を東西流する溝に繋がっているものと考えられる。この溝は、更に東の第114・20次調査区へと延び、総延長は320m余に及び、この溝の終焉とその機能の検討は、那珂丘陵における弥生時代の集落域の展開と消長を考える上で貴重な資料となる。									

## 那 珂

-那珂遺跡群第149次調査報告-福岡市埋蔵文化財調査報告第1287集 2016年(平成28年)3月25日

> 発行 福岡市教育委員会 福岡市中央区天神1-8-1

印刷 高松印刷有限会社